



沖縄県薬剤師会報

No.263. 2013(平成25年) 3・4月号



沖縄県薬剤師会

薬剤師倫理規定

平成9年10月 日本薬剤師会改訂

前文

薬剤師は、国民の信託により、日本国憲法及び法令に基づき、医療の担い手の一員として、人権の中でもっとも基本的な個人の生命・健康の保持促進に寄与する責務を担っている。

この責務の根底には生命への畏敬に発する倫理が存在するが、さらに、調剤をはじめ、医薬品の創製から供給、適正な使用に至るまで、確固たる薬の倫理が求められる。

薬剤師が人々の信頼に応え、医療の向上及び公共の福祉の増進に貢献し、薬剤師職能を全うするため、ここに薬剤師倫理規定を制定する。

第1条（任務）

薬剤師は、個人の尊厳の保持と生命の尊重を旨とし、調剤をはじめ、医薬品の供給、その他の薬事衛生をつかさどることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって人々の健康な生活の確保に努める。

第2条（良心と自律）

薬剤師は、常に自らを律し、良心と愛情をもって職能の発揮に努める。

第3条（法令等の遵守）

薬剤師は、薬剤師法、薬事法、医療法、健康保険法、その他関連法規に精通し、これら法令等を遵守する。

第4条（生涯研鑽）

薬剤師は、生涯にわたり高い知識と技能の水準を維持するよう積極的に研鑽するとともに、先人の業績を顕彰し、後進の育成に努める。

第5条（最善尽力義務）

薬剤師は、医療の担い手として、常に同僚及び他の医療関係者等と協力し、医療及び保健、福祉の向上に努め、患者の利益のため職能の最善を尽くす。

第6条（医薬品の安全性等の確保）

薬剤師は、常に医薬品の品質、有効性及び安全性の確保に努める。また、医薬品が適正に使用されるよう、調剤及び医薬品の供給に当たり患者等に十分な説明を行う。

第7条（地域医療への貢献）

薬剤師は、地域医療向上のための施策について、常に率先してその推進に努める。

第8条（職能間の協調）

薬剤師は、広範にわたる薬剤師職能間の相互協調に努めるとともに、他の関係職能をもつ人々と協力して社会に貢献する。

第9条（秘密の保持）

薬剤師は、職務上知り得た患者等の秘密を、正当な理由なく漏らさない。

第10条（品位・信用等の維持）

薬剤師は、その職務遂行にあたって、品位と信用を損なう行為、信義にもとる行為及び医薬品の誤用を招き濫用を助長する行為をしない。

目次

薬剤師倫理規定	一般社団法人への新たなスタートに	神村 武之 (2)
会長あいさつ	第78回臨時時代議員会開催	吉田 洋史 (3)
会務ハイライト	平成24年度第2回地区薬剤師会会長会議報告	糸嶺 達 (6)
意見交換会	FAXコーナー担当者意見交換会報告	池間 記世 (8)
	FAXコーナー担当者意見交換会印象記	各FAXコーナー担当者 (11)
研修会	本島・宮古・八重山地区JPALS説明会紀行	亀谷 浩昌 (16)
	第3回在宅医療に関する講習会報告	山里美恵子 (18)
	平成24年度医療安全講習会報告	吉富 弓江 (20)
寄稿	沖縄県内の薬局・病院訪問を終えて	飯村 康夫 (25)
研修会	平成24年度薬剤師のための一般用医薬品研修会報告	松本 圭五 (26)
	開局委員会主催スキルアップ研修会の開催について	新川 重一 (30)
	平成24年度ゲートキーパー養成研修会報告	草壁 瑞恵 (31)
	第127回禁煙アドバイザー育成講習会in Okinawa報告	伊敷松太郎 (34)
実務実習	平成24年度第Ⅲ期薬学生実務実習報告	我喜屋美香 (36)
	平成24年度薬学生実務実習第Ⅲ期生からの体験記・感想	神山 侑子 (36)
部会だより	平成24年度診療ガイドライン薬剤コース・スクーリング報告	
	前濱朋子・沖山尚美・戸田澄之・石原留美子 (37)	
	女性薬剤師部会主催第12回漢方講座報告	真地千明・宮城幸枝 (42)
	平成24年度日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム参加報告	島袋さゆり (44)
	平成24年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会に参加して	鈴鹿 玲子 (46)
	学校薬剤師について知っていますか? 「薬の正しい使い方」	前濱 朋子 (48)
表彰	平成24年度沖縄県健康教育関係表彰	
	石原英子先生、上原陽子先生、瑞慶山純子先生 おめでとうございます	(49)
部会だより	学校薬剤師部会研修会報告	前濱 朋子 (50)
月例相談会	第107回健康とおくすり相談会報告(那覇地区薬剤師会)	堀場 弘明 (51)
委員会だより	沖縄県医師会のマスコミとの懇談会&RBC i ラジオに出演	宮城 敦子 (52)
寄付	沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式報告	大城 喜仁 (53)
転載記事	交通遺児育成に88万円 県内医療4団体	(53)
投稿	“在宅医療推進のための多職種連携研修会”に参加して	笠原 大吾 (54)
	認知症ケアについて考えてみませんか?	潮平 英郎 (55)
	平成24年度食品の安全・安心意見交換会にコーディネーターとして参加して	笠原 大吾 (56)
D	薬事情報おきなわNo.221	薬事情報センター (57)
I	「残薬」確認 患者と薬剤師 認識に差	(63)
転載記事	あまくま薬立つ情報	(71)
県民の皆様へ	第15回 最初の公式な薬局方	(72)
薬学の歴史	第16回 ロンドンの薬剤師協会	(73)
薬草学	身近な薬草を知ろう 第7回 シークワサー	狩俣 イソ (74)
薬局訪問	はいさい! ふく薬局 名護店	池間 記世 (76)
リレー随筆	私のドライブ	比嘉 仁 (78)
薬連だより	国会レポート~補正予算が成立・来年度政府予算案の審議に~	藤井もとゆき (80)
弔文	吉川敏男先生を悼む	山城 志津 (81)
訃報	吉川敏男先生、新垣善彦先生がご逝去	(81)
理事会	平成24年度第8回定例理事会議事概要	(82)
	平成24年度第9回定例理事会議事概要	(88)
	平成24年度第10回定例理事会議事概要	(92)
	平成24年度第11回定例理事会議事概要	(97)
	平成24年度第12回定例理事会議事概要	(102)
転載記事	沖縄県体育協会出版の海邦スポーツに「ぎふ清流国体へのスポーツファーマシスト帯同記」が掲載	(109)
	佐藤雅美先生が週刊ほ〜むぶらざ「彩職賢美」に紹介される	(110)
	TPP 地方の岐路 県経済への影響「皆保険崩れ 医療格差も」	(112)
	認識にギャップ「残薬確認受けた」24% 薬剤師91%「確認した」	(113)
	在宅医療 連携強化を 中部地区で意見交換会	(114)
	12年度ジェネリック切り替え調査 沖縄 軽減額が全国一	(114)
	精神・在宅医療 柱に 県審議会5年計画承認	(115)
行政通達	手数料の改正について	(116)
会務報告	平成25年2月~3月末日分(沖縄県薬剤師連盟会務報告)	(118)
一包一話	タンメーの話し	橋 の 下 (122)
職員人事	山城英人さんが課長に就任	(123)
新入会員	平成24年度沖縄県薬剤師会新入会員(平成24年10月~平成25年3月末日入会分)	(124)
会員作品	誌上ギャラリー(裏表紙)について	(125)
編集後記		(125)
おしらせ	日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)について	(15)
	県薬が会員に販売している印刷物等	(47)
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について	(81)
	会報原稿募集のご案内	(87)



一般社団法人への 新たなスタートに

沖縄県薬剤師会
会長 神村 武之



この度の公益法人制度改革をうけて、平成25年4月1日より、社団法人から一般社団法人沖縄県薬剤師会へ移行しました。

本会の歴史は、政府機関・主管庁が変わる毎に名称の変更が行われており、その歴史を辿りますと、大正15年10月に沖縄県管轄で沖縄県薬剤師会が創立され、その後は昭和22年沖縄民政府時代に沖縄県薬剤師会、昭和26年沖縄群島政府時代に沖縄群島薬剤師会、昭和29年琉球政府時代に琉球薬剤師会、昭和45年沖縄県薬剤師会に改称、そして昭和47年祖国復帰に伴い、同年12月に沖縄県薬剤師会と成りました。このように、戦前戦後を通し8回におよぶ名称変更が行われてきており、まさに沖縄の歴史の変遷であります。

昭和45年4月2日付で社団法人化され現在に至って居りましたが、今般、国の公益法人制度改革により、平成25年11月30日までに公益法人か一般社団法人かの選択をせざるを得なくなりました。移行申請を行わなければ解散と成る事から、県薬として委員会を設置して検討を行いました。種々の難題があり、弁護士や税理士等の専門家と度重なる協議、相談を行い、今般の一般社団法人へと移行することを決めました。

この節には委員長をはじめ担当理事、委員の皆様には多大成るご苦勞をお掛け致しましたことに御礼を申し上げます。

近年は薬剤師を取り巻く環境が著しく変化しております。薬剤師教育制度が6年制度と成り、その教育を受けた薬剤師が誕生しました。薬剤師職能を確立する重要な時期にあたります。会員が一丸となり、会活動を通して薬剤師職能を発揮し、県民の医療、保健、福祉、介護、公衆衛生の向上に寄与していきたいと思っております。新たなスタートを期に、更なる公益性の高い充実した事業を展開し、社会の期待と要望に応え、薬剤師職能の確立と拡大に務めて参りたいと思っております。

会員の皆様のご理解とご協力、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

会務ハイライト

第78回臨時代議員会開催

日時：平成25年3月24日(日) 13:00～16:30
 会場：沖縄県薬剤師会館 ホール



副会長 吉田 洋史

新垣秀幸理事の司会により開始。

江夏京子常任理事が開会の辞を述べられた。議長に古謝真己宮古支部代議員、副議長に田場英治沖縄支部代議員を選出。代議員37名中過半数の34名の出席を確認し(その後の追加出席で36名)、定数を満たしたので代議員会の成立が宣言された。議事録署名人は西田久浦添支部代議員と國吉みどり宜野湾支部代議員が指名され了承を得た。

神村武之会長あいさつの後、議題へ。

初めに、議案第1号：平成25年度事業計画案を吉田洋史副会長が述べた。4月1日からの一般社団法人への認可移行に関連し、会員は再度入会手続きをすることなく移行できるのかという質疑があった。新定款の附則にも記載されているように、そのとおりであり

退会も届出を出せば自由にできることが確認され、承認された。

次に、山里勇常任理事が、議案第2号：平成25年度会費額に関する件、議案第3号：平成25年度歳入歳出予算案の件、議案第4号：事業計画の範囲における予算の補正についての権限を理事会に委任する件、議案第5号：平成25年度借入金最高限度額承認の件を述べられた。会費に関してはB会員の日本薬剤師会の会費額が2000円減額されるのに、県薬会費が2000円の増額となることに関して質疑があった。県薬から日薬へ納める日薬会費の計算方法に変更があり、実質80万円程の県薬収入減になる。また、日薬会費に関する細かい規定が未だ示されていないため更に負担が増える可能性もあるので、



会長あいさつ



理事・監事席

平成25年度は前年度と同程度の収入を確保するため県薬会費の増額をお願いしたいとの説明があり、討議の結果了承された。また、昨年の総会で承認され、医薬分業推進のための応能負担金から薬剤師職能の向上に関わる事業に使用することになった賛助会員B会費(応能会費)についての会長諮問委員会で、処方せん1枚あたり9円が妥当であろうと検討され、その報告が理事会でも承認された経緯の説明があり、質疑応答の後了承された。

山城志津理事が、第6号議案：一般社団法人移行に係る沖縄県薬剤師会定款及び諸規定等について説明があり、質疑応答後了承された。

野崎真敏選挙管理委員会委員長から、第7号議案：一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則、一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則施行細則、一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員選挙規程について説明があり、了承された。

最後に、議案第8号：一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事の選出について

は、選挙が厳粛に行われた。会長候補者には、大橋得二氏と神村武之氏の2氏の立候補があり、投票による選挙が行われた(詳細は当会ホームページを参照)。結果は、会長候補者に神村武之氏が選出され、監事には大城桂子氏と伊敷幸太郎氏が再選された。

最後に、閉会の辞を亀谷浩昌常任理事から頂き、代議員会は終了した。

日薬の公益法人移行、県薬の一般社団法人への移行予定により、先が少し不透明な部分もあるが、多くの質疑応答により理解を得られ議案全てを了承していただけたものと考えているが、今後は会員へ丁寧な説明をし、理解を求めていく。また、一般社団法人移行後初の5月の総会では、増員された新代議員による代議員制総会が開催される。新たな試みとして代表質問という形で各地区持ち時間を決めて質疑応答を行なっていく予定である。これにより各地区で代議員による代表質問の取りまとめが行われることになるため、更なる代議員の自覚を促し、より活発な討論ができることを期待する。



開会の辞
江夏京子 常任理事



議案第1号
吉田洋史 副会長



議案第2～6号
山里 勇 常任理事



議案第6号
山城志津 理事



閉会の辞
亀谷浩昌 常任理事



司会
新垣秀幸 理事



議長を務めた古謝真己代議員(左)と副議長を務めた田場英治代議員(右)



監事立候補者所信表明
大城桂子氏(左)と伊敷幸太郎氏(右)



会長候補者への立候補者所信表明
大橋得二氏(左)と神村武之氏(右)



議案第7・8号
野崎真敏 選挙管理委員長



選挙管理委員会
左より、藤原明人委員、荻堂盛浩委員、伊禮壽子委員、金城栄一委員



投票 選挙立会人3代議員が管理
左より、大城博次氏、宮良善孝氏、平田明子氏

<第78回臨時代議員会 式次第>

1. 開会の辞 (議長・副議長選出)	司 会 理 事 新垣 秀幸 常任理事 江夏 京子
2. 議長・副議長登壇あいさつ (点呼、宣告、会議録署名人指名)	議 長 古謝 真己 副 議 長 田場 英治 会 長 神村 武之
3. 会長あいさつ	
4. 議題	
議案 第1号 平成25年度事業計画案の件	副 会 長 吉田 洋史
第2号 平成25年度会費額に関する件	常任理事 山里 勇
第3号 平成25年度歳入歳出予算案の件	常任理事 山里 勇
第4号 事業計画の範囲における予算の補正についての 権限を理事会に委任する件	常任理事 山里 勇
第5号 平成25年度借入金最高限度額承認の件	常任理事 山里 勇
第6号 一般社団法人移行に係る社団法人沖縄県 薬剤師会定款及び諸規程等について	理 事 山城 志津
第7号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則 一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則施行細則 一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員選挙規程について	選挙管理委員会委員長 野崎 真敏
第8号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙について	選挙管理委員会委員長 野崎 真敏 常任理事 亀谷 浩昌
5. 閉会の辞	

[第78回通常代議員会出席者]

敬称略

<代 議 員>

- | | | |
|----------------|-----------------|----------------|
| ○友寄 安彦 (名護支部) | ○又吉智賀子 (首里支部) | ※大城 博次 (浦添支部) |
| ○照屋 林現 (具志川支部) | ○磯 昭子 (那覇東支部) | ○武富 弘記 (浦添支部) |
| ○崎山 慶子 (具志川支部) | ○戸田 澄之 (那覇東支部) | ◎西田 久 (浦添支部) |
| ○石垣 満子 (沖縄支部) | ○真崎しのぶ (那覇東支部) | ○屋良 朝昇 (浦添支部) |
| ★田場 英治 (沖縄支部) | ○諸見川裕子 (那覇東支部) | ○荒井 千春 (糸満支部) |
| ○仲井間 清 (沖縄支部) | ○伊是名秀平 (那覇北支部) | ○玉寄 睦子 (糸満支部) |
| ※平田 明子 (沖縄支部) | ○島田 貴子 (那覇北支部) | ○吉田 光江 (糸満支部) |
| ○玉城 武範 (沖縄支部) | ○川満 直紀 (那覇中央支部) | ○上原 陽子 (南風原支部) |
| ○吉田 龍介 (嘉手納支部) | ○島袋 律子 (那覇中央支部) | ○川上 善久 (南風原支部) |
| ○新川 祥平 (宜野湾支部) | ○鈴木 一徳 (那覇中央支部) | ○金城 政美 (南風原支部) |
| ◎國吉みどり (宜野湾支部) | ○吉田 安樹 (那覇中央支部) | ☆古謝 真己 (平良支部) |
| ○與那嶺朝子 (宜野湾支部) | ○國吉 直子 (小禄支部) | ※宮良 善孝 (石垣支部) |

☆：議長、★：副議長、◎：議事録署名人、※選挙立会人

<選挙管理委員会>

- 野崎 真敏 (委員長) ○金城 栄一 ○伊禮 壽子 ○荻堂 盛浩 ○藤原 明人

<理事・監事>

- | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|
| ○神村 武之(会長) | ○吉田 洋史(副会長) | ○亀谷 浩昌(学術担当) |
| ○江夏 京子(常任理事) | ○山里 勇(常任理事) | ○山城 志津(法務担当) |
| ○池宮恵美子(北部地区代表) | ○姫野 耕一(那覇地区代表) | ○新垣 秀幸(南部地区代表) |
| ○下地 仁(宮古地区代表) | ○荒谷 敏巳(八重山地区代表) | ○宮里 直(保険薬局部会代表) |
| ○前濱 朋子(学薬部会代表) | ○糸嶺 達(病薬部会代表) | ○宮城 敦子(広報担当) |
| ○笠原 大吾(保健福祉担当) | ○我喜屋美香(実務実習担当) | |
| ○大城 桂子(監事) | ○伊敷幸太郎(監事) | |

会務ハイライト

平成24年度第2回地区薬剤師会会長会議報告

日時：平成25年2月2日(土) 19:00～21:00

会場：沖縄県薬剤師会 研修室



理事
糸嶺 達

平成24年度第2回地区薬剤師会会長会議が2月2日(土)に沖縄県薬剤師会館の研修室にて、各地区会長等の出席のもと、神村会長の挨拶で始まった。

次の(1)～(5)の報告と各地区薬剤師会からの協議事項が次第に沿って説明された。

<報告>

(1) 一般社団法人移行について

総務私学課、薬務疾病対策課と協議し、本年4月1日付けで一般社団法人に移行するよう調整している。

(2) 日本薬剤師会会費徴収方法について

日本薬剤師会が平成24年4月1日をもって公益社団法人へ移行したことに伴い、平成25年度より会費の納入方法を都道府県薬剤師会への賦課方法から、会員が県薬を経由して本会に会費を納入していただく方法(名簿管理方式)に変更する。

(3) 次期理事選任について

平成24年度第8回定例理事会(平成

24年11月17日開催)で決議された理事候補選出要綱では、「会長候補以外の理事候補については六地区薬剤師会及び各職種部会から各1人を理事候補として推薦することができる」となっているが、「各職種部会」とは具体的にどの部会をさすのかとの質問があり、選挙管理委員会、理事会で再度検討する事となった。

(4) 第80回臨時代議員会

平成25年3月24日(日) 13:00～
第68回総会

平成25年5月26日(日) 13:00～

(5) 県薬会館利用について

例年6、7月にかけて、各地区・部会の総会が開催されているが、県薬会館を会場として使用する場合、事務局に早めに申し込んでいただきたい。もし、開催日が重複した場合は、申請者同士で調整していただく事になるので、ご協力をお願いしたい。

(6) その他

＜協議＞

1. 支部活動費について

平成24年度の支部活動予算は、支部活動基本金（30万円）に応能会費の徴収率を加えて算出してきた。今後は、支部活動基本金を40万円に増額し、県薬会費の構成比率で算出した額を加えて支部活動費に充てたいとの意見がだされ、財務委員会に諮問する事になった。

2. その他

① 開局委員会主催のスキルアップ研修会を八重山地区でも開催出来ないか？

一般用医薬品のインターネット販売を行う事業者が、第一類・第二類医薬品の郵便

等販売を行う権利の確認を求めた裁判について、厚生労働省令で一律に第一類・第二類医薬品の郵便等販売を禁止していることは、薬事法の委任の範囲内と認めることはできないとする旨の最高裁判所の判決が下された。このため、従来の規制に代わる一般用医薬品のインターネット販売等についての新しいルール等を検討する検討会が開催される事になっている。

② 那覇地区薬剤師会法人化設立総会を2月16日（土）に開催。那覇市の中核市移行に伴い、浦添市は南部福祉保健所の管轄になるが、浦添支部は現状のまま那覇地区として活動を継続する。



＜平成24年度第2回地区薬剤師会会長会議出席者＞

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ○ 神村 武之（沖縄県薬剤師会会長） | ○ 宇野 司（沖縄県薬剤師会副会長） |
| ○ 吉田 洋史（沖縄県薬剤師会副会長） | ○ 江夏 京子（沖縄県薬剤師会常任理事） |
| ○ 亀谷 浩昌（沖縄県薬剤師会常任理事） | ○ 山里 勇（沖縄県薬剤師会常任理事） |
| ○ 糸嶺 達（沖縄県薬剤師会理事） | ○ 大橋 得二（北部地区薬剤師会会長） |
| ○ 成川 賢一（北部地区薬剤師会副会長） | ○ 仲座 方利（中部地区薬剤師会副会長） |
| ○ 姫野 耕一（那覇地区薬剤師会副会長） | ○ 新垣 秀幸（南部地区薬剤師会会長） |
| ○ 川上 善久（南部地区薬剤師会副会長） | ○ 川満 正啓（宮古地区薬剤師会会長） |
| ○ 山城 専（八重山地区薬剤師会会長） | |

意見交換会

F A Xコーナー担当者意見交換会報告

日時：平成25年3月10日(日) 13:00～16:00
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室



医薬分業対策委員会
委員長 池間 記世

3月10日(日)午後1時より、県薬剤師会研修室にて、F A Xコーナー担当者意見交換会が開催されましたので、報告します。北部・中部・那覇・南部・宮古・八重山の6地区にある、広域病院14か所の各F A Xコーナー職員と地区薬の担当者が参加しました。

初めに沖縄県薬剤師会の吉田洋史副会長があいさつに立ち、F A Xコーナー職員の日頃の労をねぎらうとともに、F A Xコーナーは広域病院からの処方箋応需の負担軽減に非常に役立っている、と応需薬局の立場から感謝の言葉を述べました。意見交換会に先立ち、各地区にアンケートを送付し、患者からの苦情及び要望、また苦情等について対策を講じた場合には、その内容についてもお答え頂き、当日の資料としました。

今回は、あまりテーマを絞らず自由に意見交換して頂きましたが、その中のいくつかの意見について、以下に示します。

1. 患者からの苦情

処方箋をF A X送信しているにも関わらず、薬の準備が出来ていなくて待たされる。かかりつけ薬局にF A X送信したあとに行ったが薬が揃ってなくて対応も不満である。

【応需薬局側の意見】

錠剤の粉碎・散剤の混合・軟膏剤のM i xなどの場合、もし患者が来なかったらと思うとどうしても前もって、作り置きしておくことが出来ない。また、在庫として置いてない薬が処方された場合、取り寄せるにしても小分けするにしても時間がかかってしまう。

【ファクシミリ送信の原則】

ファクシミリ送信とは、患者の調剤時間の短縮及びかかりつけ薬局で薬歴管理をすることで、薬物相互作用の防止等、患者サービスの向上に資する事を目的として行うものである。F A Xコーナーは患者サービスのために存在するものであり、薬局の支援のためではないので、各薬局が独自の責任で患者と良好なコミュニケーションをとり、円満に対処していただくことが肝要である。対応出来ないときは、サービスの一環として他の薬局を紹介していただきたい。

2. F A Xコーナーからの要望

地区の薬局情報は揃っているが、他地区の情報、特に麻薬取扱い薬局、指定自立支援医療機関(更生医療・育成医療)の指定を受けている薬局等の情報が不足している。また、他地区の薬局の開局時間も必要である。せっかく案内しても、閉まっていたとの連絡が入り、対応に苦慮する事がある。更に出来れば最新の情報が欲しいので、年に1回は更新してほしい。

また、各地区の薬局マップも欲しい。

【県薬の対応】

できるだけ早く、各地区薬剤師会及び各F A Xコーナーから資料を取り寄せ、まとめたのち、資料として配布する予定である。薬局マップについては各地区で必要な地区のマップを取り寄せて欲しい。県薬のホームページにはかかりつけ薬局マップも掲載中である。また、沖縄県医療検索システム“うちなあ医療ネット”には各薬局の詳しい情報も公開されているので、それらも活用してほしい。

3. 医療機関からの情報

処方箋の有効期限が過ぎて、再発行のために来院する患者が多い。

【那覇地区FAXコーナー職員からの提案】

処方箋の有効期限が土曜日・日曜日も含めて4日間であることを、分かりやすく書いた大きなパネルを作成し、FAXコーナーの目立つところに置いている。またFAXコーナーを案内するチラシを作り新患に配布している。他地区のFAXコーナー職員より、是非私達も参考にして、チラシ作りを検討したいという意見が相次いだ。

最後に、FAXコーナーは、患者にとって非常にものが言いやすい存在なので、応需薬局への苦情が多く持ち込まれるようです。我々開局薬剤師は、このような苦情が生じないように、細心の注意を払って患者さんに当たらなくてはならないと、自戒を込めて反省させられた意見交換会でした。

4. FAXコーナーからの要望

いろいろ問題が出てきた場合、FAXコーナーで出来ることは非常に限られているので、地区薬の役員の方々は、もっと積極的に病院側と交渉し、問題解決にあたって欲しい。

【県薬】

年に1回、各広域病院の薬局長をお招きして、医薬分業対策会議を開催しているので、その場で解決できそうな問題があったら、今後は是非とり上げて、皆で話し合っていきたい。



(北部地区)
成川賢一氏、屋嘉比康太氏



(宮古地区)
下地仁氏、本村未来氏、砂川春美氏



(八重山地区) 山城専氏、西島本ハル実氏
(県薬) 下地和美氏



(中部地区)
仲座方利氏、安里和美氏、野原千寿子氏



(南部地区)
川上善久氏、大城めぐみ氏



(南部地区)
赤澤京美氏、安里佳代子氏、砂川敦子氏



(那覇地区)
伊是名秀平氏、金城悦美氏、久場稲子氏



(那覇地区)
玉那覇和美氏、津波古峰子氏、仲門順子氏



(那覇地区)
大城美和子氏、平良克子氏、比嘉瞳氏

＜FAXコーナー担当者意見交換会出席者＞

- 吉田 洋史（沖縄県薬剤師会副会長） ○池間 記世（医薬分業対策委員会委員長）
 ○江夏 京子（沖縄県薬剤師会常任理事） ○仲真 良重（医薬分業対策委員会委員）
 ○亀谷 浩昌（沖縄県薬剤師会常任理事） ○西川 裕（医薬分業対策委員会委員）

地 区	担当役員	F A X コ ー ナ ー	担当職員	FAXコーナー 連絡先
北 部 地 区	成 川 賢 一 北部地区薬剤師会副会長	県立北部病院 F A X コ ー ナ ー	屋嘉比 康 太 (北部地区事務局)	0980- 54-0119
		北部地区医師会病院 F A X コ ー ナ ー		0980- 52-7818
中 部 地 区	仲 座 方 利 中部地区薬剤師会副会長 県薬医薬分業対策委員会委員	県立中部病院 F A X コ ー ナ ー	安 里 和 美	098- 974-9451
		ちばなクリニック F A X コ ー ナ ー	野 原 千 寿 子	098- 921-1705
那 覇 地 区	伊 是 名 秀 平 那覇地区薬剤師会副会長	県立南部医療センター こども医療センター F A X コ ー ナ ー	金 城 悦 美	098- 882-6577
			久 場 稲 子	
		那 覇 市 立 病 院 F A X コ ー ナ ー	玉那覇 和 美	098- 887-0849
			津波古 峰 子	
		沖 縄 赤 十 字 病 院 F A X コ ー ナ ー	仲 門 順 子	098- 833-6238
			大 城 美 和 子	
大 浜 第 一 病 院 F A X コ ー ナ ー	平 良 克 子	098- 860-7044		
	比 嘉 瞳			
南 部 地 区	川 上 善 久 南部地区薬剤師会副会長 県薬医薬分業対策委員会委員	友愛会南部病院 F A X コ ー ナ ー	大 城 めぐみ	098- 992-2693
		豊見城中央病院 F A X コ ー ナ ー	赤 澤 京 美	098- 850-7611
			安 里 佳 代 子	
与那原中央病院 F A X コ ー ナ ー	砂 川 敦 子	098- 945-7101		
宮 古 地 区	下 地 仁 県薬理事(宮古地区担当) 県薬医薬分業対策委員会委員	県立宮古病院 F A X コ ー ナ ー	本 村 未 来	0980- 73-1139
			砂 川 春 美	
八 重 山 地 区	山 城 専 八重山地区薬剤師会会長	県立八重山病院 F A X コ ー ナ ー	西島本 ハル実	0980- 83-6616
県 薬	—	琉大医学部附属病院 F A X コ ー ナ ー	下 地 和 美	098- 895-6638

F A Xコーナー担当者意見交換会印象記

琉球大学医学部附属病院F A Xコーナー 下地 和美

久しぶりに懐かしい方々と会い（初めての方もいらっしゃいましたが）、嬉しい反面、机の上の配布されている資料に気持ちが引き締まる思いがしました。

前回同様、F A Xコーナーから調剤薬局に対する要望として、処方箋のF A Xを受けたらお薬の準備をされていてほしい、調剤拒否をしないでほしい、ということがほとんどだったように思えます。以前の交換会でもそのことは上がっていましたが、数年たった現在もあまり改善された様子が見えません。調剤薬局の切実なリスク負担の件も話が出ましたが、F A Xコーナーにおいては常に患者さんの側の立場に立った対応を心がけています。

数ある調剤薬局の中から患者さんが指定し、お薬の備蓄や調剤にかかる時間を確認して「お大事に」と送り出す。次に来院された時に前回と同じ薬局でと言われると、かかりつ

け薬局にしたのかなあと思い案内して良かったと嬉しく思います。私たちF A Xコーナー職員は、患者さんがもっと気軽に利用してもらえるよう、これからも調剤薬局へのすてきな橋渡しができるよう、心がけていきたいと思っています。

調剤薬局のみなさんには、院外処方箋がF A X送信されましたら、拒否されることなく、どのような処方箋内容でも、ぜひ前向きに対応してほしいと思っています。

数年ぶりの意見交換会でしたが、時間が限られており、もう少し各F A Xコーナーのつっこんだ情報交換があれば良かったかなあと思っています。会に出た貴重な意見やヒントをこれからのF A Xコーナーで十分に生かしたいと思っています。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さった薬剤師会事務局に深く感謝申し上げます。

北部地区薬剤師会事務局 屋嘉比 康太

今回、初めてF A Xコーナー担当者会議に参加させていただきました。会議では各地区での現状や抱えている様々な問題が挙げられていました。

F A Xコーナー職員は、患者様及び薬局のために少しでも多くの方にF A Xコーナーを利用してもらえるように案内板やビラを作成するなど、工夫を凝らしながら業務を行っているのだと痛感しました。また、F A Xコーナーには数々の苦情・要望等が寄せられており、中でも驚いたのはF A Xコーナー案内薬局マップに載せているので、患者様からは、「某薬局にF A Xを送って欲しい」と依頼されるが、薬局側からは「F A Xを送らないで欲しい」と言われているとの事例が報告されていました。

このように、F A Xコーナー職員は患者様と薬局に挟まれ、その都度対応に窮している

現状も見受けられました。

そこで、F A Xコーナー業務を守る意味で沖縄県薬剤師会（委員会等）に担当者を置き、一定のガイドラインを策定した方がいいのではないのでしょうか。それによって、F A Xコーナー職員は対応に悩むことなく業務を行えると思います。

今回の意見交換会は2時間余りの長丁場でしたが、その時間を感じる事も無く、充実した意見交換が行われたと思います。是非、このF A Xコーナー担当者会議を意見交換の場とするだけでなく、各地区からの苦情・要望を集約して改善策を検討し、F A Xコーナー業務に反映していくような場であって欲しいです。また、それを生かし、F A Xコーナーの利便性の向上、かかりつけ薬局の推進に繋がっていただきたいです。

沖縄県立中部病院・ちばなクリニックFAXコーナー 安里 和美

FAXコーナー担当者会議に何回か出席しておりますが、FAXをしても調剤薬局でお薬の準備ができていないとか、連絡なしに薬局が休んでいるという話は、毎回あがってくる課題です。各調剤薬局にこれらの情報が伝わり、改善されればいいのですが…。前回のFAXコーナー担当者意見交換会後から、各地域の薬局の休みの連絡が、県薬から各FAXコーナーへ来るようになり助かっております。

このように、この会議が開催されるたびに問題点が改善されていくので有り難いです。この会があるおかげで、各地域（病院）の様子が聞けて、それぞれのFAXコーナーで工夫していることが参考になったり、自分たちの仕事を振り返る事ができるので良かったです。いろんな問題点を討論できる場なので、是非、このFAXコーナー担当者会議を数年ごとに続けてほしいです。

那覇市立病院FAXコーナー 津波古 峰子

FAXコーナー担当者意見交換会出席者の皆様、お疲れさまでした。私は、初めての意見交換会への参加です。

他地区のFAXコーナーの様子や薬局側の意見を聞いて感じた事は、私達那覇地区は事務局が有り、何か問題点があれば事務局へ連絡すると「地図、チラシ、案内板、薬局の休み連絡、備品」など、仕事する上で必要なものを改善し作成してくれますので大変助かっています。

FAXコーナーの仕事は、患者さんがお住まいの近くに薬の事なら何でも相談できる“かかりつけ薬局”を作ってほしいとの思いで、そしてスムーズにお薬を受け取れるよう、ゆっくりと分かり易くご案内する事をいつも

心懸けています。

琉大附属病院FAXコーナーから那覇市立病院は「新患再来にかかわらずFAX送信後必ずTELを入れて確認している。」との件ですが、私達は、新患と再来の患者さんは今回薬の変更が有る時に確認しています。それから、患者さんに言われた時も確認します。薬局側がお薬を確認してほしい患者さんには、薬剤師さんから「FAXコーナーへ処方せんを持っていく時、薬すぐもらえるかTELで確認して下さい。」と一言伝えていただくと、とても助かります。

薬剤師さんが、的確にお薬の準備ができるよう、私達FAXコーナーも頑張っていきますので、よろしくお祈りします。

沖縄赤十字病院FAXコーナー 仲門 順子

県薬の会議ということで、とても緊張していたのですが、医薬分業対策委員会の先生方が、和やかな雰囲気にしてくださったので、率直な意見や疑問を言えて良かったと思います。

会議では、他の地区のFAXコーナー担当者も同じような悩みを持っている事がわかったり、自分達のコーナーでは、問題になった事がないことが問題になっているとわかって、大変勉強になりました。特に琉大病院FAXコーナーの問題は、これから自分達のコーナーでも問題になりうる事だったので、色々と考えさせられました。

気付かされたのは、他の地区のFAXコー

ナーに比べて、那覇地区のFAXコーナーは、恵まれているのだということです。事務局や役員の先生方がこまめに動いてくださるので、私達はスムーズに仕事ができるのだと改めて思いました。あと、感じたのは、他の地区のFAXコーナーとの交流の必要性でした。赤十字病院FAXコーナーでは、他の地区の薬局に行く患者さんも多いので、他の地区の情報がもっと迅速に届けば、患者さんに迷惑をかけずにすむな、と思っています。

この会議を機会に、他の地区との交流が盛んになるように、委員の先生方、県薬の事務局の方をお願いしたいと思います。

大浜第一病院FAXコーナー 平良 克子

少々緊張しながら意見交換会会場に入室すると、既に出席者の大半の方が着席し資料に目を通していました。「おきなわ薬剤師会報」で池間記世先生、江夏京子先生のお名前は存じ上げておりましたが、当日、実際にお会いした時の感じは綺麗で若々しい両先生でした。そして、生の声が聞けて感激しました。

会議に参加して、

- ① 他地区のFAXコーナー担当者の方々との交流が出来たことは有意義で、参加して良かったと思いました。そこで、未参加の担当者にも交替制で出席をさせるべきだと思います。
- ② 可能であれば、事前に出席者へ会議資料を配布し、会議目的を周知のうえ開会すれば、当日の資料読み合わせはせずに、意見

交換を活発に行ってはいかがでしょうか。

- ③ FAXコーナーでは、患者様より薬局や薬剤師さんに対する苦情や要望、意見、嬉しかったサービス等の声が聞かれます。薬剤師さんにこのような患者の声、現況を聞いて頂いて少しでも解決の方向に持っていくたら良いのではないかと思います。(同様の苦情が多いため) かかりつけ薬局を持つ患者も増えるのではないのでしょうか。そして、私達も薬剤師の先生方のご意見をお聞きする機会にもなると思います。
- ④ 那覇地区薬剤師会事務局の職員さんは、私達の要望、要請等々にすばやく対応して下さい、いつも感謝しています。(今回の会合においても強くその事を感じました。)

豊見城中央病院FAXコーナー 赤澤 京美 ・ 安里 佳代子

FAXコーナー担当者意見交換会に初めて参加させて頂き、大変勉強になりました。他のFAXコーナー担当者の対応の仕方、業務の工夫等、とても参考になりました。

患者様へのサービスの一環としての業務とはいえ、患者様へのより良いサービスは、病院、薬局側とも良く連携を取らなければ出来ないものだと感じました。今後ともこのよう

な会合がある事を願っております。

アンケートにもありましたが、各地区応需薬局名簿に記載している薬局の営業時間、休日、FAX番号が正確に記載されているのを早急にお願します。

又、「かかりつけ薬局」の案内ポスターやチラシ等がありましたら、掲示したいと思っておりますので宜しくお願いします。

友愛会南部病院FAXコーナー 大城 めぐみ

役員の先生、県薬職員の皆様方、意見交換会を開いていただきありがとうございます。私にとっては、とても有意義な時間を過ごさせて頂きあっという間の2時間半でした。他のFAXコーナーの方々の話は、とても共感を抱くものであり、その仕事に対する努力や工夫は、勉強させられることばかりでした。

大浜第一病院FAXコーナーでは、FAXコーナー利用の利便性が記されたFAXコーナー案内カードを作成し病院医事課より配布してもらっていること(病院側の理解が必要)。県立南部医療センター・こども医療センターFAXコーナーでは、院外処方広域になるため県全域の応需薬局マップを作成し、案内

に利用していること(新開局、閉局した薬局の情報の収集が問題)など、皆さんの熱意に敬服しました。

委員の先生方からは薬局の現状を説明していただき、日頃疑問に思っていること(患者様からの問い合わせ)などが理解できました。今後の対応に生かしていきたいと思います。

最後に、「FAXコーナーは、薬局の顔なので、宜しくお願いします。」との言葉に、気持ちが引き締まる思いでした。今後も、一層患者様への対応に気配り、心配りを忘れず、応需薬局、患者様に迷惑をかけぬよう頑張りたいと思います。これからも宜しくお願いします。

沖縄県立宮古病院FAXコーナー 本村 未来 ・ 砂川 春美

まずは、沖縄本島のFAXコーナーと宮古地区との違いに驚きました。

私たち宮古地区の業務は薬局案内、FAX送信、備蓄確認等で、他地区担当者の話を聞いているとFAXコーナー業務以外に公費手帳の手続き、役所への問い合わせを行っていると感じ驚きました。

また、宮古地区では調剤拒否も殆ど無く、患者様もFAXコーナーを利用し、かかりつ

け薬局を持つことで院内でのミスが減らしたり、処方箋を間違えて発行したりしても防げたミスが多数ありました。特別な活動はしていませんが、業務は円滑に進んでいます。

六月の新宮古病院移転に伴い設置場所が変わり、患者様への案内などがどうなるかわかりませんが、意見交換会で色々な情報を得ましたので、とても勉強になり参考になりたいと思います。

沖縄県立八重山病院FAXコーナー 西島本 ハル美

3月10日（日）に行われたFAXコーナー担当者意見交換会に参加。まず最初に思ったのは、“えっ！！”患者さんって皆、FAXコーナーに処方せんを持ってコーナーいの？と思った事です。他のFAXコーナーと八重山地区FAXコーナーとの受付の仕方の違いでした。

私達の所は、患者さんがFAX送信を希望しても、しなくても、一度、FAXコーナーを通すことになっています。そのため、処方せんの内容を私達が見る事になります。他人の処方せんを見る事はプライバシーの侵害に当たるのではないかと、2回目の意見交換会の時に問題にあがっていたので心配なところもあります。

でも、私達のプライバシーに対する心構え、

狭い地域だから顔なじみも多く、この件に関しては特に気を付けています。今のところ、その様な苦情を言う患者さんもいません。また、問題があれば、薬局側や病院側が対処し、協力してくれるので、すぐに解決してしまいます。なので、他のFAXコーナーの問題で上がった患者さんがたらいまわしになった等の大きな問題はありません。

もうひとつ、今回の会で、エム!?ファーマシーという機械があるという事を知りました。どんな機械か見たかったです。

最後に、八重山地区FAXコーナーでは、今のところ大きな問題点は無いと思うので、今回の会は他のFAXコーナーと同じような問題が起こった時のための参考にしたいと思います。

お知らせ

「日本薬剤師生涯学習支援システムJPALS」について(沖縄県)

平成24年度4月から「日本薬剤師生涯学習支援システム(JPALS:ジェパルス)」がスタートしています。基本的な考え方は、

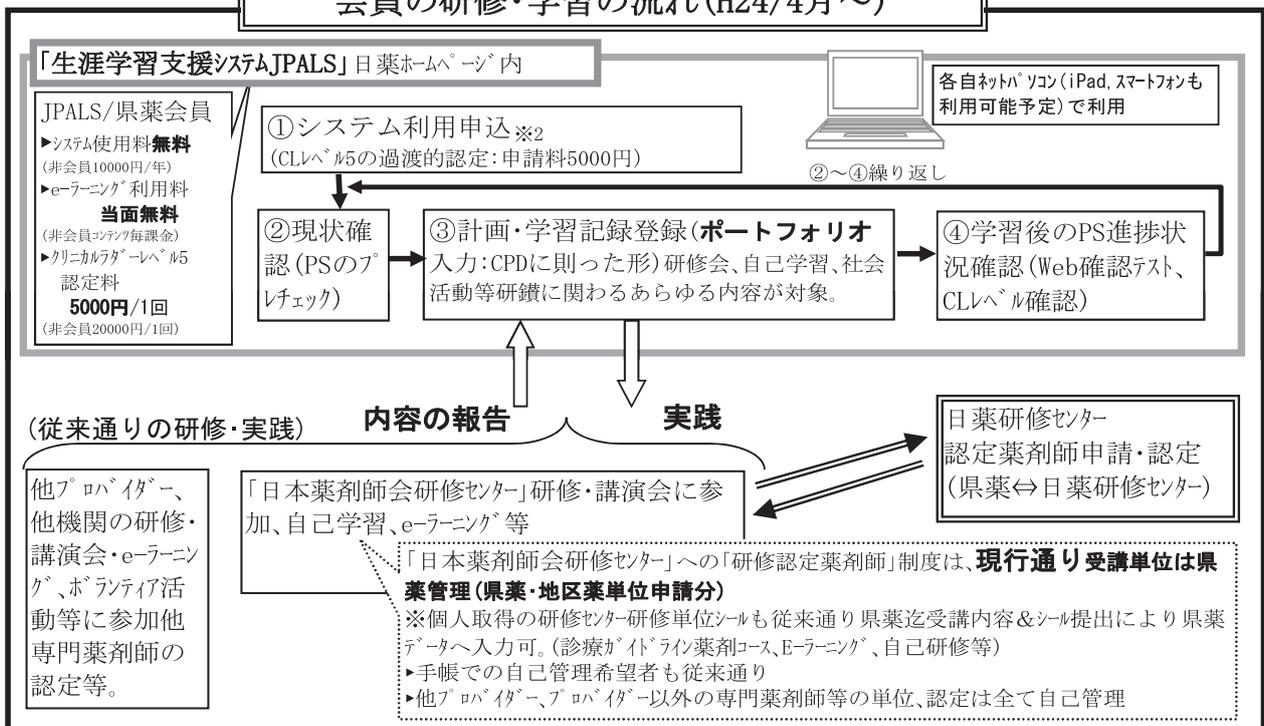
- ①まずはジェネラリストを目指す/「プロフェッショナルスタンダード(PS)」「クリニカルラダー(CL)」に基づいて計画
- ②自己学習を支援する/「e-ラーニングシステム」
- ③記録し報告する習慣を身につける/「ポートフォリオシステム(学習記録自己管理システム)」

の3つです。このシステム(Web上)に記録する内容は研修会だけにとどまらず、職場の勉強会から個人の自己学習、社会活動など研鑽に関わるあらゆる内容が対象となります。(詳しくはH24/3月発行の「日薬雑誌3月号」同封冊子「JPALS」参照)



平成24年4月からはとにかく「**研修したらポートフォリオを作成!**」記録を残すことが『**薬剤師の常識**』となります。薬剤師人生一生分の学習履歴を財産として残せます。受講者本人が受講内容等を入力、計画、評価することに意義があります。
※2 2012年4月1日～翌年3月31日迄は過渡的認定有り

会員の研修・学習の流れ(H24/4月～)



注意!! 一度認定されても基準を満たさなければレベルが下がるシステムとなっています!
CL取得後2年間で12本以上ポートフォリオの提出(学習履歴の入力)が無ければ自動的にCLレベルは後退する仕組み(レベルダウン)なので、年間6本以上の学習履歴の入力が必須となります。CL5からは取得後3年間で18本以上ポートフォリオ提出。

※1 クリニカルラダー(CL) : CLレベルは1～10段階有り(CL1～CL10)

生涯学習での自身の到達度を確認する為の段階制の制度で、CL1～CL4迄は1段上がる為に、1年間にポートフォリオ6本以上報告(学習履歴の入力)と年度末に行われる「Web確認テスト」に合格することが条件となる。CL4→CL5への認定のみ日薬による審査も行われる。

- CLレベル1 → 国家試験合格者
- CLレベル5 → 管理薬剤師に相当

日薬認定のCLレベル5(CL5)がベースとなる。CL5では他職種との連携や情報共有、疼痛緩和やターミナルケア、無菌製剤、禁煙指導、学校薬剤師活動や訪問薬剤管理指導業務など、ジェネラリストとして幅広い到達目標が盛り込まれている。まずはCL5を目指し、CL6以降はジェネラリストを土台に、専門領域を目指す学習とする方針。(関係団体と検討中)

※2 2012年4月1日～翌年3月31日迄は過渡的認定有り

『薬剤師免許登録時から15年以上である会員』、又は『日薬研修センター等(認定機構プロバイダー)の「認定薬剤師」取得者』は**CLレベル5(CL5)に相当する者として認定証を発行(要: 利用申込&申請 申請料5,000円)**する。

研修会

本島・宮古・八重山地区 J P A L S 説明会紀行



薬剤師学術研修委員会
委員長 亀谷 浩昌

日本薬剤師会（以下、日薬）が生涯学習のツールとして生涯学習支援システム（以下、J P A L S）を構築して平成24年4月1日にスタートさせた。1年後の平成25年3月末までの期間は薬剤師経験が15年以上、あるいは他の認証機関で認定を受けた方は申請するだけでJ P A L Sのクリニカルラダーレベル5認定薬剤師として過渡的認定を受けることができる。期限が迫っているにもかかわらず、本県では未だ認定登録が少なく、その理由として、なかなか馴染めない、実践することに不安をもっているなどの意見が多数あった。対応策として、平成25年2月11日（日）に県薬会館で日本薬剤師会から生涯学習委員会の高濱寛副委員長をお招きし、特にインターネット上でのJ P A L Sの使い方、学習記録の書き方について易しく解説していただいた。日曜日の午前中の説明会にも関わらず、参加者は78人と多数であった。この講演会は好評で、これを機会にJ P A L Sを使ってみたいという意見が多数あった。講演会の前の2月初旬には60人程度だった過渡的認定者が、講演会後の3月中旬には120人と倍増したことからこの講演会の企画は効

果大であったと言えるだろう。この講演会の内容を宮古・八重山地区薬の会員にも伝えようと両地区での伝達説明会が企画され、私が講師として行くことになった。過渡的認定期限が迫っているので早めに開催したかったのだが、私の勤務の都合上、3月1日（金）に八重山地区、翌2日（土）に宮古地区で実施することになった。

3月1日（金）は午後から年休を取り、15：40発の日本トランスオーシャン航空（J T A）0619便で神村会長と共に石垣島に向かった。Boeing 737-400（写真1）は快調に飛行し、1時間弱で石垣島空港（旧空港）に降り立った。この空港は滑走路の長さが1,500mと短く、地域のニーズに合わなくなったので3月6日にお役目を終え、翌7日からは2,000mの滑走路を持つ新石垣島空港、愛称は「南ぬ島石垣空港」（ばいぬしまいしがきくうこう）が運用を開始するので、私にとっては今回がかの有名な急ブレーキ着陸の最後の体験となった。

説明会は演題を「新しい生涯学習システム J P A L S について ～素朴な疑問の解決から～」として20：00 から21：30ま



講師：高濱 寛氏
日本薬剤師会
生涯学習委員会副委員長



で、石垣市内の大濱信泉記念館で行った。

あいにく当日は高校の卒業式で、地縁血縁の濃いこの地では、会員各位も親戚縁者の間を駆けまわり、大忙しの日であったであろう。参加者は8名であった。インターネット関連の話は年配者にとって理解するのが難しいような感じが感じられたが、若い人たちは熱心にメモを取りながら聞いてくれた。

大浜記念館での説明会終了後は八重山地区薬の有志による歓迎会が催された。説明会に間に合わなかった会員も駆けつけてくれて大いに盛り上がった。沖縄県人は親切で人情に厚いといわれるが、この傾向は那覇から離れるほど強くなるようだ。温かい歓迎に感謝するばかりである。

翌2日（土）は小雨交じりの風が少し肌寒い天気であった。旧石垣島空港は市街地から近く、出張族には便利が良い。この日は新空港の祝賀会のため本島からの役人が多数来るようで、待合室は警備や出迎えの人たちでざわついていて、閉港後は整地され、ここには県立八重山病院が新築移転して来ることが決まっている。

宮古島へは琉球エアークommューター（RAC）14：15発の0834便で向かう。乗り込む飛行機はBombardier DHC-8-100（写真2）だ。この飛行機はプロペラ機なので比較的飛行高度が低く、おまけに高翼なので窓からの眺めは良いが、あいにく通路側の席であった。外から見ると小さな機体だが内部には40人近い人数が搭乗する。音と振動はかなりなもので、ジェットと比べるとやはり古めかしい感じがした。



（写真1） Boeing 737-400

宮古には30分の飛行時間であっけなく着いた。空港からはホテルに直行した。講演スライドを作り直すためである。前夜の伝達説明会では、先に本島で行われた説明会で講師の先生が使用したスライドをお借りして説明したのだが、やっぱり他人の作ったスライドは使いづらい。自分なりに講演の手順を組み立て、それに沿ってスライドを大幅に改編した。これには思いのほか時間がかかった。石垣島のホテルでは11時のチェックアウトまでの時間、そして石垣空港での待ち時間、宮古島では説明会までの時間を使って何とか仕上がった。夕方6時過ぎに宮古地区薬剤師会の下地先生の迎えの車が来て、伝達説明会場である下地薬局の2階にある地区薬の事務所向かった。途中、新築中の新県立宮古病院に立ち寄った。広々とした敷地に真新しい病院が出来上がっていた。

会場には宮古薬剤師会のメンバーが8人集まった。19：00からの神村会長の挨拶に引き続き説明会がスタートした。自作のスライドだけに前夜の石垣島での説明会に比べてスムーズに、格段にわかりやすく説明できたと思う。終了後は連夜の歓迎会となった。さすがに2次会までは元気が続かず11時過ぎにはお開きにしてもらった。宮古・八重山地区薬剤師会の皆様には重ね重ね大変お世話になりました。

沖縄本島から宮古、八重山地区まで、県下の大部分の地域をカバーしてJPALSの利用拡大のための説明会を実施した。今後更に多数の先生方が登録していただけるものと期待している。



（写真2） Bombardier DHC-8-100

研修会

保健福祉委員会主催
第3回在宅医療に関する講習会報告

日時：平成25年3月3日(日) 協賛：(株)沖縄三和メディカル、(株)大塚製薬工場
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール ティーアンドケー(株)、アボットジャパン(株)
後援：一般社団法人 浦添市医師会 (株)ジェイ・エム・エス

<プログラム>

- 開会の辞 沖縄県薬剤師会会長 神村 武之
- はじめに 沖縄県薬剤師会保健福祉委員会委員長 笠原 大吾
- ランチョンセミナー「在宅栄養管理について」
イーエヌ大塚 株式会社 一條 昌志
- 基調講演「在宅医療への挑戦～多職種連携の中での薬剤師の役割～」
鹿児島県薬剤師会理事 沼田真由美
- 伝達講習「がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用について」
沖縄県薬剤師会保健福祉委員会委員 上原 幸代
- 教育講演「在宅医療における問題点について考える
－沖縄県浦添市の取り組みを参考に－」
沖縄県薬剤師会理事 笠原 大吾 他
- 質疑応答
- 閉会の辞 沖縄県薬剤師会常任理事 江夏 京子



保健福祉委員会
山里 美恵子

去る3月3日、在宅医療に関する講習会(日本薬剤師会生涯学習システム)が他職種の参加(3名)を含め、計95名の参加で行われましたので報告します。

○ランチョンセミナー「在宅栄養管理について」

イーエヌ大塚株式会社の一條昌志先生により、「経腸栄養とは」と題し、在宅経腸栄養法の手引き、栄養管理の重要性、リスクマネジメント、経腸栄養を選択した場合の感染対策、ラコールNFについて講演されました。その他に、褥瘡の日本人の危険要因(OHスケール)による褥瘡リスクの点数化(OHスコア)発症確率と治癒期間、栄養摂取による治癒期間の短縮、床ずれ防止高機能マットレスによる予防効果、車いすの座り方でも圧が変わるというデータが示され参考になりました。



一條 昌志氏

○基調講演「在宅医療への挑戦」

鹿児島県薬剤師会理事 沼田真由美先生の講演ではなぜ今「在宅」なのでしょう？の問いかけに始まり、2025年に実現を目指すべき地域包括ケアシステム(厚生労働省介護保険計画より)を見据え、この地域包括ケアを効率的に提供するための人材育成が行政でも予算化され、体制づくりが始まっている現状、その中で、鹿児島県薬剤師会が在宅へのアプローチの手段として残薬整理事業、薬薬連携推進等に取り組まれている活動を講演されました。お薬整理そうだんバックをきっかけに、患者自身のアドヒアランスを上げ、医療費負担の軽減につながる(実際にお薬の飲み残しが400億とも、500億とも試算されているデータもある)医療経済効果も期待されます。



沼田 真由美氏

薬薬連携では、今後ますます在宅医療が進む中、病院薬剤師と薬局薬剤師が協働して患者の入退院にかか

わること、薬局⇒病院⇒薬局のシームレスな連携が可能になるのではとの提案もありました。今、そしてこれからの社会（超高齢社会）において薬剤師の価値再構築と再認知を通して、求められる薬剤師になるために職能をアピールしていかななくてはならないと感じました。

○伝達講習「がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用について」

保健福祉委員の上原幸代先生による講習では、はじめに世界的にはまだまだ遅れている日本の緩和医療の現状が報告されました。続いて、①緩和ケアには早期からかわること、②医療用麻薬の使い方（定期投与が基本）、③医療用麻薬について説明すべきポイントについて、④痛みを正しく評価（痛みの度合いを数値などで示してもらうことが必要）すること、⑤痛みが少なく生活しやすくなるようにするために（がん鎮痛治療薬をオピオイドローテーションするために）緩和医療に精通した医療従事者の養成について、⑥緩和ケアを専門的に提供できる施設の設立が求められている現況の中での医療用麻薬の適正使用の知識を持った、病院や薬局、在宅での緩和ケアチームの一員としての薬剤師の役割について、さらに⑦患者や家族の不安や苦痛に対して薬理的な視点からアプローチし、チームが提供するすべての薬物療法をサポートできる薬剤師が求められている現況といった内容が報告されました。



上原 幸代委員

○教育講演「在宅医療における問題点について考える」

県薬剤師会理事 笠原大吾先生の講演では、はじめに、沖縄県浦添市において平成23年度医療・介護における規制改革、経済産業省の事業として行われた浦添市在宅医療ネットワークについて報告がなされました。



笠原 大吾理事

浦添市では、在宅における多職種間の情報共有をサポートする地域見守りサービスの実用化に向け、ITを使用しての地域見守りサービスが検証されました。1人1台のi-padを利用することにより、サービスの質の向上及び効率化、多職種間のコミュニケーションの促進につながった実証結果が報告され、多職種連携が構築されている状況が報告されました。

また、浦添市では1週間後の3月10日には在宅医療推進のための多職種連携研修会も行われる予定で、グループディスカッション等の連携の成果が期待されるとのことでした。

続いて行われた質疑応答では、前もって以下のような質問が寄せられました。すなわち、「ひとり薬剤師の薬局での対応は?」、「保険請求はせず、薬のお届けはしている。実際の請求はどうしたらよいのか?」、「訪問する際の交通費の請求は?」、「居宅療養管理指導を医療保険で請求していたら、後日、介護保険を使うようになった利用者として判明し、返金をもとめられた事例について」、「居宅療養管理指導について、主治医の許可はとったが患者（家族）に拒否されて、実際の指導に入れなかった事例について」、「（利用者から）費用が発生するなら指導はいらぬといわれた事例について」等々会員が日頃業務をおこなう中で疑問に感じていた代表的な問題点についてその回答が行われました。

地域のなかで、積極的に、目に見える薬剤師として、薬剤師の職能をいかにアピールすることができるかがこれからの在宅医療、多職種連携のなかで信頼を得て、薬剤師としての役割を果たすためのカギになるのではと感じました。以上ご報告いたします。



代表的な問題点に回答がなされた

研修会

医薬品事故・過誤対策委員会主催
平成24年度医療安全講習会報告

<機器展示>

日時：平成25年2月17日(日) 会場：沖縄県薬剤師会館 研修室
13:00～15:30 出展時間：12:00～16:30
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール 出展会社：高園産業(株)、(株)トーショー、(株)ユヤマ

<式次第>	司会： 医薬品事故・過誤対策委員会	糸 嶺 達
○ あいさつ	沖縄県薬剤師会会長	神 村 武 之
I 『施設における調剤過誤対策』	座長： ぴいぷる薬局	中 尾 滋 久
1. 「こくら虹薬局における調剤過誤対策」	こくら虹薬局	平 良 栄 子
2. 「調剤過誤・事故対策」	すこやか薬局	高 良 武 志
II 『活用しましょう！PMDAメディナビー-医薬品・医療機器の安全性情報収集-』	独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 安全第一部 安全性情報課	本 木 麻 里 子
III 『薬局におけるリスクマネジメント～ヒヤリ・ハット事例分析手法であるRCAについて～』	(株)琉薬 医薬営業企画部 企画課 係長	新 垣 吉 浩
○ 閉会の辞	医薬品事故・過誤対策委員会 副委員長	仲 座 方 利

去る2月17日、平成24年度医療安全講習会が開催されました。本年度は、調剤過誤対策に焦点が絞られ、薬局で実際に行っている対策の紹介、対策を立てるための手法などが発表され、対策の一助になる機器が展示されました。



医薬品事故・過誤対策委員会
書記 吉富 弓江

講習 I 「施設における調剤過誤対策」

こくら虹薬局では、「安全5項目」を朝礼で読み上げて意識統一を図っている。ハード面では、規格違いや取り間違いを減らす目的で「F-Wave」、「散薬監査システム」を導入している。しかし、機械はあくまでも補助であることを意識して、「確認」することを重要視している。その他にも、要所要所に注意事項を記したテープを貼る、ウィークリーシートの導入を避ける、分包品の1包でも抜いた場合は結束バンドを外すなど工夫している。

すこやか薬局では、調剤過誤対策委員会を設けて全店舗から提出される過誤報告書を検討しており、店舗ごとに重要点を考え、定期的に全店舗へ配信している。また、鑑査時には薬剤情報提供書の写真を利用し、文字ばかりの鑑査から色彩を入れることでミスを見出しやすくなる。入力ミスに対する取り組みとしては、4文字検索、入力後の「縦読み」チェックを行っている。通常、入力は「横読み」(図1)で行われるため、チェックも「横読み」で行うと思い込みを起ししやすい。入力後のチェックを「縦読み」(図2)にすることで思い込みを減らすことができる。



こくら虹薬局
平良 栄子氏



すこやか薬局
高良 武志氏



座長
中尾 滋久氏

・レセコン入力時、

Rp1. アムロジンOD錠5mg	1錠
グリミクロンHA錠20mg	1錠
プラビックス錠25mg	2錠
タケプロンOD錠15mg	1錠
1日1回 朝食後	28日分
Rp2. セレコックス錠100mg	2錠
1日2回 朝・夕食後	35日分

図1 横読み

・入力後チェック時、

Rp1. アムロジンOD錠5mg	1錠
アムロジンOD錠2.5mg	1錠
プラビックス錠25mg	2錠
グリミクロンHA錠20mg	1錠
1日1回 朝食後	28日分
Rp2. セレコックス錠100mg	2錠
1日2回 朝・夕食後	35日分

図2 縦読み

講習Ⅱ 「活用しましょう！PMDAメディナビー医薬品・医療機器の安全性情報」

医薬品・医療機器の安全性情報収集のツールとして、PMDAメディナビが紹介された。同サービスは、医療従事者にとって重要な情報が発出された際に、すぐにその情報をメールで配信するサービスである。登録は無料で、全国で8万件以上（平成25年1月31日現在）が登録している。国やメーカー発出する情報以外に、PMDA独自の内容も盛り込まれている。（図：登録方法）



PMDA
本木 麻里子氏

ご登録は 3ステップ

STEP 1 「PMDAメディナビ」にアクセス!

PMDAメディナビ

<http://www.info.pmda.go.jp/info/idx-push.html>

スマホでもできるよ

STEP 2 必要事項を記入! 必要な情報を、項目ごとに選択できます!

<input checked="" type="checkbox"/> 緊急安全性情報・安全性速報	<input checked="" type="checkbox"/> 自主点検通知	<input checked="" type="checkbox"/> 回収情報(クラスI)
<input checked="" type="checkbox"/> 医薬品・医療機器等安全性情報	<input checked="" type="checkbox"/> DSU(医薬品安全対策情報)	<input checked="" type="checkbox"/> 承認情報(医療用医薬品/医療機器)
<input checked="" type="checkbox"/> 使用上の注意改訂指示通知	<input checked="" type="checkbox"/> PMDA医療安全情報	<input checked="" type="checkbox"/> 医薬品に関する評価中のリスク等情報

STEP 3 確認用メールが届いたら、本文中のリンク先にアクセス!

ご登録のメールアドレスに、本登録の確認用メールが届きます。メール本文中のリンクをクリックすることにより登録が完了します。

登録が完了すると、安全性情報メールが配信されます。

メール配信

詳細情報はリンク先で確認できます

メール配信例

講習Ⅲ 「薬局におけるリスクマネジメント

～ヒヤリ・ハット事例分析手法であるRCAについて～



(株) 琉薬
新垣 吉浩 氏

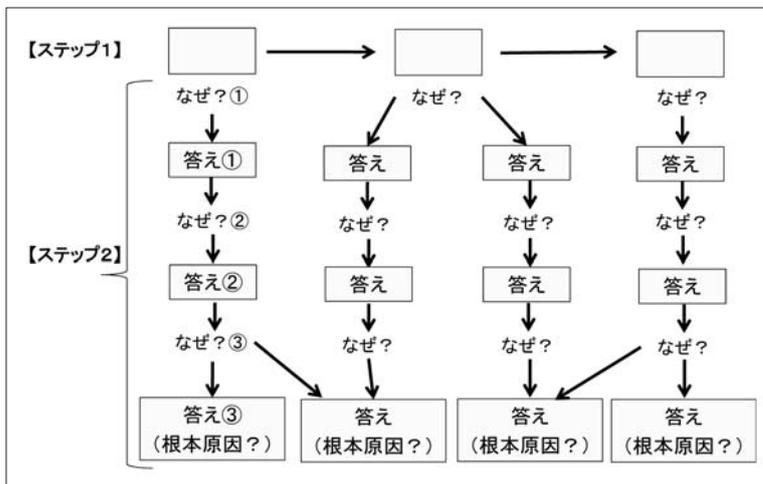
近年、病院・診療所だけでなく、薬局においても安全管理体制の必要性がいわれられており、薬局の安全管理に関する法律、指導、関連事業が整備されている。1件の大事故には、300件のインシデント（ヒヤリ・ハット）が潜んでいるといわれており、インシデントを可能な限り減らすことで大事故を防ぐことができる。

リスクマネジメント（医療安全）は、リスクマネジメントの体制づくり→リスクの把握→リスクの評価・分析→リスクへの対応→対応への再評価の順で行われる。インシデントレポート（ヒヤリ・ハット報告）はリスクを把握でき、評価・分析が可能となる、調剤内容の向上につながるなどメリットが多い。反面、レポート作成に手間がかかる、責任追及されるのではという誤解などから報告件数は伸びていない。

RCA（根本原因分析法）とは、リスク分析の手法のひとつで、医療事故例を分析し、根本原因に対して対策を立案・実施して再発防止を図る分析システムである。

【ステップ1】出来事流れ図作成

発生したインシデントに対し、事実だけを抜き出して付箋に出来事を書き出し、時系列に並べる。1枚の付箋にはあまり多くの情報を入れない方がよい。

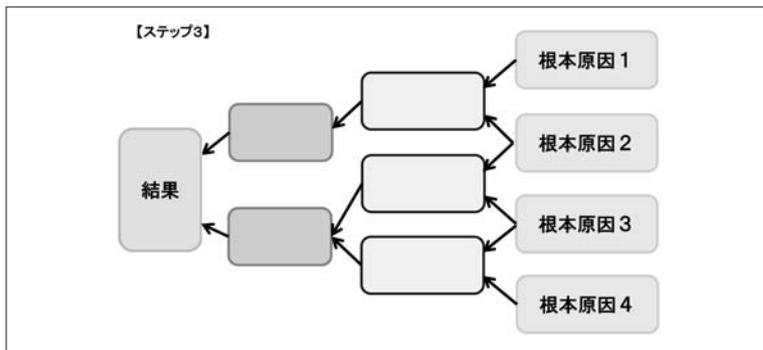


【ステップ2】“なぜ・なぜ”分析

ステップ1の各出来事に対し、“なぜ”を繰り返して根本原因を探る。

【ステップ3】因果関係図作成・根本原因確定

“なぜ・なぜ”分析のプロセスを振り返りながら、「原因」と「結果」の関係性を明らかにする。結果は、患者への影響が大きいもの、分析が必要と考える事実を選定する。



【ステップ4】対策立案

実現可能か、具体的か、高い効果が期待できるか、費用対効果、効果の持続性、業務の増加、“なぜ”は不足していないかなどに留意して立案する。

【ステップ4】

	根本原因	対策案	実施時期	実施責任者	実施後の追跡方法	評価時期	管理者の承認
1							
2							
3							

根本原因によるインシデント・アクシデント事例の再発を防止するための対策を記載する

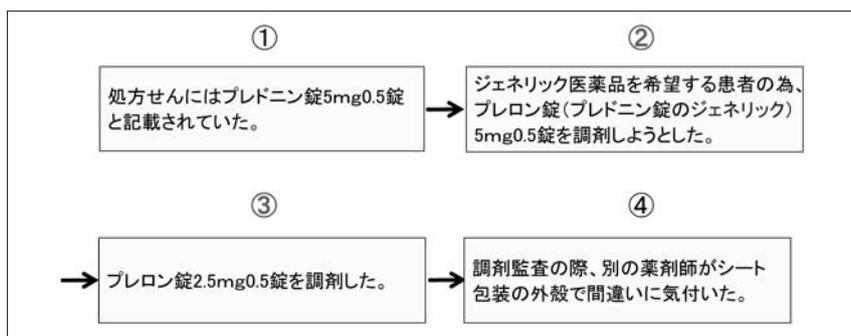
分析の結果、明らかになった根本原因を記載する

根本原因から評価時期までを立案する

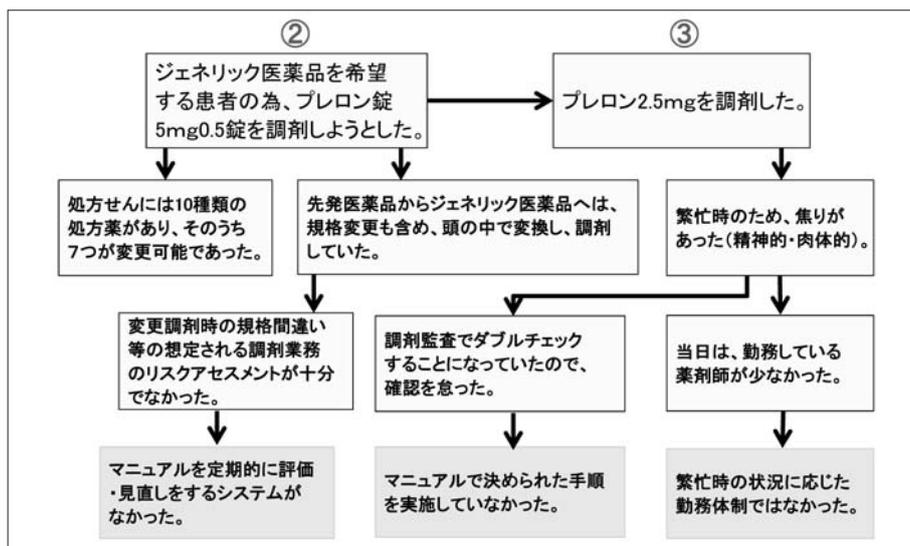
<練習>

処方せんにはプレドニン錠5mg0.5錠と記載されていた。ジェネリック医薬品を希望する患者であったため、プレロン錠5mg0.5錠（2.5mg）で調剤しなければいけないところ、プレロン錠2.5mg0.5錠（1.25mg）で調剤してしまった。鑑査の際、別の薬剤師がシート包装の外殻で間違いに気付いた。

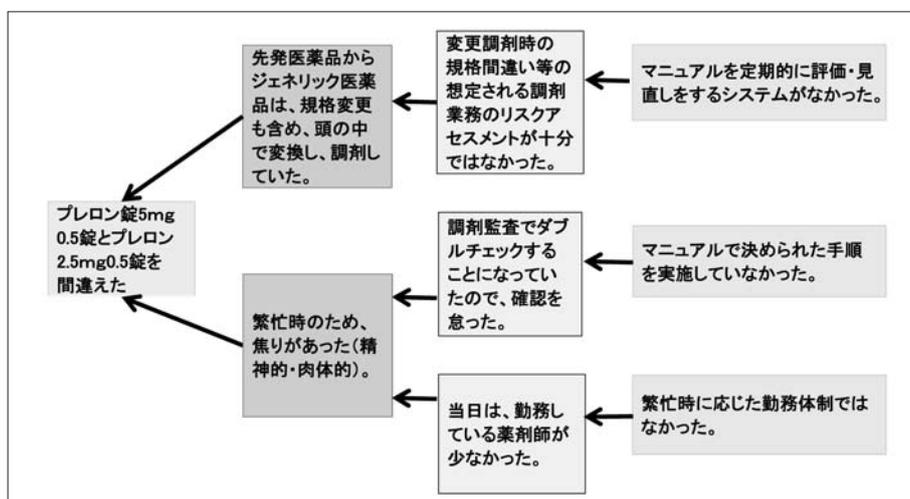
【ステップ1】出来事流れ図作成



【ステップ2】“なぜ・なぜ”分析



【ステップ3】因果関係図作成・根本原因確定



【ステップ4】対策立案

	根本原因	対策案	実施時期	実施責任者	実施後の追跡方法	評価時期	管理者の承認
1	マニュアルを定期的に評価・見直しをするシステムがなかった。	現場に即した内容であるかマニュアルを評価する	2か月以内	安全対策委員会	安全対策委員が確認する	2か月後	承認・不承認
		定期的にマニュアルを見直す	6か月以内	安全対策委員会	安全対策委員が確認する	6か月後	承認・不承認
		マニュアルを職員に周知・徹底する	1か月以内	安全対策委員会	安全対策委員が確認する	1か月後	承認・不承認
2	マニュアルで決められた手順を実施していなかった。	マニュアル遵守状況の確認	2か月以内	安全対策委員会	安全対策委員が確認する	2か月後	承認・不承認
		知識の習得レベルのチェック	3か月以内	安全対策委員会	安全対策委員が確認する	3か月後	承認・不承認
		マニュアルを職員に周知・徹底する	1か月以内	安全対策委員会	安全対策委員が確認する	1か月後	承認・不承認
3	繁忙時に応じた勤務体制ではなかった。	業務量に応じた勤務体制にする	6か月以内	安全対策委員会	安全対策委員が確認する	6か月後	承認・不承認
		業務の支援・指導体制の整備	1か月以内	安全対策委員会	安全対策委員が確認する	1か月後	承認・不承認
		事例研修の実施	6か月以内	安全対策委員会	安全対策委員が確認する	6か月後	承認・不承認

米国医学研究機構が発出した医療事故に関する研究報告書には、「人は間違いを犯すものである。そのため、間違いを犯した人を責めるのではなく、間違いを起こしにくい作業環境（照度、作業動線）を構築することが重要である。」と記されている。



神村 武之 会長 仲座 方利 副委員長 司会：糸嶺 達 委員

〇おわりに

「薬局並びに店舗販売業及び配置販売業の業務を行う体制を定める省令」（いわゆる「体制省令」）では、「医薬品の業務に係わる医療の安全を確保するため、指針の策定、従業者に対する研修の実施その他必要な措置を講じなければならない」とされています。

本講習会は、「従業者に対する研修」として毎年度開催し、受講者には受講認定証を発行していますので、多数の受講をお待ちしています。

〈機器展示会場〉



高園産業(株)



(株) トーショー



(株) ヨヤマ

寄稿

沖縄県内の薬局・病院訪問を終えて



独立行政法人医薬品医療機器総合機構
安全第一部 調査指導課長 飯村 康夫

沖縄県薬剤師会の先生方におかれましては、日頃より、医薬品等の安全対策行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）では、平成25年2月16日から19日にかけて、沖縄県内の薬局・病院を訪問させていただき、また、医療安全講習会において、PMDAのホームページやPMDAメディアナビの活用に関する説明の時間をいただきました。

PMDAでは、製薬企業等から提供される医薬品等の安全性情報が、医療機関・薬局内において適切に入手・伝達・活用がなされているか調査を行っており、その最適な情報提供のあり方や活用方法等を検討しております。本年1月より、全国の全ての病院と半数の薬局に調査票を送付させていただき、多くの先生方に、アンケートにもご協力いただいたところですが、今回は、その調査事業の一環として、沖縄県を訪問いたしました。

沖縄本島や離島地域では、地理的な制約から、他県に比べると製薬企業のMRによる訪問機会は少ないと考えられ、ITを活用した情報入手を実施いただくべく、調査にあわせて、PMDAのホームページやPMDAメディアナビの活用も呼び掛けさせていただきました。

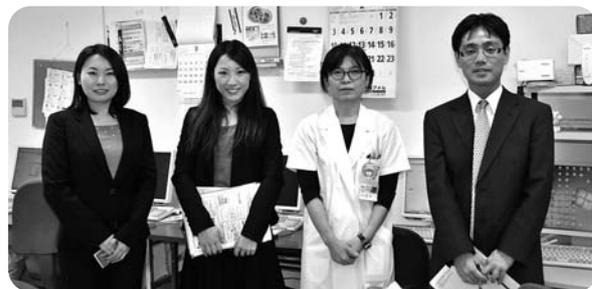
沖縄県内の薬局・病院を訪問し、また多くの薬剤師会の先生方とも話をさせていただきましたところ、予想通り、MRの訪問頻度は低く、八重山地区では医薬品自体の入手も本島からの取り寄せで時間がかかっていることなどを伺いました。また、地区医師会や基幹病院と連絡会議を開催し、地域連携を推進されている実績についても伺いました。さらに、適切な処方鑑査のためには、患者の検査値や病名を知ることが大切であり、患者との関係で検査の結果表を見せてもらえるような信頼関係が重要なこと、将来的には、電子保険証などで医療機関と情報共有ができると良いなど、貴重なご意見をいただきました。今後の医薬品情報の提供方策等の検討に、参考とさせていただきます。

今回の訪問では、東京では、まだ冬で雪が舞うような天気がある中、道ばたで朝顔やハイビスカスが咲いており、春を過ぎて夏を感じつつ、沖縄の美味しい料理もいただきました。

終わりに、今回の訪問に当たり、神村会長、糸嶺理事、川満宮古地区薬剤師会会長、山城八重山地区薬剤師会会長ら、ご対応いただきました先生方、訪問先の調整など多大なる準備をいただきました県薬事務局の大城様らに、心より御礼申し上げますとともに、貴会の皆様の益々のご発展を祈念いたします。



中頭病院会議室にて



こくら虹薬局にて

研修会

平成24年度薬剤師のための一般用医薬品研修会報告

日時：平成25年2月11日(月) 13:00～16:30
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室



開局委員会 松本 圭五

去る2月11日に開催されました『平成24年度薬剤師のための一般用医薬品研修会』が開局委員会委員長の新垣秀幸先生によって行われました。

研修会は3時間以上と長い時間にもかかわらず、あっという間に終わり、かなり充実した研修会となりました。まず、ビデオ研修があり、2～4人組のスマール・グループ・ディスカッション(以下、SGD)でアルゴリズムを作成し、実際の医薬品販売の実践方法(トリアージ)を確認しました。

その内容として、「実際に頭痛などで薬局に患者が来局しました。どのように対応しますか？」

来局者に適切に対応するためには、

- 1. 基本的な症候を示す疾患を系統的に理解
2. 来局者から情報を適切に収集し、疾患を推測
3. 来局者ごとに適切な対応を判断して実施

この3つが必要とのことで、実際に頭痛を訴える疾患を列挙し、できれば疾患をグループ分けしてとのことでSGD、同じようにその疾患の症状の特徴を挙げてみようとのことで、LQQT SFAを参考にSGDをしました。(資料1と次頁の資料2を参照)

次に、頭痛のアルゴリズムを作成してみようとのことで、LQQT SFAなどで得られる情報を活用してSGDをし、アルゴリズムを実際に使ってロールプレイをしました。

(後頁の資料3を参照)

そして、頭痛を訴える代表的な疾患のトリアージプランを作成しようとのことでSGDをして作成、ロールプレイもしました。

(後頁の資料4を参照)

この一連の流れを、実際6年生薬剤師がカリキュラムとして何十時間かけて学んでいることに驚きました。

それ以外にも、適切な医療面接をするうえで、バイタルサイン測定や検査も薬学教育の中で学習しているとのことです。

何故この教育が必要かというのは、地域医療の問題点として、超高齢化の進展、医師数の不足、国民医療費の増加の点から 地域医療の在り方の見直しが必要となっている現状があります。今までの医療は分担医療でそれぞれの分野が患者を取り囲んで医療に取り組んでいましたが、これからの医療はチーム医療でそれぞれの分野で連携を取りながら医師不足になってもほかの専門家がフォローできる患者により良い医療を目指していくことが大事になってきています。

これを踏まえて薬剤師が地域のプライマリーケアとセルフメディケーション支援により積極的に関われば日本人の命の質が変わることです。

これからの医療人として、臨床判断できる薬剤師を目指して勉強していかなければいけないと節に感じました。

同研修会開催後、4月6日に宮古地区、4月7日に八重山地区において、同内容の研修会が新垣秀幸委員長により開催されました。

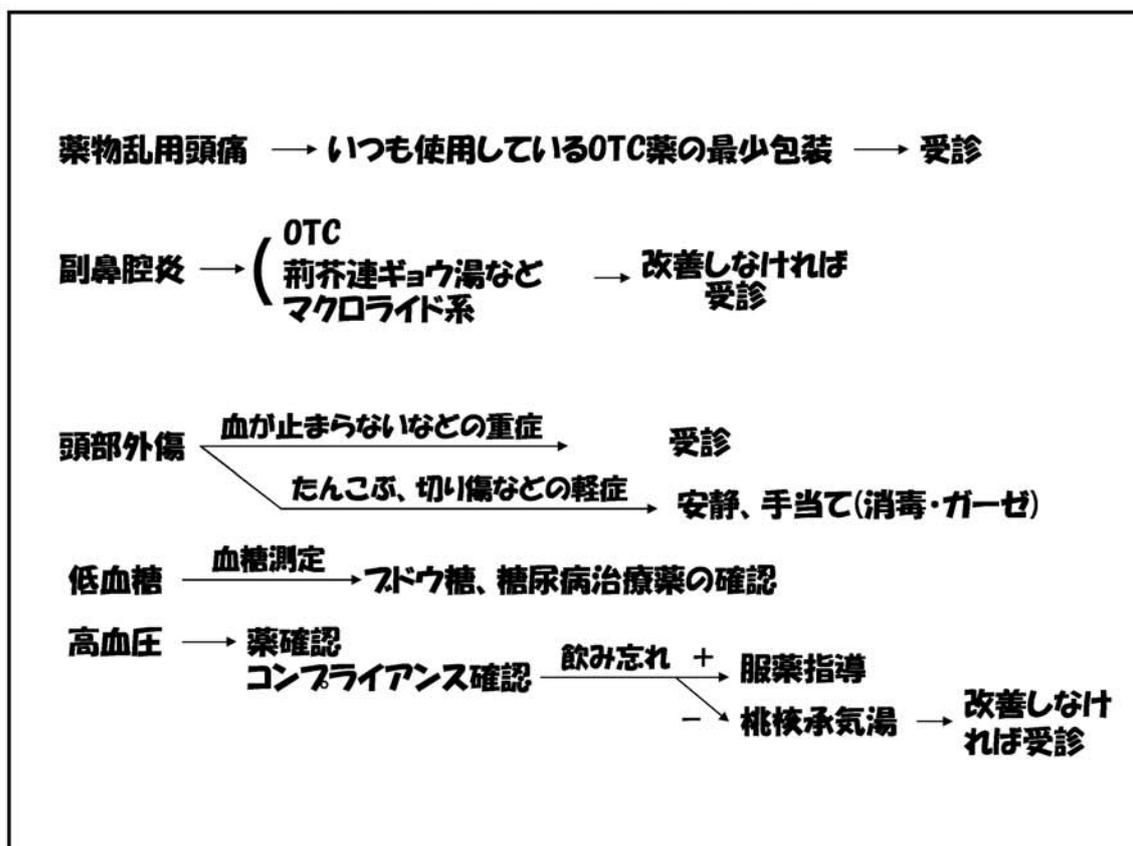
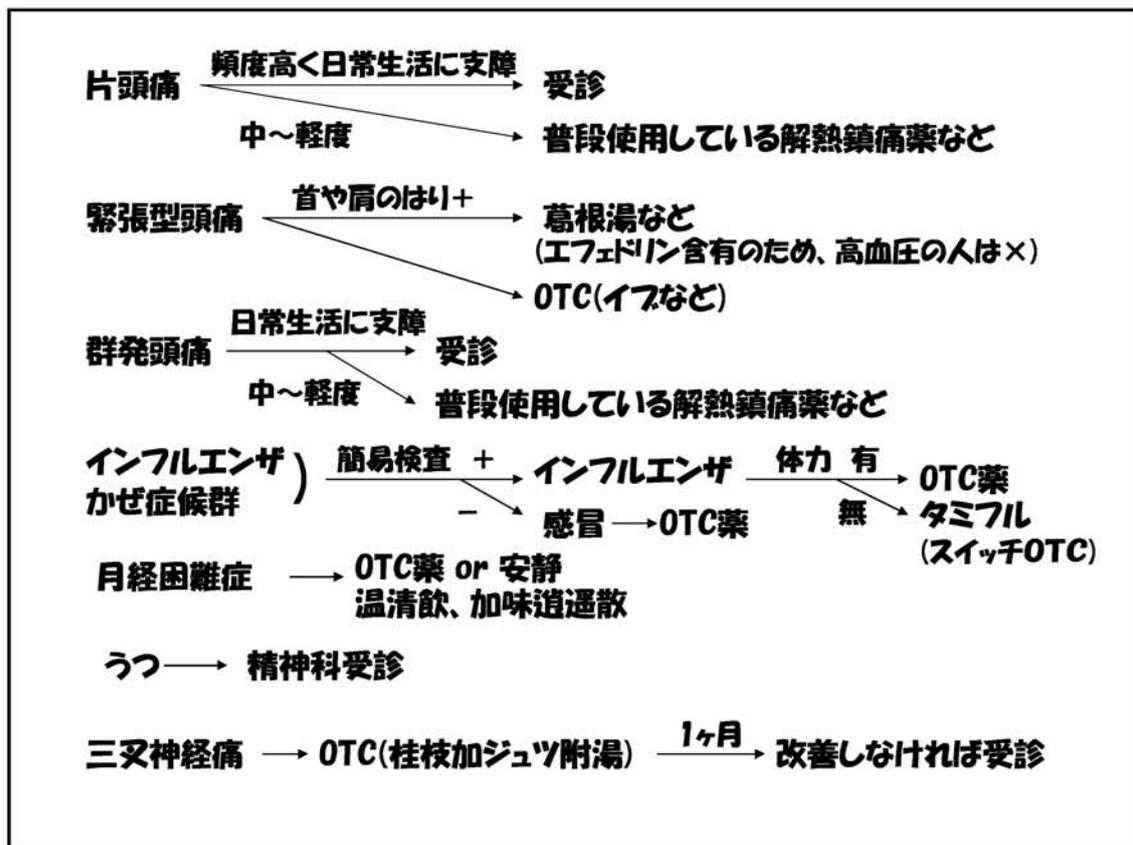
医療面接の標準的な手順
1. 自覚症状に関する質問の手順
LQQT SFAの順で症状について質問
部位 Location どこが?
性状 Quality どのように?
程度 Quantity どのくらい?
時間と経過 Timing いつ?いつから?
状況 Setting どのような状況で?
寛解・増悪因子 Factor どんな場合に悪くなる(良くなる)?
随伴症状 Associated manifestation 同時にどんな症状があるか?
2. 心理・社会的情報についての質問
心理・社会的状況 日常生活(職場環境なども)の状況
解釈モデル 自分の病気や現状をどのように考えているか
医師の診断
3. 過去の情報についての質問
既往歴、服薬歴、アレルギー歴 etc (資料1)

頭痛を訴える疾患の特徴 (LQTSFA表)

	どこが(L)	どのように(Q)	どの程度(Q)	時期・時間・頻度(T)	状況(S)	増悪経快因子(F)	随伴症状(A)	その他
一次性頭痛	片頭痛	頭の片側(ときに両側)	スキンスキン 脈打つような	ひどいときには寝込む 何もできない じっとしていたい	発作的に2~3回/月 数時間~8日間/回	前兆(閃輝暗点、チカチカ、視野欠損、霧視など)を伴うことあり	吐き気 嘔吐 光に敏感 目の前に光がチカチカ 文字が見えにくく	家族歴(多) 若~中年
	緊張型頭痛	後頭部から首筋、両側性 こめかみ	しめつけられるよう こったような	我慢できる	一定の姿勢で、作業を継続した後(夕方など)	運動→緩和 同一姿勢、ストレス→増悪	こりこり 目の疲れ 耳鳴り めまい	家族歴(少) 若年~高年
	群発頭痛	ほぼ片側 目の奥	スキンスキン 目をえぐるような、つき ささるような	じっとしてられない 自殺したくなる	数日~数週、持続 20~90分持続	飲酒、亜硝酸薬→悪化	鼻汁 鼻閉 充血 涙(痛みがある側)	家族歴(少) 中高年
	副鼻腔炎	腫瘍のある部位 特に後頭部	ガンガン、スキズスキ	軽度~激痛	徐々に進行	起床後徐々に鼻漏 痰、力み(頭蓋内圧亢進)で増悪	悪心 嘔吐 うっ血乳頭 複視 片麻痺 肩こり	
	鼻出血	出血部位	ガンガン	軽度~激痛、改善しない	突発的	屋間 活動時が多い	意欲障害(深く深い) 嘔吐 痙攣(初期) 片麻痺 四肢麻痺 頭部硬直	発熱(体温低下部を含む病変)
	くも膜下出血	全体	ガンガン	激痛、改善しない	突発的	前駆症状なく発症	嘔気 嘔吐 意欲障害	
	高血圧	後頭部~頭部全体	スキズスキ、ガンガン	軽度~激痛	活動時	興奮時、緊張時	悪心 嘔吐 視力障害 痙攣	高血圧で頭痛はまれ、200 mmHgを超えるような場合
	髄膜炎	頭全体	ガンガン	高度~激痛	数日でピークに	ウイルス性の場合には、 風邪症状、中耳炎などが先行	発熱 嘔吐 首が分たくなる 下を向きにくくなる 重症で意識障害	ウイルス性は安静で回復 細菌性は午後悪く、死亡ある いは重篤な後遺症
	インフルエンザ	側頭部~こめかみ	ガンガン	徐々に悪化	数日~数週間前から	感冒症状の前駆	筋肉痛、関節痛	
	かぜ症候群	側頭部~頭部全体	締め付けられるような、顔 面を圧迫するような	軽度~強い痛み	数日~数週間前から	感冒症状の前駆	鼻閉 後鼻漏 咳 喉の痛み	
二次性頭痛	低血糖症	頭部全体	動きづらい	持続性	インスリン、抗糖尿病薬 投与後、絶食(空腹)	下を向く→悪化	ふらつき、意欲障害、空腹感	
	副鼻腔炎	前頭部 上顎部	重苦しい	持続性	持続性	下を向く→悪化	鼻閉 蓄膿	
	蝶形窩	眼の周囲	スキズスキ	軽度	突発性		眼痛 充血 悪心・嘔吐 物の見え方がおかしい	3日放置で失明
	薬物乱用頭痛	側頭部~頭部全体	スキズスキ	動けないほど	発作的に2~3回/月	乱用薬物の中断時		
	頭部外傷 皮下血腫、骨折、 急性硬膜外血腫、 急性硬膜下血腫など	頭の片側、ときに両側	スキンスキン 脈打つよう な	程度はさまざま 動けない、何もできない ~ 軽度	数時間~3日間/回	過去の事故などで発症	1, 2型) 頭蓋骨挫傷による頭部痛、眼痛、視力 低下、肩こり、めまい、耳鳴り、聴覚 過敏、味覚・嗅覚障害、平衡障害 3, 4型) 意識障害、片麻痺、半盲、失明、運動失調→せん妄、不随意運動、痙攣 発熱、高次脳機能障害	
	月経困難症	一部~頭部全体(個人 差あり)	しめつけられるよう こったような	無症状~激痛	月経前、月経期間中	安静→緩和	腹痛	子宮内疾患でも同様
	心因性頭痛・うつ	後頭部から首筋 こめかみ	しめつけられるよう こったような	我慢できる	朝から 長期に及ぶ	原因不明	抑うつ傾向、不安の他、腹痛、下痢、食欲不振、不眠等の不定愁訴もよく見られる	精神症状が前面に出ない場合も もある(仮面うつ病)
	三叉神経痛	一侧の前頭部、上顎部	針を刺すような電撃様疼痛 数秒~数分で消失 悪夜を問わず数週間は頻 回に出現する	しかめ面をするほど、 痛みが強烈	頻発に繰り返す	洗面、禁制り、喫煙、会話、歯磨きなどで誘発	顔面痙攣、摂食困難	虫歯と間違ふことあり 50歳以上 男女比(1:3)

(資料2)

(資料4)



研修会

開局委員会主催スキルアップ研修会の開催について

～ 第4回スキルアップ研修会報告 ～

日時：平成25年2月28日(木) 20:00～22:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室



開局委員会 新川 重一

当研修会は、患者一人一人をトータルで見ることができ、薬剤師職能をより良く発揮できるように開催しています。第4回となる今回の研修会は、「第2回恒常性維持機構（自律神経と内分泌系）」というタイトルで、人間の恒常性維持に関する内容です。前回の「恒常性維持機構（水と電解質）」に続き、シリーズで開催しております。講師は石川元信先生が務められ、39人の参加者がありました。

薬剤師会の各委員会・部会が活発に活動なされていることは素晴らしいことで、去年12月26日に医薬分業対策委員会主催研修会（SGD）による「10年後の薬局薬剤師を考える」とのテーマは素晴らしい企画、立案だと思いました。薬剤師が主体性の持てる職種であることの構築が第一の必須条件だからです。

- (1) 患者一人一人をトータルで見ることができる薬剤師
- (2) 職能の拡大、地位の向上（社会的認知の向上）

厚生労働省は、平成25年度から医療、保健計画推進の拠点としての薬局の活用、健康増進法に基づく「21世紀に於ける国民健康づくり運動（健康日本21）」の2次活動に

おいて、身近で気軽に健康について相談でき、専門的な支援、指導が受けられる、健康づくりの拠点となる薬局を10年間に15,000か所整備するとの目標が示されています。薬剤師が常駐する医療保健提供施設として、地域に定着した保健・医療資源である薬局が、その拠点になることに期待されている今こそ、医療、福祉、保健の分野に寄与できるよう努めるべきだと思います。これについては、薬剤師綱領にも明記されています。処方せん応需薬局が積極的なセルフメディケーションを推進して、改めてそれを認識し行動を起こす事で、国民の信頼を保っていけるものであると思います。

病気になる原因の探求が第一のポイントになります。患者一人一人の生活のバックグラウンドを日頃からチェックすることがキーワードになるはずです。食生活（毎日）、運動、性格（ストレス）、環境、遺伝子等をきめ細かくチェックして、総合的に一人一人をマネージメントして弁証していくことが、保健の分野の転ばぬ先の杖に繋がる事と思います。

是非、開局委員会が主催する当研修会をご利用いただいて、スキルアップされてください。



講師：石川 元信 先生



司会：開局委員会
松本 圭吾 委員

研修会

平成24年度自殺予防対策事業
ゲートキーパー養成研修会報告



日時：平成25年1月14日(月) 13:00～16:00
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜プログラム＞	司会：自殺対策検討委員会	又吉智賀子
○ 会長あいさつ	会長	神村 武之
○ 自殺予防対策事業に関する説明	自殺対策検討委員会 委員長	村田美智子
1. ゲートキーパーの基礎知識		
沖縄県 福祉保健部 障害保健福祉課 精神保健福祉班 主任		又吉 賢一
2. 傾聴法・リラクゼーション法	医療法人卯の会 新垣病院 臨床心理士	宮城 聡
3. 特別講演「ゲートキーパーとしての役割を考える」		
	講師：長田クリニック 院長	長田 清
	座長：自殺対策検討委員会	川上 善久
○ 閉会のあいさつ	自殺対策検討委員会 委員長	村田美智子



神村 武之 会長



村田 美智子 委員長



司会：又吉 智賀子



自殺対策検討委員会
草壁 瑞恵

研修 1 ゲートキーパーの基礎知識

沖縄県 福祉保健部 障害保健福祉課 精神保健福祉班 主任 又吉 賢一

福祉保健部では“いのちを見守る地域のわ”として地域見守りキャンペーンを行っています。15～39才までの死亡原因の1位は自殺、沖縄県は50歳代を中心に30～60才代が多く、原因は多重責務を含む経済生活問題が健康より多いようです。こういう現状を見つめゲートキーパーとは何かと言うことを地道に地域で広めることにより、少しでも悩んでいる人の力になり、自殺をくいとめる取

り組みに力をいれています。ゲートキーパーとしての4原則（①気づき、②傾聴、③つなぎ、④見守り）を説明し、SOSのサインに気が付いたらどうしたらいいのか。悩みを抱える人への初期支援のポイントについて話されました。



又吉 賢一 先生

研修2 傾聴法・リラクゼーション法

ストレスマネジメント（ストレスと上手につきあう）について、ストレスには色々あり、例えば騒音、悪臭、疲労、悩み事、生活環境の変化等、生きていく上でストレスはつきものである。ストレスは知らず知らずにたまってしまふ事が慢性化すると気付にくいし、感じにくい。そして、どんな人も心身の不調をきたす。ストレスがかかると視野が狭くなっていくので自分自身がストレスに気づくことが大切である。では、ストレスはない方がいいのか？と思うかもしれないがないならストレスであり、ストレスは人を成長させるものでもあるとのこと。ストレスに気づき対処法を持つ事で解決することができるからです。

実際、ゲートキーパーとしての薬剤師が悩んでいる人への接し方についてDVDを見て解説して頂きました。会場から笑い声がありました。身に覚えがあったのでしょうか？

悩んでいる人への接し方の勉強とともにゲートキーパー自身にも必要なことを学びました。

医療法人卯の会 新垣病院 臨床心理士 宮城 聡

ゲートキーパー自身に必要な事として、①相談相手のプライバシーを大切にする事、②心配な人がいた時に1人で抱え込まない事、③自分自身も相談者を持つ事、④相談機関や窓口を知っておく事（当日“こころの支援機関リスト”という冊子を配布しました。）、⑤自分自身のストレス対処法を持つ事。自分の感情をコントロールできるように呼吸法を使ったリラクゼーションを教えてくださいました。

フロアからの質問として、「聞くだけでいいのですか？」とありました。何かをしてくれと思っているわけではないとのこと。どうしたらいいかということではなく、傾聴してあげる。言っていることと悪いことでなく、言い方が問題であり、要は態度である。思いがあれば言えばいいし思わなければ言わなくていいんですよ。との返答でした。



宮城 聡先生

特別講演 「ゲートキーパーとしての役割を考える」

まず初めに、長田先生が私達薬剤師に助けられていることを4点あげられました。①単純ミスの解消、②副作用の早期軽減、③コンプライアンスのチェック、④医師への不安不信感などの解消です。ほめて頂き、みなさん笑顔になったことと思います。

長田クリニック 院長 長田 清

長田先生は研修内容を直前に変えたとおっしゃいました。事前の申し込みのお知らせには精神疾患の種類とその対応について知り、薬剤師としてできることは何かを考えます・・・と書いてありましたが、内容はとても楽しいものでした。



長田 清先生



4人1組のワークショップ



座長：川上 善久 委員

人を幸せにするには、まず自分が幸せにならないといけない。先生の臨床姿勢は、弱みをみつけて治すという問題解決はせず強みをみつけるのだそうです（悩み、傷つき、弱っている人でも必ず持っている強みがある）。すると、その人のレジリエンス（精神的回復力）は何なのか、おのずと答えがでてくるといいます。問題に焦点をあてるのではなくこれからどうしようか？という解決志向、アプローチに持っていくとのことです。ストレスの原因を除去したり、不幸の種を取り除いても人は元気になれない。なぜなら、それらはいくらでも再生産されてくるから問題や不幸を無くす事より、最初から思い切り楽しく活動的で創造的な方向に目を向ける方が幸せに近づく事が出来るそうです。

次にワークショップを行いました。4人1組になり「最近、良かった事、楽しかった事を1人ずつ話をしましょう！」と言われ、話もしたことの無い先生方と気恥ずかしい感じでしゃべっていましたが、一巡り二巡りするうちに何だか少し気持ちがウキウキ。「次は2人組になり、あなたの得意な事を教えて下さい。」と語りかけ、そして“どうやって”と話を聞いて下さい。ハイ、どうぞ～」えっ～！どうしようと戸惑いながら少し得意なことをしゃべる。そのうち「どうやって」と質問されることに話はずみ、気持ちもはずんできて～そして、「今の会話を聞いた上で自分の想像を膨らませて、その人の事をしゃべって下さい。ハイどうぞ～」話を盛りあげるってことかな

と思ってお互い褒める、褒める。そして話がどんどん盛り上がると顔がニンマリ。嬉しさ、楽しさがピークに！今日の研修会行こうか、行くまいかと迷っていた人も、参加して良かったあ～と思った事でしょう。先生の思惑どおり（？）私達はとても元気にさせられました。悩んでいる人がこんな気持ちになれるよう接していけば、ゲートキーパーとしての役割が果たせるのではないかと教えられました。

今回でゲートキーパー養成研修会は、第2回目となります。昨年、沖縄県から自殺予防対策委員会への薬剤師の参加を要望され自殺対策検討委員会を立ち上げました。

平成10年以降、沖縄県の自殺者数は300人を超えており、平成23年の自殺者数（警察庁統計暫定値）は382人と高止まり状態が続いていましたが、平成24年は300人をきったとのことです。



左より 長田清先生、村田委員長、宮城聡先生、又吉賢一先生

研修会

第127回禁煙アドバイザー育成講習会 in Okinawa 報告

日時：平成25年2月3日(日) 9:45～16:30

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール



保健福祉委員会 伊敷 松太郎

<プログラム>

1. 禁煙支援基礎コース

- ・すぐ使ってみたくなる禁煙支援の引き出し のだ小児科医院 野田 隆
- ・ホントは楽しい禁煙支援～なぜ禁煙支援を難しく感じるのか～ 禁煙マラソン 三浦 秀史

2. 禁煙支援アドバンスコース

- ・禁煙支援スキルアップー実地の疑問に答えまー 奈良女子大学 高橋 裕子
- さいたま市立病院 石田あや子
- いとう伊藤内科医院 伊藤 裕子

3. ランチョンセミナー 共催：ファイザー(株)

- ・禁煙支援の新しい潮流 奈良女子大学 高橋 裕子

4. 参加型WS「禁煙支援は楽しく・仲良くと！」

- ・分科会1 新しくなった禁煙日記～使い方、伝え方 伊藤内科医院 伊藤 裕子
- ・分科会2 チーム医療での禁煙支援の実際 さいたま市立病院 石田あや子

5. 禁煙支援を進めるためのQ & A

講師全員で回答

去る2月3日(日)に禁煙アドバイザー育成講習会が開催されました。病院等にて禁煙外来が始まり、保険適用としての形をなして身近になりつつある「禁煙」ですが、これをいかに進めていくかは、我々薬剤師にとっては、いまだ手探りに近い状態ではないでしょうか。

今回、私自身、2回目の参加となる講習会には、100名以上の参加者が集まり、その中には他職種の方も多く含まれる、注目の講習会となりました。

講習会はいくつかのコースに分かれ、その中でさらに各々のスキルや好みの内容に分かれ受講していきます。今回は私が参加した講習について、簡単ですが報告いたします。

最初に、のだ小児科医院の野田隆先生より、ニコチンなどの機序や影響に始まり、禁煙薬の使用や副作用について、さらに禁煙開始後20分後～10年後への肉体的変化などの説

明がありました。また、禁煙のメリットやチャンピックス、ニコチンパッチ、ニコチンガムなどの禁煙補助薬による、依存形成からの脱却を図る治療や、長期喫煙による発がん性の有無、副流煙と主流煙の違い、受動喫煙が実際に認識されている以上の広さで、影響があることなどの内容を講演されました。こうしたタバコに対する正しい知識を持つことで、より積極的に支援に関わっていくことができるでしょう。

では、どのように禁煙をアピールしていくかについては、そのあとの「禁煙マラソン」の三浦秀史先生より、医療者とは異なる視点での講演がありました。なぜ、喫煙をするのか⇒タバコを好きで吸っているのではなく、やめられないから吸っているのであるという考えが、実は大多数をしめています。我々はその中で禁煙を「商品」と捉え、いかにしてそれがニーズである喫煙者に、この禁煙とい

う商品を勧めていくかが必要となるようです。次いで身体的メリットを知ってもらい、“タバコに対する想い”のパラダイムシフトをしてもらいます。そのために必要なことが、禁煙に対する誤解を解くこと⇒体重が増える、喫煙者の喫煙に対する意見の肯定、すべてを自分ひとりで行わないといけない、「目的」が「目標」になっているetc. …。「禁煙マラソン」は、このようなタバコに対する誤解を解いていく「マラソン」でもあるのです。我々は「禁煙マラソン」に対する認知を高める必要があるでしょう。

午後からは禁煙を実際に受診して行う、禁煙外来での事例を今回はあげてもらい、その後各2人ずつに分かれWS（ワークショップ）を行い、患者さんが来局したというシミュレーションのもと、上手い禁煙指導を模索する方法が取られました。

沖縄県は喫煙率が全国32位と決して高い数値ではありませんが、人数的には少ない数字ではありません。この喫煙者の中の約7割強が禁煙に興味を示しています。現在、個人で行う喫煙の成功率が約29%に対し、これに医療者が関わると、この数値が38%まで増えるようです。では、どのように関わっていくのか。

多くは禁煙外来を受診してもらうことがスタートとなりますが、それ以外にも内科を受診中に、タバコを吸っている方を禁煙へと導く手法が取られます。

実際に禁煙を始めるに当たり、必要となるのが“禁煙日記”です。これを使うことにより、一人で禁煙をしているわけではなく、周りのサポートがあることが、禁煙の辛さを和らげるようです。これは先の「禁煙マラソン」にもつながるものです。

日記にはその人の状況、相談したい内容の記載項目があり、これに対し、応援者（医療

従事者）からのコメントを入れていくものです。我々はいかに、相手をうまく励まし、禁煙を成功させるかが必要となります。その人のタイプを見極め、うまく褒めることが重要です。そしてそれに応じた指導、説明を行うこと。その意味でもコミュニケーション能力の向上は必要不可欠なものとなるでしょう。

今回の講演などを踏まえて、WSでは互いを褒める、良いところを見つけるなど、改めて振り返ると照れが入るような形ではありましたが、初対面に近い者同士で行うことにより、患者さんとの対話につながるシミュレーションとなるのです。相手の良いところを見つけることが、対人関係の改善へつながり、それにより禁煙を支援することができるのです。

最後に、禁煙支援を行うにあたり、多くの疑問などを各先生に答えていただきました。受動喫煙はニコチン依存となるか、（1回禁煙を保険で行った者の）保険の次回適用はいつからか、チャンピックスのSEである悪夢等の対処は、など多くの質問に丁寧に回答いただきました。その中で、もっとも印象的だったことは「タバコをやめる気のない人に（禁煙を）勧めるには？」というものです。至上の命題とも思える問いでしたが、実際にやめる気のない人はいない。ただ「今」ではないと思っている。これを「今」と思わせる方法が、今回の講習に含まれているのです。

今回の講習会の内容は某予備校講師の名セリフ、「いつやるか?」「いまでしょう!」を彷彿させるものであり、喫煙者に限らず、支援する我々も、対する患者さんへの最初の一步を踏み出す必要を強く感じました。

末筆ではありますが、今回の講習会にて協力していただいた諸先生方、また本講習を企画していただいた

保健福祉委員会メンバー、県薬剤師会事務局一同、その他関係各位の皆様にご挨拶いたします。



講習会終了後の記念撮影

実務実習

平成24年度 第Ⅲ期薬学生実務実習報告



薬学生実務実習受け入れ委員会 我喜屋 美香

保険薬局における平成24年度薬学生実務実習第Ⅲ期の実習が3月23日に終了しました。薬学生の長期実務実習は3年目になり、例年ですとⅠ期（5～7月）とⅡ期（9～11月）のみですが、今回、県内で初めてⅢ期（1～3月）を受け入れました。

実習生は神山侑子さん（城西大学5年）一人です。また、今回は1つの薬局で完結できる実習ということで、沖縄県薬剤師会薬学生実習受け入れ委員会のサポート体制を緩和し、

実習薬局の采配で実習を完結しています。多種多様な特色ある実習ができたようです。実習薬局のすこやか薬局新川店の指導薬剤師である比嘉朋子先生をはじめ、職員の皆様、本当にありがとうございました。

これで、今年度の県内保険薬局における5大学16名の実務実習が全て終了しました。次年度（平成25年度）は、7大学22名の実習生を受け入れます。

以下に、実習生の感想文を掲載します。

平成24年度薬学生実務実習Ⅲ期生からの体験記・感想

城西大学5年 神山 侑子

（すこやか薬局 新川店 実習 指導薬剤師 比嘉 朋子）

11週の薬局実習を終えて、強く感じたことは薬剤師という職業の幅広さです。

学校薬剤師業務では、医療人として唯一、薬剤師が関わることの出来る公衆衛生への従事を体験することが出来ました。

医薬品卸では、今まで見る機会のなかった医薬品流通の現場を見学し、多くの方々関わって医薬品が医療機関に届けられているということを実感することが出来ました。

銀行で行われた健康相談会へ参加した際には、地域の人々の健康への関心の高さを感じることが出来ました。

漢方薬局では、患者様の証に合わせた生薬を選ぶという観察力の必要性、またその難しさを知りました。

在宅専門薬局の実習では、患者様のお宅やグループホームに同行させていただき、薬局実習の中で最も患者様を身近に感じる事が出来ました。

県薬剤師会でのD I 業務見学では、薬局や患者様からの問い合わせに的確

に答えることや、医薬品に関する最新のニュースの収集など、情報収集・提供活動等を教えていただきました。

ドラッグストアでの実習では、OTC薬・検査機器等の使用販売やお客様へのセルフメディケーションのサポートに関する知識を得ました。

会営薬局では、夜間・休日における薬局業務の必要性や地域医療への貢献の大切さを学びました。

そして、すこやか薬局新川店・指導薬剤師の比嘉先生を始め、多くの薬剤師の先生方やスタッフの方々に支えられ、保険薬局薬剤師としての調剤技術や服薬指導での注意点の知識だけでなく、新人研修・ステップアップ研修へも参加させていただき、薬剤師には多くの可能性があり、それと同時に多くの知識や技術が求められているということを感じました。

薬局実習に関わって下さった方々に心から厚く御礼申し上げます。



神山 侑子さん

部会だより

平成24年度 一般社団法人日本女性薬剤師会 研修講座
診療ガイドライン薬剤コース・スクーリング報告

日時：平成25年2月24日(日) 9:55～16:00

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

共催：沖縄県薬剤師会・沖縄県薬剤師会女性薬剤師部会

【プログラム】

開会の挨拶	女性薬剤師部会 会長 村田美智子
1. 「甲状腺 今 原発の影響を考える」	
	医療法人HSR 名嘉村クリニック 糖尿病・甲状腺センター 幸喜 毅
2. 「リウマチについて」	
	社会医療法人友愛会 豊見城中央病院 腎臓・リウマチ・膠原病内科 上地 英司 (ランチタイム)
製品情報提供「喘息治療薬の吸入指導について」	
	アステラス製薬(株) 学術担当 長藤 慎也
3. 「脳卒中について」	独立行政法人 那覇市立病院 脳神経外科 松山美智子
4. 「胃がん 補助化学療法の向上を目指して」	
	独立行政法人 那覇市立病院 外科部長 宮里 浩
閉会の挨拶	女性薬剤師部会 副会長 狩俣 イソ

＜甲状腺、今 原発の影響を考える ～愛する人を放射線から守るために～＞

がねこ薬局 前濱 朋子

(1) 甲状腺

一般外来における女性の甲状腺疾患の頻度(機能別)は、バセドウ病1人/300人、橋本病1人/10人、腫瘍1人/30人、癌1人/250人。

甲状腺疾患では食品に含まれるヨードは厳しく制限する必要はなく、わかめの味噌汁、ヒジキ煮1椀位では関係ない。ただし、だし昆布には注意が必要である。ヨード含有量は100gあたりワカメ7.8mg、ヒジキ30mgなのに対し、だし昆布228mgのため2～3ヶ月で影響が出る。

甲状腺ホルモンはエネルギー調整(熱の産生)、心拍数の調整、糖吸収の調整、思考を速める脳の発育、筋肉の発達、コレステロール・中性脂肪を下げる、骨の発達に影響する。

アメリカでは子供に少量の甲状腺ホルモンを3年間与えた群ではIQが有意差を持って上がっていると発表されている。

(2) バセドウ病・橋本病

バセドウ病、橋本病は自己免疫疾患と言われている。抗体(免疫)が誤って自分の体(甲状腺)を攻撃することで、甲状腺が刺激され、機能亢進したのがバセドウ病、機能低下したのが橋本病である。自己免疫性甲状腺疾患の発症には、遺伝的要因のほか、環境的要因(ストレス、ヨード)などが影響する。

バセドウ病では、甲状腺ホルモンが増加し、24時間マラソン状態となる。症状はドキドキ、何もしていないのに5～6kg/1～2か月で痩せていく、汗をかきやすい、精神不安、不眠などである。特殊な合併症に足の組織に

炎症を起こし腫れる、前脛骨部腫大、毛根の開大がある。甲状腺量は i) 甲状腺ホルモン (f T 3 / f T 4) と甲状腺刺激ホルモン (T S H) の測定、ii) 甲状腺を刺激する抗体の測定 (T S Hレセプター抗体)、iii) 超音波検査で測定する。抗体の測定方法には3種類あるが、臨床で使われるのはT R A bとT S A bである。治療は薬59%、放射性ヨード治療30%、手術11%である。薬物治療ではメルカゾール、プロパジールが使われる。治療開始後三年でT R A b陰性となるが、5年経過しても陽性では他の治療法を勧める。妊婦にはプロパジールが使われる。

橋本病は、甲状腺ホルモンが足りない状態 (エネルギーがない電池切れの状態) である。症状は寒がり、汗をかかない、食欲不振だけど体重増加、無気力、抑うつ、日中の眠気、月経異常、胎児の発育異常がみられる。うつの治療でリチウムを服用し甲状腺機能低下症になる場合もある。胎児の発育異常でも甲状腺ホルモンのチェックが必要である。薬物治療は甲状腺ホルモン補充療法を原則ずっと続

けることになる。実際には橋本病の10%が対象となり、チラージンS12.5 μ gで良好な場合は薬を中止しても大丈夫な場合もある。

(3) 放射線・甲状腺癌・ヨード

日本には13道県に17か所の原子力発電所が計54基ある。日本の表面積は地球の表面積のわずか0.07%であるが、そこに全世界の原発の約13%がある。被ばくによる癌発生率は年間100ミリシーベルトで0.5%となるが、2011年の原発事故では、文部科学省は福島県内の学校等について毎時3.8マイクロシーベルト (年間線量33.2ミリシーベルト) まで認めた。安定ヨウ素剤の予防服用は13~40歳でヨウ素76mg、ヨウ化カリウム100mgである。この錠剤の代わりになるものとして、「おしゃぶり昆布」56g/袋 (ヨード含量95mg) が紹介された。

講義の中で、被ばく後10年経ってから悪性腫瘍の発症がみられるようになってと話されていた。放射線については、ただ怖がるのではなく、正しい知識を持って対応することが大事だと感じた。

<関節リウマチについて>

関節リウマチの理解として膠原病とはどういう病気かの説明があった。膠原病は自己免疫疾患の総称でその1つに関節リウマチが含まれる。従って、関節リウマチの症状は関節だけに留まらず全身に多彩な症状が出る病気である。

【関節リウマチの定義】

①慢性・対称性に大小関節炎をきたす疾患、②確定診断は関節X線写真で“骨びらん”と呼ばれる骨侵蝕像を見出すこと、③炎症が続くと何らかの身体障害を残し、社会・経済的にも重要な疾患である。

【疫学】

全世界的に0.5~2%の有病率、多くの疫学研究で約1%の有病率。男女比は1:3。好発年齢は30歳代から50歳代にピークが

にしばる薬局 沖山 尚美

あり、高齢者のみの病気ではない。(関節リウマチの関節) 関節面において潤滑油の働きをし、栄養補給の役目も果たしている滑液を包んでいる滑膜に炎症が生じる。炎症性に肥厚した滑膜が骨を侵蝕する。

関節破壊の阻止を行うために、関節リウマチ分類基準が見直された事やアンカードラッグであるメソトレキセートを早期に開始することが重要であると強調された。関節リウマチの鑑別診断においては、感染性関節炎にM T Xを使用することがないよう関節リウマチ分類基準に従って、早期かつ正確に診断を行うことが重要で、ここが医師の腕の見せどころであると話された。医師は日常診療で関節炎をみたら、①関節痛の数、②経過が慢性か急性か、③関節炎の部位を確認し、それに血

清反応、罹病期間、炎症反応を参考に関節リウマチを診断するとの事だった。関節リウマチは「滑膜の炎症＋多関節＋慢性」という特徴から、負荷がかかる関節に炎症を起こす変形性関節炎や、こすれる部分が炎症をおこす乾癬性関節炎との違いをわかりやすく説明して頂いた。更年期障害の関節のこわばりも鑑別すべき1つに挙げられているのを初めて知った。

関節リウマチの関節外症状は多彩で、リウマチ結節、皮膚潰瘍、眼症状、間質性肺炎の具体例が図で示された。中でも注意すべきは間質性肺炎で、急性増悪時には薬剤性（MTX肺炎）やカリニ肺炎（免疫抑制剤使用の場合）の合併も考えることが必要である。

関節リウマチの治療目標は治療選択肢が増え、早期診断と寛解導入が可能になったため、慢性疾患である糖尿病や高血圧と同様に明確なコントロール目標が設定されている。コントロール目標は、①自覚・他覚症状と炎症反応の消失、②身体機能の維持、③関節破壊の進行抑制の3つの寛解をめざすことである。又、関節リウマチの関節の破壊は罹患早期に進むため、治療の機会（Windows of opportunity）を逃さないことが大事である。

MTX、アザルフィジンEN、PSLなど服薬指導時のポイントが紹介された。

＜脳卒中について＞

脳卒中の種類、治療。原因と予防についての講義していただきました。

脳血管障害（脳卒中）は、かつて死因の第一位だったが、悪性新生物、心疾患に次いで3位になっているものの発生率は143人/10万人/年である。又、要介護の最大の原因は脳卒中である。

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血をまとめて脳卒中という。脳出血の原因の多くは高血圧

【MTX】

関節リウマチの中心的な薬剤。治療ガイドラインで推奨Aの薬剤であるが効果発現までに4～8週間かかるため、服薬中断しないよう説明する。現在16mgの週1回服用が認められたが消化器症状や口内炎などの用量依存性の副作用を軽減するために分割投与や葉酸が併用される。葉酸も副作用の程度に応じて10～15mgを分2～3/週に増量可能。MTXも葉酸も飲み方が難しいため高齢者には理解してもらえない事もあり薬剤師の指導に期待したいとの事だった。用量非依存性の副作用にはMTX肺炎があり「発熱、咳嗽、胸痛、呼吸困難」が出現したら受診するよう患者指導をしてほしい。

【アザルフィジンEN】

免疫調整剤なので風邪でも薬は続行可能。欧米では妊娠中でも使用可能。最初3か月は薬疹・発熱の副作用に注意。アザルフィジンENでアレルギーを起こした場合は、サルファ基をもつバクタやアマリールなどのSU剤、セレコックスの使用は避ける。

【PSL】

副作用が多彩。患者には時系列で起きてくる副作用を説明し、長期に服用しないためにも初期の服薬アドヒアランスが重要と説明する。講義内容は濃く膨大、有用な情報も多かった。是非薬剤師会から資料を取り寄せ一読されることをお勧めする。

(有)メディカルハーモニー ハーモニー薬局 戸田 澄之

症による血管の破裂、くも膜下出血の多くは脳動脈瘤の破裂が原因である。

脳梗塞には脳血栓症と脳塞栓症に分類される。脳梗塞は脳の血管が詰まる脳血栓症である。太い血管では（じゅく状硬化）アテローム血栓が原因で起こる。また、脳の深い部分を灌流している細い動脈（穿通枝動脈）の流れが悪くなって起こるラクナ梗塞がある。

脳血栓症（脳梗塞）とは別に脳血管以外の

他臓器で血栓が生じそれが脳に運ばれて脳動脈を詰まらせる脳塞栓症がある。

脳梗塞の治療は、急性期治療もt-P A (発生4～5時間以内) を使った血栓溶解療法、血栓除去療法メルシー (Mer ci) リトリバー治療、血栓を吸引する治療、抗血小板等 (オザグレールNa、アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル) と抗凝固因子 (ヘパリン、アルガトロバン (アテローム血栓症のみ) ワルファリン)、の薬物療法。

脳梗塞を予防する外科的治療として、アテローム変化で肥厚した血管内膜を剥離、切除する頸動脈内膜剥離術 (CEA)、狭窄血管を拡張 (ステントを留置する頸動脈ステント留置術CES) がある。

＜脳出血の治療：血腫の除去＞

くも膜下出血の治療としては、クリッピン

グ手術、動脈瘤塞栓術 (コイル塞栓術)。

アテローム血栓性梗塞やラクナ梗塞は動脈硬化を基盤にして発生する事が多い。

動脈硬化は老化で少しずつ進行し生活習慣病で加速する。

脳卒中の原因としては老化、高血圧、糖尿病、脂質代謝異常症、アルコール多飲、タバコ、不整脈である。

質疑応答では、講師の先生から夜間血圧が高い人で脳出血や脳梗塞を発生し、手術して薬物療法に移行する時夕方又は夜間のCa拮抗薬を処方して、リハビリ療法または一般開業医に回して再度再発した患者さんを診察した時、なぜか夕方又は夜処方していたCa拮抗薬が朝になっている例が多々あり、薬剤師として服用時の変更には疑義照会等の確認を行って欲しいとの要望があった。

＜胃がん 補助化学療法の向上を目指して＞

那覇市立病院 石原 留美子

今回、那覇市立病院の外科部長である宮里先生に“胃がんの補助化学療法”について次の4つのテーマで講演して頂きました。

1. 日本の胃がんの現況

男女とも胃がんの罹患率・死亡率は減少傾向にあり、罹患率は男性が9人に1人、女性は18人に1人、死亡リスクは男性が51人に1人・女性は55人に1人の割合を占めている。

2. 胃がんの症状、検査、治療

【症状】

初期の段階では自覚症状はほとんど無いことが多いが、胃潰瘍を合併することが多いので胃部の不快感、腹痛、出血、貧血、体重減少などの症状がある。

【検査】

胃X線検査、胃内視鏡検査、超音波内視鏡検査、腹部超音波検査、CT検査、MRI検査など。

【治療】

- 胃がん治療の指針：胃癌取り扱い規約14版、TMN分類7版、胃癌治療ガイドライン3版など (一般市民向けとして：胃がん治療ガイドラインの解説)
 - 胃がんの進行度：深達度 (がんの深さ) とリンパ節転移、他の臓器への転移状況によって病期分類する→治療方針を決める上で大切な情報となる。
 - 胃がんの治療法：①内視鏡的治療、②外科治療、③化学療法、④温熱化学療法
 - 切除術式：幽門側胃切除、噴門側胃切除、胃全摘術
 - 胃がん術後に起こること：ダンピング症候群、貧血、骨粗鬆症、逆流性食道炎etc
- ### 3. 胃がんの術後補助化学療法の変遷

【目的】

術後補助化学療法は、治癒切除後の微小遺残腫瘍による再発予防を目的として行われる化学療法である。

【変遷】

米国、ヨーロッパ、日本において様々なトリアルが行われてきたなかで、TS-1内服治療が術後補助化学療法 of 標準治療となった。

【TS-1】の配合成分

- ① テガフル (FT) : 代謝によって5-FUに変換され、主としてDNAの合成を阻害する。
- ② ギメラシル (CDHP) : FTが5-FU以外に代謝されるのを防いで5-FU濃度を上昇。
- ③ オテラシルカリウム (Oxo) : 5-FUの抗腫瘍効果を損なうことなく消化管障害を軽減。TS-1は5-FUの効果を改良・増強した薬剤で、点滴や注射ではなく経口剤なので通院によって治療を受けられるメリットもある。

4. 化学療法に伴う副作用について

【悪心・嘔吐】

抗がん剤による悪心・嘔吐のメカニズム

- ① 小腸にあるクロム親和性細胞が抗がん剤によってダメージを受ける→セロトニンを放出→末梢の迷走神経上にある5-HT₃受容体に取り込まれる→脳の第4脳室最後野：CTZを介して延髄に入る→嘔吐中枢を刺激→悪心・嘔吐
- ② サブスタンスPが神経終末から放出→タキキニンNK-1受容体に取り込まれる→同様にCZTから延髄の嘔吐中枢を刺激する。
 - 対策：嘔吐時には脱水に注意が必要→水分補給、必要に応じて薬の休薬や減量を行う、制吐剤（メトクラプラミド・ドンペリドンなど）を使用する。
 - 制吐剤適正使用のガイドラインあり→抗がん剤によってリスク分類されている。

【食欲不振】

TS-1投与後1～3週間でピークで37.4%に出現

- 症状を抑えるための工夫として、
 - ① 食欲不振の原因を見つけて改善する。

- ② 気分のよい時を選んで食べられるものを食べる。

- ③ 気分転換をはかり、気分よく食卓につけるようにする。

○ 症状が現れたときの対策として

- ① 食べられそうなものを、何時でも食べられるよう用意する。
- ② 食欲をそそるような盛りつけや食卓の雰囲気をはげめる。
- ③ 消化がよく、栄養価の高い食品を選ぶ。

【下痢】

TS-1投与後2～3週間がピーク。

- 対策 薬剤の投与：タンニン酸アルブミン、ビスマス剤、整腸剤、リン酸コデイン、塩酸ロペラミド（6mg/日を1～2日投与することもある）
- ケア：腹部安静、食事は通常の腸炎と同様に、刺激物・高脂肪・乳製品を避ける。高度の場合には絶食する。

【口内炎】

予防・早期対策が重要だが、有効な治療法は確立されていない。

- 含嗽剤や口腔用のステロイド軟膏にて対応。
- 口の中を清潔に保つよう口腔ケアがもっとも大切。
- 2次感染を防ぐことが大切で、必要に応じて歯科医と連携して治療を行う。

【味覚障害】

TS-1による味覚障害の発現機序は明らかではない。

- 対策：味覚の変化をチェックする。うがいをする。唾液分泌を促すようあめをなめる。味蕾の新陳代謝に必要な亜鉛を積極的に摂取する。

5. 最後に

講演後に、宮里先生とお話した際に、「TS-1は相互作用の点で注意しなければいけない薬がいくつかあるので、薬剤師さんには併用薬の確認宜しくお願いします。」とのお話がありました。今後はさらに薬薬連携も進めていきたいと思いました。

部会だより

女性薬剤師部会主催第12回漢方講座報告

日時：平成25年1月20日(日) 11:00~14:20

会場：沖縄県薬剤師会 ホール

講師：清水医院(佐賀県) 院長 清水正彦先生

共催：ツムラ薬品(株)

<漢方講座報告 1>

ぐすく薬局 真地 千明

今回の漢方講座の前半は、証の捉え方やその証に合うと考えられる方剤の生薬がどういう特性を持ち、全体のバランス(気・血・水)の乱れをどう補正していくのかなどを分かりやすく解説していただきました。後半は実際の症例をもとに方剤を検討していくという内容でした。ここでは前半の内容について報告します。

証の捉え方では、まず望診、聞診、問診などから深部体温(至適深部体温36.5℃)が上がっている(裏熱)のか、下がっている(裏寒)のかをみます。例えば、首から上が汗をかき、口渇、尿が濃く、便秘(強い便臭)があり、皮膚に痒みのある場合をみると、

◆便秘(強い便臭)⇒腹部に熱がこもっているため(深部体温上昇)、腸管がカラカラして便秘になる。

◆高張尿(尿が濃い)⇒アンモニア上昇で肝機能低下によりビリルビンも上昇、そのビリルビンが皮膚に沈着し皮膚の痒みが出る。

よって、この場合、ウルソのような利胆作用を持つ茵陳蒿、おなかの中の熱を便として出すアローゼンの役割を持つ大黄、消炎作用のある山梔子という生薬が入った茵陳蒿湯が考えられます。

このように西洋薬と関連付けることで生薬の特性がイメージしやすくなりましたし、一つ一つの生薬が気・血・水のバランスを補正することで、結果として症状が改善していくというのがよく理解できました。

一方で、漢方薬が西洋薬と違うのは、「冷え」といっても「冷え」の原因や病期によって使う生薬が異なるということです。

①新陳代謝低下による「冷え」：熱を産生し深部体温を上げる附子

②胃腸機能低下作用に伴う「冷え」：胃腸を温め、動きを良くする人参、乾姜、呉茱萸、山椒

③末梢のうっ血、微小循環障害のあるための「冷え」：血流を良くする桃仁、牡丹皮(実証)、当帰、川芎(虚証)

④水分の分布・代謝の異常による「冷え」：体内の余分な水分を出す茯苓、白朮、蒼朮、沢瀉

「冷え」だから温める生薬を選択するのではなく、その原因が何によるものか、またその生薬の強さの程度も考慮して選ばなければいけないのだと思いました。

また、漢方薬で体内のバランスを補正していくだけではなく、冷房や薄着、過度なダイエットなど食生活やライフスタイルを見直すことで、外因的な要素を取り除き、より漢方薬の効果を期待できる状態にしていくことも、結果としてホメオスタシスの乱れを正し、いろいろな症状を改善していくことにつながるのだと分かりました。

今回の講座で学んだことを念頭に置きながら、患者さんの話を聞き、毎日の服薬指導に活かしていけるよう頑張りたいと思います。

＜漢方講座報告2＞

こくら虹薬局 宮城 幸枝

去る1月20日（日）に好評の漢方薬講座が開催され、受講しましたのでご報告いたします。

今回は、Ⅰ部に『証の捉え方』漢方生薬の特性と西洋薬との関連性～冷えに関連した現象を通して～、Ⅱ部は事前に出された症例検討という内容でした。

Ⅰ部において、冷えの一般的症状や冷え症に対する漢方治療のポイントについて学んだ後、Ⅱ部ではあらかじめ用意された7症例について検討しました。

Ⅱ部の症例の問診表から「証」の捉え方についての症例検討から1例をご報告いたします。

＜この症例の証の捉え方のポイント＞
「乾燥肌」という点から血虚がある。「皮膚トラブル」という点から瘀血がある。問診表の「体力ある」「汗かき」という点から虚証ではないが、寒熱があり、「足の冷え」があるという点から深部体温が下がっていると考えられる。このことから「中間証～やや実証」と考える。

＜生薬成分の考え方のポイント＞
「炎症（赤みあり）」という点から熱を冷ます生薬の石膏や知母。

「冷え」という点から温める生薬の地黄、

当帰、芍薬を含む四物湯。

「熱」という点から熱を下げる生薬の黄連解毒湯。

使用する漢方としては四物湯と黄連解毒湯を合わせた温清飲、これに平胃散を加えるとのことでした。

漢方薬を構成する生薬の働きをよく理解することで漢方の奥の深さを感じます。また、私の報告ではなかなか分かりにくいとは思いますが、私たち薬剤師でも問診をとることで「実証・虚証」「陽・陰」「寒・熱」など「証」を捉えることができます。漢方薬を学んで知識を深めると日常での服薬指導にすぐ役立つことと思います。講習会の時間はすぐ理解できた感じで帰るのですが、翌日からの実践にはなかなかつながりません。日々継続的な学習が大事だと思います。

余談ですが、起床時に鼻水が止まらない方は、深部体温が下がっているそうです。その対策として寝るときに腹巻をすること、レッグウォーマーを着用することで深部体温を上げることができるそうです。これによって清水先生の病院のスタッフは全員風邪もひかず、すごく体調が良いようです。冷え症状のある方、鼻水の止まらない方はぜひお試しください。

【症例：30歳 女性】

症例に関する質問表	問診表
<p>現病歴：左手のひらや指先にかけて乾燥によるカサつき、痒み、炎症（赤みあり）</p> <p>既往歴：もともと乾燥肌、5～6年前にも上記症状のような皮膚トラブル（腕、手）あり</p> <p>治療経過：デルモベート軟膏、ヒルドイドソフト軟膏を1日1回就寝前に塗布。10日程使用し、症状が落ち着いてきたので自己中断、4～5日後、以前のよう痒み、カサつきが出てきたのでヒルドイドソフト軟膏を塗布。約1週間後、痒み、炎症が出てきたのでデルモベート軟膏も併用。10日程経過。赤みはだいぶ治まり、かゆい部分も減ってきたがまだ部分的には赤み、痒みあり。</p>	<p>体力：ある方 汗：汗かき</p> <p>肌：カサカサ のぼせ：ない</p> <p>冷え：ある（部位は：足）</p> <p>食欲：ある</p> <p>めまい：ない 胃：丈夫なほう</p> <p>食の嗜好：熱いもの、冷たいもの、 どちらでもよい</p> <p>お通じ：よい 便臭：弱い</p> <p>尿の色：薄い 夜間尿：ない</p> <p>ほてり：ない むくみ：ない</p> <p>排尿の状況：尿が近い</p> <p>不眠：ない イライラ感：ない</p>

部会だより

平成24年度日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム参加報告



(株)スズケン沖縄薬品 那覇支店
島袋 さゆり

平成25年2月14日大手町サンケイプラザにて開催されました日本医薬品卸勤務薬剤師会のフォーラム（東京会場）に参加させていただきましたので報告致します。

冒頭の日本医薬品卸勤務薬剤師会 会長 木俣 博文氏の開会挨拶においては、「東日本大震災では医薬品卸の社員は様々な困難の

中で医薬品を医療現場まで届け、関係方面と協力しながら難局を乗り切ったことで大変ご評価をいただいた。また、非常事態においても社会的に期待される医薬品流通体制を維持していくためには、適正な利益を確保することが望まれる。」とのお話がありました。

講演1 「JGSP（2012.10.1改訂）解説」

日本医薬品卸業連合会 薬制委員会委員 貞松 直喜 氏

JGSPとはJapan-Good-Supplying-Practiceの略で、医薬品の供給における品質管理と安全管理に関する実践規範であり、手順書作成におけるガイドラインとなる。「適正管理」、「向精神薬自主管理マニュアル」、「安全管理業務手順書」についての項目がある。

JGSPの意義と役割は「薬事法改正」・「医薬品流通におけるビジョン」等の医療環境の変化と共に見直されている。

JGSPの教育訓練の目的は『各業務従事者の業務能力を保持し、本業務の適正な運用と信頼確保のために教育訓練を実施する。』と記されている。教育訓練の内容は、①医薬品取扱の倫理、②医学・薬学基礎知識、③医薬品の品質・供給に必要な基礎知識、④安全確保業務、⑤その他必要な事項について研修を行い、業務従事者に行った教育訓練実施内容の記録と保存は確実にを行う。

講演2 「MS麻薬取扱いマニュアル作成と活用」

日本医薬品卸勤務薬剤師会 福岡県支部 二宮 ルミ 氏

薬剤師の役割は…麻薬保管管理・出庫・譲渡証作成・帳簿記入・半期報告など。医療機関や薬局で直接接するのは、MSや配送担当者となる。

麻薬の対応は県によって解釈が異なっていることがある。そこで福岡県麻薬協会と卸勤務福岡支部が協力し、MS・配達者のルールブックとして「MS麻薬取扱いマニュアル」を作成した。活用のアンケート結果からも効果が明らかとなった。

『効果』

- ①譲受証の即日回収率の向上
- ②譲受証の押印確認
- ③入札時、麻薬の有無を確認
- ④配送員への麻薬教育研修の充実

配布・研修を行うことで、社員の麻薬に対する意識が徐々に向上してきている。今後、継続したマニュアル活用を働き掛ける事が課題となっている。

会員発表：テーマ【戻り品】

【演題①】戻り品の実態及び課題等の把握

東北ブロック(山形県支部)

戻り品に関わるアンケート調査の実施による戻り品の実態及び課題を取りあげる。①商取引と現実な実態(商取引と説明責任、保管管理の実地が必要であり、現時点では戻り品管理マニュアル運用・考え方に現場間乖離が存在する)、②入帳不可品受入不可の徹底し

(株)スズケン山形営業所米沢支店 山口 誠一 氏

た取り組みの必要性、③卸機能充実化に向けた取り組み強化(コンプライアンス徹底・JGSPの定着・各マニュアル等再学習)、④卸勤務管理薬剤師は専門家として「供給と品質管理」「安全確保」のため、コンプライアンスの徹底に努める。

【演題②】戻り品の中抜けについて

東京ブロック(東京支店)

東邦薬品(株)薬事医薬情報部 杉山 巧 氏

中抜け返品調査の実施結果報告。実際の開封品の写真スライドを用い説明。(再度封が施されていた例・封緘テープがきれいに切られていた例・開封済みのマーキングがされた例)薬局からの返品が8割を占めるため、薬局への注意喚起が必要と考察される。

かる) *見過ごしのリスク(再販の危険、信用問題・健康被害のリスク)等が挙げられる。

薬事法第58条施行規則第219条(封)によると中抜け対策は製造販売業者の義務であるが、その対応はバラバラである。

中抜けの問題点として *経済的損失(中抜けの対応にもコストがかかる) *法的問題(「廃棄前提医薬品」は返品を受入に制限がか

中抜けへの対応策として、①得意先への注意喚起、②MS配送担当者への教育・再徹底、③物流担当者への注意喚起、④製造販売業者への要望等を検討する必要がある。

【演題③】戻り品について

四国ブロック(愛媛県支部)

(株)幸耀 松山営業所 松友 崇浩 氏

受入に関しての社内規定が其々にあるが、現状は得意先との関係が返品基準より優先される事があったり、故意の戻り品があったりする。問題点として、①預かる際の確認不足、②薬価改定前や棚卸前の大量の戻り品、③返品ありきの売り上げ、④得意先の返品に対する考え方、

⑤廃棄物まがいの商品の返品等が挙げられる。

今後の課題として、①MSの戻り品に対する意識向上、②地域内の卸で明らかな返品不可の戻り品に対しての足並みを揃える、③得意先の情報の共有、④流通の近代化等を検討する必要がある。

【演題④】戻り品について～アンケート調査結果より～

九州ブロック(鹿児島県支部)

(株)アトル鹿児島第一支店 大森 真美 氏

管理薬剤師を対象に戻り品についてのアンケート調査を行った結果報告。

どが挙がっていた。

戻り品に関しての意見の中には、「卸連統一の受入基準などのルールの設定・申し入れをする」、「保冷品の戻りはなくすべき」「医薬品であり日用雑貨ではない点を含め得意先に啓発」「医療業界の習慣を改善すべき」「新製品などの営業施策上の販売を慎むべき」な

医薬品は生命関連商品のため有効性・安全性・品質確保が必要であり、卸の役割は安全安心な医薬品をお届けする事が使命となる。再販する事を考えると、卸連統一のきちんとした受入基準などのルールを設定し、医師会・薬剤師会等関係団体への申し入れが必要である。

『感想』

今回フォーラムに参加させていただき、日進月歩の医療業界の中で、法の順守・JGSP厳守のために管理し、意見を出していく事が管理薬剤師の職務であることを痛感させられたと同時に、卸勤務薬剤師の活動の幅広さというものを改めて実感しました。

また、普段の業務の中では支店管轄外や他県の状況、活動を直接知る機会は少ないため、今回いろいろ講演を聞くことができ、とても刺激を受けました。卸勤務薬剤師として医療に貢献できるよう、今回の経験を今後の業務に生かしていきたいと思います。

部会だより

平成24年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会に参加して



沖縄東邦(株)
管理薬剤師 鈴鹿 玲子

平成25年3月21日、平成24年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会に参加しましたので報告致します。

1. 主催者挨拶

日本薬剤師会会長 児玉 孝

2月23・24日に行われた臨時総会の概要について話されました。

まず、インターネット販売訴訟にふれ、規制緩和によるアメリカ的自己責任の概念で全ての分類のOTC医薬品がネットで販売できる事は、国民の為ではなく経済を優先させているだけである。過去にあった深夜バスの高速での事故を例に挙げ、経済優先の規制緩和の悪い例があるのに、同じような事になるのではないかと懸念されていました。

他には、社会保障、税一体改革（消費税の問題等）への対応や、医療制度改革（チーム

医療における薬剤師について等）への対応等の話がありました。

また、日本薬剤師会120周年記念事業の中の会館建設について、今まで会館が無かったので楽しみにしておいて下さいとのことでした。

薬学部の就職率は他の学部に比べて非常に良いことからわかるように、いろいろな職域で薬剤師が働き、全ての職域の薬剤師で仕事が増えている。薬剤師将来ビジョンの作成もされた。良い仕事をする事で薬剤師が国民から信頼されることにつながります、とのことでした。

2. 講演1)「卸勤務薬剤師の将来像 —薬剤師将来ビジョン策定を通して—」

日本薬剤師会理事 木俣 博文

薬剤師将来ビジョンの中の「卸勤務薬剤師の将来ビジョンの策定」がどのような経緯、考えで話し合わせ、作成されたのか説明して下さいました。

医薬品という人々の生命や健康に直接かわる専門性の高い商品の流通を担っている医薬品卸業と、そこに従事する薬剤師にはきわめて重要な責務がある。

- 適正な販売先か確認し、安心安全の流通が出来ているか、JGSP「医薬品の供給と品質管理に関する実践規範」に基づく安全確保業務の徹底。
- トレーサビリティ確立の為に流通履歴の管理
- 公平、公正な視点からの医薬品情報の収集、提供、DI業務
- 人材育成、教育

- 危機管理流通体制の更なる充実を目指す等薬剤師法にもある「医薬品の適正な使用を確保し、安全性を守る」事を持って、国民の健康な生活を確保する事が、私たちの責務である。安心、安全の医薬品流通機能をさらに充実させ、流通分野においても「医療の担い手」であることを認識して、日々の仕事をしていきたいと思いますとの事でした。

3. 講演2)「診療報酬改定から見た卸勤務薬剤師に求められるもの」

日本薬剤師会副会長 三浦 洋嗣

診療報酬の改定時に中医協でどのような議論がされたのか、普段は聞けないであろう舞台裏を聞く事が出来ました。厳しい財政状況の中、薬剤師が今まで以上に職能を発揮し、評価してもらえるよう、議論されていたようでした。

卸勤務の薬剤師の立場から、医薬品流通を通じて「医療の担い手」として、その期待にこたえられるよう努力していかなければならないと感じました。

また今後、消費税が上がっていくことと、薬価についてふれられ、現在は消費税が薬価

に内税として含まれていると考えてよいが、消費税が10%になってくると軽減税率の議論になってくるだろう等の話もありました。

私ごとですが、卸勤務薬剤師となって約1年半が過ぎました。他の人がどんな考えを持ち、どんな事をしているのか興味があり、参加させて頂きました。患者さんと直接対話をする機会こそありませんが、私たちの取り扱う商品の向こうには患者さんがおり、安全で、安心の医薬品を供給することで患者さんとながっていると確信しました。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。

お知らせ

＜県薬が会員に販売している印刷物等＞

○国保総括票	25枚	1冊	100円	○お薬手帳カバー	1枚	22円
○市町村別請求書(その1)	50枚	1冊	160円	○薬歴カード	各1枚	5円
○市町村別請求書(その2)	1枚		10円			
○調剤報酬明細書	50枚	1冊	160円			
○管理薬剤師業務日報	1年分	1冊	600円			
○処方せん	100枚	1冊	160円			

(国保(本人・家族) 青色)
 (社保(本人) 白色)
 (社保(家族) 桃色)

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色(薄青色)14ページ 価格 税抜き12円

【現行リニューアル版】表紙色(薄黄色)34ページ 価格 税抜き22円

部会だより

学校薬剤師について知っていますか？ 「薬の正しい使い方」～学校で薬について話すとき～



学校薬剤師代表理事 前濱 朋子

一年間の連載の成果か、平成25年度には新しく11名の先生が学校薬剤師を引き受けて下さることになった。薬剤師として、薬局、病院などで勤務しながら、学校に合わせて平日の仕事をするようになるので、勤務の調整など大変ではあるが、それ以上に充実感が得られると思う。学校では新学習指導要領に基づき、小学校、中学校、高校の保健体育の時間に「薬の正しい使い方」の授業が始まった。これまでの環境衛生検査に加え、薬剤師もゲストティーチャーとして授業に参加したり、学校に資料を提供するなど、薬の専門家として学校から求められることも多くなった。

平成24年度には、担当校の特別支援校の高校2年生、中学校1～2年生、小学校では先生と保護者を対象に「薬の正しい使い方」について話す機会があった。

「薬の正しい使い方」を基本に、養護教諭と事前打ち合わせを重ね、学校が必要としている内容と、学校から過去に受けた相談内容（例：親の準備したノンアルコールビールとつまみで一人暮らしの祖父の晩酌に付き合っている。放課後の怪我を一晚放置し学校で傷の手当てを受けに来る、少しの事で直ぐに薬を欲しがると等）の答えも話の中に加えるなど準備を進めた。

高校では就職してからのことを考えてお酒、たばこも含めた話をした。また、修学旅行を控えた中学校では旅行先で勝手な薬のやり取りがないように“薬は他人にあげない、もらわない”を理解してもらうように。小学校では保護者対象なので、子供たちへ薬を服用、使用させる際の家庭での指導について話した。

具体的には、高校生では、缶のラベルがそっくりなビールとノンアルコールビール、パッケージ柄が似ているタバコとガムなどを準備し、“お酒、たばこはどっちゲーム”をした。生徒には事前学習をしてもらい、理解度をさらに深め、印象に残すような授業を目的とし、チームティーチングで授業を行った。

中学校では、普段から頭痛薬など携帯し、「上等だから飲んで」と簡単に他人に譲ると聞き、薬の血中濃度、服用時点の意味、副作用などについて話し、簡単に薬を譲る事の危険を理解してもらうようにした。また、“カプセルペタペタ実験（水で服用する理由の実験）”を生徒参加で行った。

小学校では、自己治癒力の話から薬が必要な場合を考えてもらい、家庭で判断力（服薬が必要か、受診が必要か）をつけるような指導をしてほしいと話した。

また、お菓子のパッケージと見違える最近のタバコの箱のデザインを見た保護者からは、「パッケージが可愛過ぎて吸ってみたいくなる」、「子供のカバンに入っているとお菓子だと思うだろう」という意見が聞かれた。タバコは店のレジ横にあることが多いので、日頃から、会計を待っている間に煙草のパッケージを見ておくことで、子供がタバコを持っていることに気づき、喫煙を防ぐ事につながるのではないかと、またノンアルコール飲料でもお酒を飲んでいる気分を味わう事になり、成人してからそのままお酒に移行してしまう危険があるので、お酒やアルコール（ノンアルコール含む）の文字が入った飲料は未成年には禁止を徹底してほしい事などを話した。

他に、血中濃度と服用時点、水で服用する理由について質問があり、「実は味噌汁で薬を飲んでいる」、「医師に怒られるから、飲み忘れた分は次にまとめて2回分を飲んでいた」という告白(?)も聞かれた。

今回使用したタバコを買ったコンビニのオーナーの話では、中高生に頼まれた大人がタバコを買いに来ることがあり、明らかに代理で来ていると分かる時には「売れません。恥ずかしくないですか」と問うこともあるそうだ

(立派だ!)。禁煙については、学校で子どもに話してほしいし、加えて大人への教育も必要でしょうと話してくれた。

最後になりましたが、学校薬剤師を兼任する薬剤師がいる病院・薬局の管理の先生方には、地域への貢献、薬剤師の職能を一般の人に知ってもらおう活動として、これからも学校薬剤師へのご理解ご協力いただきます様よろしくお願い致します。

平成24年度 沖縄県健康教育関係 表彰



石原 英子先生 上原 陽子先生 瑞慶山 純子先生
おめでとうございます

第12回沖縄県健康教育研究大会にて表彰

期日：平成25年2月1日(金) 会場：名護市民会館



左より 瑞慶山純子氏(代理：大城章子氏)、石原英子氏、上原陽子氏

部会だより

学校薬剤師部会研修会報告



学校薬剤師部会
会長 前濱 朋子

平成24年度より、新学習指導要領により、中学校の保健体育の時間に「薬の正しい使い方」の学習が義務づけられましたが、平成25年度より高等学校保健体育でも実施されることになりました。

学校薬剤師は、ゲストティーチャーとして、その授業に関わる可能性があることから、下記の日程で 高等学校用「医薬品教育DVD」の活用についての講習会を行いました（一部予定）。

研修会では、DVDの内容の確認、活用法の他、現場で使える模型資料（カプセル模型、薬物サンプル模型など）も紹介されました。

また、平成25年度から新しく学校薬剤師として活動する先生方も参加され、新旧学校薬剤師で交流を持ちました。

～各会場雑感（笠原記）～

那覇・浦添支部：支部としては久々の懇親会も兼ねた研修会でした。参加者は時間を過

ぎでも懇親や情報交換をしていたようで、このような顔合わせの機会を持つことの意義を再確認しました。

宮古支部：遅くからの講習が終わってからも、懇親会で情報交換等で盛り上がりました。

八重山支部：新空港開港の石垣島での研修会でした。こちらも研修会あとの懇親会での情報交換が有意義でした。

中部支部：遅い昼食を摂りながらの研修会でしたが、熱心に積極的に参加していただきました。

南部支部：中部支部と同日の開催で、中部支部のそれに参加できない先生方の参加もありました。

このように、支部を廻る年度末の研修会も今回で3回目。日頃顔を合わせない先生方ともお話しできることは、いくら携帯電話やメールで意思疎通ができるようになっても大切だと実感した次第です。

支 部	日 時 ・ 場 所
北 部 支 部	平成25年4月 7日(日) 13:00～15:00 名護市産業支援センター
中 部 支 部	平成25年3月31日(日) 13:00～15:00 健康福祉センターうるみん
那覇・浦添支部	平成25年2月23日(土) 19:00～21:30 パシフィックホテル沖縄
南 部 支 部	平成25年3月31日(日) 17:00～19:00 沖縄県薬剤師会館 研修室
宮 古 支 部	平成25年3月26日(日) 20:00～21:30 シモジ薬局2階
八 重 山 支 部	平成25年3月27日(日) 20:30～22:00 大濱信泉記念館



講師：笠原大吾（学校薬剤師部会学術研修担当役員）

月例相談会

第107回健康とおくすり相談会報告



日時：平成25年2月2日(日)

13:00～16:00

場所：識名老人福祉センター(那覇市)

担当：那覇地区薬剤師会



そうごう薬局 新赤十字前店
堀場 弘明

平成25年2月2日(土)、識名老人福祉センター・識名児童館にて、「健康とおくすり相談会」に参加させて頂きました。当日は、識名地域福祉まつりということもあり、たくさんの方々がお祭りに参加されておりました。その一角にて、In BODY(体組成計)と血圧計を用いて、血圧・体重・体脂肪・骨格筋力・筋肉バランス・体成分分析を行い、その結果をもとに一人ひとり薬剤師がついて説明を行うのと同時に、一人ひとりの既往歴・服薬状況・健康食品摂取状況・食生活・運動習慣等をお伺いいたしました。当日、相談会にいらした方々は20代～80代ととても年齢層が幅広く感じられました。その中で、まだ通院はしていないけれども普段の健康を心配されて参加される方が非常に多かったです。

やはり、そのような方々には普段の食生活や運動習慣についてのお話がメインになってきますので、普段のお薬を中心とした調剤薬局での服薬指導とは異なる体験ができたと感じております。私は、弊社の健康増進を目的とした予防事業に参加していた経験があったため、一人ひとりの食生活と運動習慣の改善を促すことの難しさをとても実感しておりました。「わかってはいるけど、やめられない。」「何が原因で体重が減らないのかわからない。」このようなお話を聞くことが非常に多く感じます。その際には、言葉のみで説明するだけでなく、見てわかる資料などを一緒にお渡

ししながらバランスの良い食事とはどういうものであるか、運動するにはどのような事に注意しながら運動し、どのくらいの消費カロリーがあるのか、視覚や模型でもよいので重さを感じさせ触覚を刺激することが非常に大切であると感じます。

今回、参加されていた薬剤師の諸先輩方はとても経験が豊富であり、各自使用できる資料を準備して参加され、相談された対象者様に合った説明をされていたことが非常に印象的でした。普段はなかなか、弊社以外の薬剤師の方々と接する機会が御座いませぬので、とても良い刺激になりました。まだまだ経験の浅い若輩者ですので、今までですと一つの調剤薬局を見ることにしか視点が及んでいませんでしたが、このように薬剤師というものがどのような知識を持ち、どのような事ができるのかを、より積極的に外部へ発信していく必要性をとても感じました。薬剤師が一体どのような事ができるのか知らされていないことが多々あると思います。その一つ一つをしっかりと伝えていき、魅力的なものにしていくことで更なる薬剤師の職能の拡がりにも繋がってくると思います。是非、今後もこのような機会に参加させていただき、地域医療へ貢献することで、少しでも皆様のQOLの向上に寄与できればと思います。

この度は大変ありがとうございました。

(写真提供：那覇地区薬剤師会)

健康とおくすり相談員

○姫野 耕一

○堀場 弘明

○宮城 幸枝

○外間 安次

委員会だより

広報担当理事 宮城 敦子

春うらら。新年度を迎え、気持ちも新たに我々広報委員も張り切っているところだ。今号では、「沖縄県医師会のマスコミとの懇談会」と「RBCラジオ出演」について報告する。

◆ 沖縄県医師会のマスコミとの懇談会 ◆

日時：平成25年3月14日(木) 19:30～21:00 会場：沖縄県医師会館 会議室

沖縄県医師会では、10年ほど前から毎年4回、マスコミの方々と懇談会を行っている。今回は沖縄県医師会のご厚意により、当会広報委員会3名(宮城敦子、前濱朋子、事務局大城)がオブザーバーとして参加させてもらった。

沖縄県医師会の玉井修理事の進行により、玉城信光沖縄県医師会副会長のあいさつで始まる。参加者は医師会から12名(おもに広報委員)、マスコミ関係者は10名(琉球放送、NHK、沖縄テレビ、琉球新報、沖縄タイムス等)。

懇談会は、テーマに沿って30分ほどの講演が2題あり、その後、意見交換をする。今回は、「看取り」について、アドベンチストメディカルセンターの八浪祐一先生、オリブ山病院緩和ケア病棟の看護師、儀間昌代氏が講演された。「看取り」を考えることは、すなわち「どう生きるか」、「人間の生と死」を考えることに繋がる。筆者は自分なりの死生観を改めて認識し、思考が「尊厳死」、「脳死」、

「リビングウィル」、そして「臓器移植」へと広がっていくのを感じた。

講演後の質疑応答&意見交換では、マスコミの方々は一般市民の視点、またはその代弁者としての立場から、絶え間なく発言する。応酬が続くなか、広く深い見識を感じさせるものだった。

これまでに取り上げられたテーマは、「医療と消費税」、「臓器移植について」、「産科医不足」、「女性の自殺関連事象」など、一般人が関心をもつ社会問題が多い。

これを機会に沖縄県医師会の広報委員の先生方と当会広報委員の懇親を深めていきたい。

広報委員としてのありかたについて考える、いいきっかけになった。



玉井修先生を囲んで

◆ RBC i ラジオ (琉球放送) の「シャキッと i」に出演 ◆

琉球放送より、「薬剤師不足について」の取材申し込みがあり、当会を訪れた土方 浄アナウンサーの取材に広報委員の私宮城が対応した。

薬剤師職能や薬剤師会の活動に関心を持った同アナウンサーから、後日再び取材依頼があり、我喜屋美香理事が対応した。テーマは「ジェネリック医薬品について」である。

放送は次のとおり。

RBC i ラジオ「シャキッと i」
(月～金 AM6:00～9:00)

8時20分頃から放送される「気になるニュース」に出演。

○3月25日(月) 宮城 敦子(広報委員)

○4月 1日(月) 我喜屋美香(理事)



当会に2回取材に訪れた土方浄アナウンサー

寄付

沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式報告

日時：平成25年2月26日(火) 13:30~13:45
 場所：琉球新報社 社長室

去る2月26日、四師会による沖縄県交通遺児育成会への募金贈呈が、琉球新報社社長室にて行われました。

四師会の会長を代表して宮城信雄医師会会長より、「平成2年より寄附を始め今年で23回目になる。平成11年度まではチャリティー写真展を開催、その後も寄附を続けるため四師会が協力、各関連施設へ募金箱を設置し、募金活動を行っている。患者も含め、一人一人の心のこもった募金である。」と趣旨が説明されました。

富田詢一交通遺児育成会理事長（琉球新報社長）から、交通死亡事故は少なくなっているが、そういう状況下においても、沖縄県は飲酒運転ワースト上位であるという県下交通事故状況が述べられ、「当育成会事業をご理解のうえ、毎年大変貴重な寄附金を賜り御礼を申し上げます。この度の尊いご芳志については、遺児達の学業上の不安を和らげ、強く逞しく成長して将来立派な社会人になるよう有効に活用させていただきます。今後ともご支援下さいますようお願い致します。」とお礼のご挨拶が続きしました。

引き続き、屋我嗣寿男交通遺児育成会事務局より、

「当育成会では、昭和55年から交通事故

で父母を亡くした小・中・高・特別支援・専門・大学生を対象に“奨学・育成金”等を給付してまいりましたが、給付開始以来現在に至る32年間で、延べ7,783人の交通遺児を支援することが出来ました。平成24年度は111人の交通遺児に奨学・育成金を給付し、小・中学校入学及び中学校卒業の交通遺児20人に激励金、新たに交通遺児となった児童・生徒2人に対し見舞金、また、健全育成を目的としたリーダー育成金では遺児4人を九州へ派遣するなど、合わせて137人に対して、10,292,000円を給付する事が出来ました。」

と、実績報告がなされ、毎年続けている寄附に感謝の言葉がありました。

本会におきましては、募金額を歯科医師会及び看護協会と同額にて予算化しており、下記のとおり寄附したことをご報告致します。

（文責：沖縄県薬剤師会事務局 大城）

○平成24年度四師会募金額

沖縄県医師会	739,169円
沖縄県歯科医師会	50,000円
沖縄県看護協会	50,000円
沖縄県薬剤師会	50,000円
合 計	889,169円



左より 比嘉良喬歯科医師会長、奥平登美子看護協会会長、神村武之薬剤師会長、宮城信雄医師会長、富田詢一交通遺児育成会理事長

交通遺児育成に88万円
 県内医療4団体

県医師会の宮城信雄会長＝写真右から2人目、県歯科医師会の比嘉良喬会長＝同左端、県薬剤師会の神村武之会長＝同右端、県看護協会の奥平登美子会長が26日、那覇市の琉球新報社を訪れ、県交通遺児育成会(理事長・富田詢一琉球新報社社長)に、4団体からの寄付金88万9169円を贈った。

寄付金は、医療機関に募金箱を置くなどして募った。4団体からの寄付はことして23回目、総額は1615万円余。宮城会長は「継続していくことが大事だ」と述べ、富田理事長は「大変ありがたい」と感謝した。



琉球新報 平成25年2月27日 (水)

投稿

“在宅医療推進のための多職種連携研修会”に参加して



理事 笠原 大吾

平成25年3月10日(日)、浦添市公民館3階大ホールにて浦添市在宅医療ネットワークの主催で標記研修会が開催された。浦添市医師会は、平成21年に在宅医療ネットワークを立ち上げ、平成23年度には経済産業省の“医療・介護における規制改革・産業創出事業”を獲得し、IT等を活用した医療・介護周辺サービス産業創出調査事業を展開した。翌平成24年度には、厚生労働省の“在宅医療連携拠点事業”を続けて獲得し(沖縄県では、浦添市医師会の他、中部地区医師会も沖縄県が推薦する枠として本事業を獲得している)、さらに多職種連携を促進しているところである。本講習会は、多職種が連携して展開する地域包括ケアシステムを展開するためのリーダー育成のためのものである。自分は、実行委員の一人として、薬剤師という職種で本研修会の企画に関わったのでここに報告する。

“在宅医療連携拠点事業”は、すでに超高齢社会である日本のあるべきケアのシステム(医療、福祉、生活支援、予防、住まいの5つのキーワードより成る)として平成37年(2025年)までの実現を国がめざしている“地域包括ケアシステム”のサービス体制の在り方をいろいろな機関が中心となったモデルで展開する事業であり、全国105箇所がその対象となっている。浦添市医師会も、中部地区医師会も、“医師会モデル”として採択が決まったものである。

研修は、朝9:50から16:45までとほぼ丸1日におよぶ内容の濃いものであった。午前中には、国立長寿研究センター在宅連携医療部長の三浦久幸氏による「在宅医療拠点事業の目的と拠点の役割について」、かじま



やークリニック院長の山里将進先生(県薬の第1回在宅医療に関する講習会で基調講演をいただいた沖縄県内の在宅医療の草分け的存在の医師)による「訪問診療の実際ーかじまやークリニックにおける在宅診療への取り組みー」、名嘉村クリニック副院長の大濱篤先生(九州山口薬学大会沖縄大会の在宅医療のセッションで基調講演をいただいた本事業のリーダーである医師)による「これから在宅医療に取り組むにあたってーやりがい・実務・報酬・制度ー」、「浦添在宅医療ネットワークの活動」と座学の講演が続いた。昼食をはさみ、午後には、グループワーク(スモールグループディスカッション(SGD))が行われた。「多職種ケアカンファレンス」ならびに「がんの症状緩和と多職種による在宅療養支援」という2題で行われ、前者は、KJ法を使って、後者は直接ディスカッションをするという形式であった。それぞれ、全12グループから何グループかずつ報告を聴き、振り返りを行った。この、SGDは、多職種連携を基本とする“地域ケア会議”では必須であり、おそらく6年制卒ではない薬剤師は最も苦手とするものでないかと思う。

今後、地域で薬剤師が、“地域ケア会議”のメンバーとしてスムーズに参画していくためには、薬剤師自身のスキルアップに加え、物おじせずに多職種と薬剤師のみにわかる専

門用語ではない共通言語を使用して議論することができる訓練を積むべきであろうと痛感した。今回の研修には、浦添市で在宅医療を展開している7薬局に加え、近隣の市町村でも尽力している薬局にも幅広く声掛けをして多くの薬剤師に参加してもらった。薬剤師からは、参加してよかったという感想だけでなく、これから地域で薬剤師が果たすべき使命を感じ取ってもらったと確信している。今後、これを生かして各地区でリーダーとして展開してもらおうことと同時に、薬剤師の中でも勉強会を自発的にやっという機運が高

まったことは何よりの収穫ではなかったのかと思っている。また、主催者側からは、薬剤師の参加の多さと、参加した薬剤師の積極性に驚きの声が上がっていた。このことは、逆説的に今までいかに薬剤師が地域では顔の見える存在でなかったことを示していると思われるが、本当のかかわりはこれからである。浦添地区はその意味で、沖縄県のそして全国モデルとなる地域であると思うので、徐々にこういった活動を広げていきたいと考える。

参加していただいた多くの薬剤師の皆様に深謝いたします。

投稿

認知症ケアについて考えてみませんか？

～第2回沖縄認知症ネットワーク研究会学術集会について～

沖縄認知症ネットワーク研究会 世話人（薬剤師会代表）
琉球大学医学部附属病院薬剤部 潮平 英郎



1. はじめに

前号の県薬会報誌に沖縄認知症ネットワーク研究会について掲載して頂いたところ、会員の方からの反響があり、「次の講演会の予定を教えてください。」との問い合わせがありました。興味を持って頂きありがとうございました。今回は、現在決まっている次回の予定についてPRさせて頂きたいと思っております。

2. 第2回学術集会

沖縄認知症ネットワーク研究会としての第2回学術集会は、右記の通り予定されています。

今回は、沖縄県薬剤師会も後援として研究会に参加する予定となっています。薬剤師会会員の皆様が認知症ケアに関心を持たれ、研究会に参加して頂ける事をお待ちしています。

また、この研究会を足がかりに、薬剤師会の中で広く認知症ケアについて意見交換ができればと思います。一緒に認知症ケアを考えてみたいと考えている皆様、これから認知症ケアについて勉強してみたいと思っている皆様、是非ご参加下さい。

日 時：平成25年5月11日（土）
18：30～20：00

場 所：沖縄県医師会館3階ホール

一般演題：未定

特別講演：「認知症の画像診断
—もの忘れセンターでの実践と最新情報—」

演 者：国立長寿医療研究センター
放射線診療部

部長 伊藤健吾 先生

座 長：琉球大学大学院医学研究科
精神病態医学講座

教授 近藤 毅 先生

年 会 費：医師以外500円

（会員になられた方は参加費が
減額されます。）

参 加 費：会 員 500円

非会員 1,000円

投稿

“平成24年度食品の安全・安心意見交換会”に コーディネータとして参加して



沖縄県薬剤師会理事
笠原 大吾

去る平成24年10月26日(金)に沖縄県庁4階講堂にて行われた、意見交換会にコーディネータの大役を務めさせていただく機会を得ましたので、内容についてご報告いたします。

本企画は、毎年開催されていますが、平成24年度は、「第2期沖縄県食品の安全・安心推進計画」に基づいての取り組みの一環としての開催です。意見交換会ですので、広く県民にご案内をして参加者を募っています。

内容は、基調講演としてNHKの科学・環境番組“ためしてガッテン”のディレクターとしてお馴染みの北折 一氏により「ガッテン流で考えよう！健康生活の極意！～インチキダイエットの見破り方～」があり、そのあと、メインのパネルディスカッションに入りました。テーマは、「科学の目で考える健康と食品の安全について」で、パネリストは基調講演の北折一氏の他に、比嘉勝美氏（コープおきなわ生活協同組合連合副理事長）、屋比久善昭氏（沖縄県環境科学センター微生物課長）、大庭真由美氏（うるま市南原小学校教諭）、国吉秀樹氏（沖縄県福祉保健部健康増進課長）、阿部義則氏（沖縄県環境生活部生活衛生課長）の面々でした。それぞれ、比嘉副理事長は、生協の立場で“リスクゼロ”ということはないという前提で、“リスク”と“ベネフィット”のバランスの良い判断力を養うことが課題であり、生協が実施している食品の独自検査について述べられました。阿部課長は、県生活衛生課として企画している小学校等の“食品の安全・安心授業”の取り組みの紹介について述べられました。この出張授業を受けたうるま市南原小学校大庭教

諭からは、その際の感想等について発言がありました。国吉健康増進課長からは、食に関わることとして、沖縄県では肥満や生活習慣病が問題になっており、その対策のことなどに触れました。

一方、NHKの北折氏は、メディアとしてこれらの適切な情報発信の責務等についての発言がありました。

これらを、手際よくまとめるのがコーディネータとしての職務なのですが、意外と質疑応答が多く、事前と違った展開になって時間内に終われるかどうか冷や汗ものでした。しかし、全体的には、例年よりは引き締まったまとまった意見交換会であるとの評価だったようで、正直ほっとしております。今回は、1年半前の東北の大震災に引き続いて起こった福島原発の事故の放射線による汚染についてまだ沖縄県においても感情的な部分が残っている時期であったので、シビアな質問も出ることも想定していましたが、そのような質問よりはむしろ県内の食品の安全・安心に関する県の取り組みなどについての質問のみで、これだけ被災地から離れていると、関心も薄いのかもしれないという感想すら抱きました。今後、薬剤師も薬のみならず食の安全・安心に関して関わることも大いにあり得ますので、これらのことについては日頃からアンテナを高くして情報を収集しておくことが必要だと思いました。

今回、このような機会を与えていただきました、関係各位に感謝申し上げます。



(写真提供：沖縄県生活衛生課)

2013年3・4月号 : Vol.28 No.2
薬事情報センター TEL : 098-963-8931
FAX : 098-963-8937

薬事情報おきなわ No.221

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 平成25年2月22日付

区分	販売名 ()内は識別コード	規格単位	薬価	会社名	成分名:適応症・効能効果
内 用 薬	コレアジン錠12.5 mg (CL 12・5)	12.5mg1錠	385.40	アルフレッサ ファーマ	テトラペナジン:非律動製性不随意運動治療薬《ハンチントン病に伴う舞踏運動》(新有効成分)
	ミニリンメルトOD錠60 μg (識別コードなし)	60 μg1錠	117.30	フェリング・ ファーマ	デスモプレシン酢酸塩水和物:ペプチド系抗利尿ホルモン用剤《尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症・中枢性尿崩症》(新効能・新用量・剤形追加)
	トビエース錠4mg (FS)	4mg1錠	190.90	ファイザー	フェソテロジンフマル酸塩:過活動膀胱治療剤《過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁》(新有効成分)
	トビエース錠8mg (FT)	8mg1錠	286.40		
	ホスリボン配合顆粒 (ZP85)	100mg1包(リンとして)	68.70	ゼリア新薬工 業	リン酸二水素ナトリウム水和物/無水リン酸水素二ナトリウム:経口リン酸製剤《低リン血症》(新効能・新用量・剤形追加)
	エリキユース錠2.5mg (893/21/2)	2.5mg1錠	144.90	ブリistol・マ イヤーズ	アピキサパン:経口FXa阻害剤《非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制》(新有効成分)
	エリキユース錠5mg (894/5)	5mg1錠	265.20		
	エルカルチンFF内用液10%	10%1mL	70.40	大塚製薬	レボカルニチン:レボカルニチン内用液《カルニチン欠乏症》(新有効成分)
	アクトネル錠75 mg (アクトネル75)	75mg1錠	2945.50	味の素	リセドロン酸ナトリウム水和物:骨粗鬆症治療剤《骨粗鬆症》(新用量・剤形追加)
	ベネット錠75 mg (@312/75)	75mg1錠	2945.50	武田薬品	エベロリムス:抗悪性腫瘍剤(mTOR阻害剤)《結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫》(新効能・新用量・剤形追加)
	アフィニトール分散錠2mg (NVR/D2)	2mg1錠	5376.30	ノバルティス ファーマ	
	アフィニトール分散錠3mg (NVR/D3)	3mg1錠	7867.70		
	ディレグラ配合錠 (H@)	1錠	62.00	サノフィ	フェキソフェナジン塩酸塩/塩酸プロイドエフェドリン:アレルギー性疾患治療剤《アレルギー性鼻炎》(新医療用配合剤)
	アメバロモカプセル250mg (PARKE DAVIS)	250mg1カプセル	431.90	ファイザー	パロモマイシン硫酸塩:腸管アメーバ症治療剤《腸管アメーバ症》(新有効成分)
マラロン配合錠 (GX CM3)	1錠	484.30	グラクソ・スミス クライン	アトバコン/プログアニル塩酸塩:抗マラリア剤《マラリア》(新有効成分)	
注 射 薬	ナーブロック筋注2500単位	2,500単位 0.5mL1瓶	28,902	エーザイ	B型ボツリヌス毒素《痙性斜頸》(新有効成分)
	トレシーバ注 ベンフィル	300単位1筒	1,796	ノボ ノルディ スク ファーマ	インスリンデグルデク(遺伝子組換え):持効型溶解インスリンアナログ注射液《インスリン療法が適応となる糖尿病》(新有効成分)
	トレシーバ注 フレックスタッチ	300単位1キット	2,546		
	ビデュリオン皮下注用2mg	2mg1キット(懸濁 用液付)	3486.00	アストラゼネカ	エキセナチド:2型糖尿病治療薬(GLP-1受容体作動薬)《2型糖尿病(ただし、食事療法・運動療法に加えてスルホニルウレア薬、ビッグアナイド系薬及びチアゾリジン系薬(各薬剤単独療法又は併用療法を含む)による治療で十分な効果が得られない場合に限り)》(新効能・新用量・新剤形)
	エルカルチンFF静注1000mg	1,000mg5mL1管	934	大塚製薬	レボカルニチン《カルニチン欠乏症》(新有効成分)
	シムジア皮下注200mgシリンジ	200mg1mL1筒	71,297	ユーシービー ジャパン	セルトリズマブ ベゴル(遺伝子組換え)剤:TNF α 阻害薬《既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)》(新有効成分)
外 用 薬	ニュープロパッチ 2.25mg	2.25mg1枚	270.30	大塚製薬	ロチゴチン:ドパミン作動性パーキンソン病治療剤。レストレスレッグス症候群治療剤。《2.25mg、4.5mg製剤:パーキンソン病、中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群(下肢静止不能症候群)、9mg、13.5mg製剤:パーキンソン病》(新有効成分)
	ニュープロパッチ 4.5mg	4.5mg1枚	416.50		
	ニュープロパッチ 9mg	9mg1枚	641.80		
	ニュープロパッチ 13.5mg	13.5mg1枚	826.50		



Medical News

●処方薬の「安心感」、OTC薬は「高いけど手軽」(薬局新聞 2月14日)

医薬品メーカー36社の調査部門グループ「ファルマミーティング(Jpharma)」および医薬品調査会社14社からなる「JMRA加盟メディカル調査研究グループ(JMMRG)」が実施した一般生活者に対する調査結果から、処方薬は医師に診てもらえる信頼感がある一方、OTC薬は手軽なものの少し高いという印象を抱かれていることがわかった。調査はここ1年間に医療機関を受診し、処方を受けた一般生活者2000人を対象に行われた。

●薬物依存、向精神薬が2位に 国立研究センターが10年調査(毎日新聞 2月22日)

薬物依存症の原因として、精神科の医療機関などで処方される向精神薬が急増し、シンナーなど有機溶剤を初めて上回ったことが、国立精神・神経医療研究センターの調査で分かった。覚醒剤に次ぐ2位で、乱用の対象が「捕まらない薬」にシフトしつつあることを示した。調査は、全国1612施設に同年9～10月に関わった患者の原因薬物などを尋ね、回答があった1021施設(63.3%)の有効症例671を分析。それによると、薬物依存症の原因で最多の覚醒剤は53.8%(361例)。次いで睡眠薬と抗不安薬を合わせた向精神薬が17.7%(119例)に上り、シンナーやトルエンなど有機溶剤は8.3%(56例)だった。

●後発品の患者説明は3割～薬局薬剤師の努力不足が浮上(薬事日報 3月1日)

厚生労働省は2月27日、後発品の使用状況に関する2012年度調査の結果速報を、中央社会保険医療協議会総会に示した。調査を行った昨年9月の1週間の取り扱い処方箋に記載された医薬品で、一般名処方の割合は14.7%となった。ただ、薬剤情報提供文書を交付する場合、全ての患者に口頭説明している薬局の割合が31.5%にとどまるなど、薬局薬剤師の努力不足も浮かび上がった。後発品調剤率(数量ベース)と薬局数の分布を見ると、「30%以上35%未満」が前回11年度に比べて3.1%増の16.3%、「35%以上40%未満」は9.3%増の17.8%と大きく伸び、「40%以上45%未満」も8.9%あった。

●新患の36%アルコール依存 背景にストレス(共同通信 3月11日)

東日本大震災の被災地で、住民の心のケアが重要な課題になっている。アルコール依存症患者の専用病棟を持つ仙台市の東北会病院では、新規患者に占める同依存症の割合が2012年、36.2%と、08～10年(平均32.2%)から4ポイント上昇。最も高かった12年6月は48.0%に達した。また、日本医師会総合政策研究機構が昨年8～9月に実施した3県の医師の意識調査で、沿岸部で診療に当たる784人の医師の79.1%が「こころのケアが必要な住民がいる」と答えた。

●後発品使用促進へ5億円以上を投入 厚生省(薬局新聞 3月13日)

厚生労働省は、全国医政局関係主管課長会議の中で予算措置を他局と合算して今年度は5.3億円を投じ、一層の使用促進を図る見込み。

●処方せん枚数減少が数字上からも明らかに NPhA調査(薬局新聞 3月27日)

日本保険薬局協会は、2013年1月現在の会員の状況を公表し、処方せんの集中率は70%を超える薬局が全体の7割以上に達しているものの、処方せん枚数そのものは減少傾向にあることがわかった。またOTC薬の取扱いも全体の9割にのぼることから“調剤専門”の色合いが薄れつつあることが示唆された。OTC薬を販売していない薬局の理由では「近隣病院との兼ね合い」、「基幹病院の診療に支障があるため」、「医師の診療に妨げの恐れ」など医療機関への配慮が大半を占めていた。調査は本年1月18日から31日までの期間に行われ、正会員2133薬局から回答を得た。

●18歳未満「効果確認できず」=抗うつ剤の注意改訂要請-厚生省(時事通信 3月29日)

厚生労働省は、1999年以降国内で承認されたSSRIなどと呼ばれる抗うつ薬について、海外で18歳未満に投与したところ効果が確認できなかったとして、添付文書の「使用上の注意」を改訂し医師に慎重な投与を求めよう日本製薬団体連合会に要請した。対象は、レクサプロ▽ジェイゾフト▽サインバルタ▽ルボックス▽デプロメール▽レメロン▽リフレックス▽トレドミンの8製品。医薬品医療機器総合機構(PMDA)の報告書によると、海外の製薬会社が実施した調査で、抗うつ薬と薬に見せ掛けた錠剤を18歳未満の子どものもとに試したところ、錠剤でも6割で改善効果が見られ、効果に有意差がなかったという。

●処方箋と調剤録の外部保存を認める～厚生省(薬事日報 4月3日)

厚生労働省は、保険薬局の調剤済み処方箋と調剤録の外部保存を認める通知を、3月25日付で各都道府県等に発出した。病院、診療所の診療録と同様に、保険薬局の調剤済み処方箋、調剤録についても外部保存できるようにした。電子媒体、紙媒体ともに可能であり、薬局に保存場所を確保せずに済むため、省スペース化の実現や作業場所の有効活用につながる。

●ネット販売に6割が賛成～電通総研(薬事日報 4月9日)

一般薬のインターネット販売に6割が賛成していることが、消費者に行った意識調査の結果で分かった。今後ネット販売で何らかの一般薬を購入する可能性があると回答した消費者も約8割に上った。調査は、3月に全国20～60代の男女2000人を対象に行われた。その結果、一般薬のネット販売に賛成した人は58.7%、反対は10.7%にとどまった。賛成派には男性が多いことが特徴で、特に40～50代の男性では7割以上が賛成とした。一方、女性は、副作用が発生した場合の対応や飲み合わせの判断などに不安を示す割合が高く、ネットでの購入に慎重な姿勢がうかがえた。

●厚生省、後発品促進でロードマップ(薬事日報 4月10日)

厚生労働省は5日、後発品の使用促進に向けた新たなロードマップを発表。後発品の新たな数量シェア目標は、長期収載品と後発品を含めた置き換え率の新指標を用い、2018年3月末までに60%以上を目指すことと明記。業界団体に供給指針の策定、全後発品メーカーに「安定供給マニュアル」の作成を求め、ロードマップの達成状況をモニタリングすることを盛り込んだ。



放射線検査での患者取り違い

事例 1

レントゲン撮影を行うため、診療放射線技師は患者を名字のみで呼び入れた。その際、患者自身に氏名を名乗ってもらったことになっているが、確認しなかった。そのため、患者Aと患者Bを取り違えて、胸部レントゲンを撮影した。

事例 2

PET検査のFDGを投与するため、研修医が患者Aの氏名を呼んだところ、骨シンチ後、廊下で待機していた患者Bが注射室に入室した。注射室に呼び入れた際は、患者が持参する予約票、問診票を確認したうえで、患者に氏名を名乗ってもらったことになっているが、研修医はその手順を踏まずに患者Aの氏名を口頭で呼び、患者Bが背いたので準備を始めた。指導医は研修医が決めた手順で確認した患者Aだと思い、患者BにFDGを投与した。FDG投与後に患者Bに問診票の提示を求めたところ、違う患者であることがわかった。

◆FDG:放射性医薬品基準フルドデキスチングルコース注射液

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・必ず患者自身に氏名を名乗ってもらう。
- ・院内で取り決めた放射線検査時の患者の確認方法を徹底する。
- 例) 患者が持参した予約票や問診票などを確認する。
- ・検査種別ごとの色分けカードを作成し、患者に渡す。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
<http://www.imed-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたる保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.jcqh.or.jp/>



手動式肺人工蘇生器の組み立て間違い

事例 1

患者の全身状態が悪化し、呼吸状態が低下したため、バッグ/バルブマスク(MMI)シコン蘇生(バッグ)で蘇生を試みたが患者は低酸素血症となった。その原因は誤って組立てられたバッグ/バルブマスクを使用していたことが考えられた。組み立て間違いは、(1)患者呼吸弁を逆止弁ユニット内部の逆止弁が入る部分に取り付けた、(2)逆止弁をエア一吸入アセンブリーの本体内部に取り付けたの2箇所であった。

事例 2

人工呼吸器の回路交換を実施した際、アンブ(アンブ蘇生/バッグ)への酸素はSLで使用した。担当していた看護師は今までに何度かアンブを使用したことはあり、いつもの手こたえ(入っている感覚)がなかったが、押し方が悪いと考えた。その後、患者のSpO₂、心拍数が低下し心臓マッサージを実施した。後日、アンブの使用方法来に疑問を持ち確認したところ、アンブの腰弁の装着間違いを発見した。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・手動式肺人工蘇生器の洗浄・組立ては臨床工学部など担当部署を決めて行う。
- ・手動式肺人工蘇生器は、担当職員が説明書に基づいて組立てを行い、動作の確認をする。

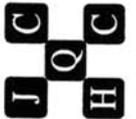
総合評価部会の意見

- ・手動式肺人工蘇生器の組立ては習熟した者が行い、組立て後に必ず動作の確認を行う。
- ・手動式肺人工蘇生器を患者に使用する際は、換気が行われているかを胸部の動きに基づいて確認する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
<http://www.imed-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたる保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.jcqh.or.jp/>



医療事故情報収集等事業

No.75 2013年2月

輸液ポンプ等の流量と予定量の入力間違い

事例

患者の高カロリ輸液を更新した際、流量を入力するところ予定量を入力した。使用した輸液ポンプ(テルフュージョン輸液ポンプTE-171(平成11年購入))は、医療事故防止対策適合品マークが付いていない機種であり、流量と予定量の設定を同じスイッチで切り替えて入力する構造であった。1時間後、患者の呼吸状態が悪化し、高カロリ輸液を全量投与されているのを発見した。確認すると、輸液ポンプの流量設定が90mL/hのところ3900mL/hとなっていた。患者は、けいれん発作、呼吸停止があり、血糖値は976mg/dLであった。

輸液ポンプ等に関する医療事故防止対策について、厚生労働省より関係企業を対象に通知が出され、医療事故対策適合品マーク付きの安全を考慮した輸液ポンプ等も販売されていますので参考してください。



○医療発第0318001号 平成15年3月18日付
<http://www.info.umda.go.jp/fyoyujiko/file/20030318.pdf>
 ※上記の厚生労働省通知の基準に適合する輸液ポンプ等であることを示す日本医療機器工業会の医療事故対策適合品マーク

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・輸液ポンプ等に流量と予定量を設定後、確認を徹底する。
- ・医療機関内で使用している異なる機種の輸液ポンプ等の違いを十分理解する。

総合評価部会の意見

- ・現在医療現場で使用されている輸液ポンプ等は、医療事故対策適合品マークのついていない機種もあるので注意しましょう。
- ・医療機関内で使用している輸液ポンプ等について教育をしましょう。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
<http://www.ined-suic.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
 ※この情報は、医療従事者の取組を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
 電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.jcqhcc.or.jp/>



No.76 2013年3月

2012年に提供した医療安全情報

◆以下の類似事例が発生しています。

No.62 患者の体内に植込まれた医療機器の不十分な確認

担当医は患者の情報を十分に聴取しないまま、ペースメーカー植込み術後の患者にMRI検査の指示を出した。診療放射線技師はMRI問診票が届いていなかったため、患者に口頭で体に金属類が植込まれていないか聞き、患者が「入っていないと思う」と答えたので、MRI検査を実施した。その後、担当医が病歴をみて、ペースメーカーが植込まれていることに気づいた。後日、ペースメーカーのチエックを行い、機器の異常はなかった。

No.63 画像診断報告書の確認不足

悪性リンパ腫で外来フォロー中の患者が、腹痛の症状で他院を受診した際、CT検査で肝臓内腫瘍性病変(50mm大)を指摘された。診療情報提供依頼を受け、過去のCT検査画像診断報告書を見直したところ、9ヶ月前の報告書において肝臓内腫瘍性病変(35mm大)が指摘されていたことが判明した。担当医の画像診断報告書の確認不足であった。

No.69 アレルギーのある食物の提供

患者の食事に鶏卵、乳アレルギーの表示があったが、調理師は卵だけが目に留まり、他の情報を見落とした。さらに、おやつ準備の調理師と配膳担当者がダブルチェックを行った際、アレルギー情報の書かれた指示書を確認しなかった。おやつは病棟に配膳され、患者に乳製品の入ったシャーベットが提供された。患者がシャーベットを摂取したところ、顔面の発赤と喘息様症状、血圧低下、心拍数上昇、呼吸困難感を呈するアナフィラキシーショックを起こした。

◆他の類似事例につきましては、平成24年年報に掲載いたします。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、当事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。当事業の趣旨等の詳細については、当機構ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
<http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
 ※この情報は、医療従事者の取組を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル
 電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.jcqhcc.or.jp/>

薬事情報センターに寄せられた質問から

はい、薬事情報センターです。

薬事情報センターでは、会員の方を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

Q：デパケンR（一般名：バルプロ酸ナトリウム）を痛み止めとして使用しますか。（薬局）

A：デパケンRは、2011年に片頭痛発作の発症抑制の適応を取得しており、片頭痛の発作頻度や重症度の軽減が報告されている。また、適応外使用ではあるが、帯状疱疹痛、帯状疱疹後神経痛にも使用される。脳内のγアミノ酪酸（GABA）濃度を上昇させ、神経細胞の興奮を抑制する事で鎮痛作用を発揮すると考えられている。

Q：沖縄でアルコール中毒の集団カウンセリングのようなものを行っている所はないか。（薬局）

A：薬物依存症回復施設「沖縄ダルク」では、薬物以外にもアルコール依存で悩む方達への自立支援を行っている。（連絡先：098-893-8406）

Q：フスタゾール錠小児用（一般名：クロペラスチンフェンジゾ酸塩）に7歳以上の用法用量がない。咳止めで7-14歳まで使える錠剤はありますか。（薬局）

A：鎮咳薬の錠剤には小児の用量設定がある薬剤はないが、同成分のフスタゾールシロップでは、7歳-15歳未満に対し、1回5-10ml（クロペラスチンとして10-20mg）、1日3回投与である。フスタゾール糖衣錠10mg（一般名クロペラスチン塩酸塩）の添付文書にも7歳-15歳未満の用量は明記されてない。ただ、フスタゾールシロップ剤の用量からすると1回1錠~2錠、1日3回投与が適量と思われる（成人量と同量）。参考までに、新小児薬用量（診断と治療社）における12才の一日量は40mgとなっている。

Q：学校の歯科検診で使用するデンタルミラーの消毒法について（薬局）

A：歯・口腔の健康診断に使用される器具について、10本内外のミラーを消毒薬に浸け水洗いしてその場で再使用する方法は今日では行わない方がよい。消毒・滅菌の対象となる病原微生物は広範囲で、種類も多く、感染力の強力なB型肝炎を基準として考えると、煮沸消毒やオートクレーブによる高圧滅菌を行うべきである。1日の被検者数にもよるが、出来ればオートクレーブによる滅菌済の器具を被検者数揃えて検診する。

参考：歯・口腔の健康診断の際の消毒と滅菌：（社）日本学校歯科医会HP

Q：ボルマゲン坐薬（一般名：ジクロフェナクナトリウム）とムコスタ（レバミピド）が疼痛時で処方されている。鎮痛剤の坐薬にも胃薬が併用されますか。（薬局）

A：通常、NSAIDsによる粘膜傷害は、消化管粘膜への直接刺激作用とPG産生を抑制作用による粘膜の防御機構を破綻させる間接作用が考えられている。坐薬では、胃粘膜への直接傷害は回避されるが、直腸から吸収された薬剤が血中を介して胃粘膜傷害を発現する経路は残されている。日本リウマチ財団の疫学調査によると、NSAIDsの長

期服用関節炎患者における胃潰瘍の有病率は、坐剤と経口剤投与の間で有意差はなく、胃潰瘍発生に対するNSAIDsの剤型、投与経路の影響は少ないとされている。これらの理由から、経口のみならず、坐剤であっても潰瘍発生の可能性があり、特に胃潰瘍の既往症のある方や胃腸の弱い方に対しては、NSAIDs坐剤と併用して胃薬が処方される事がある。

参考：日本医事新報（3632）,日本医事新報（4216）、ノバルティスファーマHP

Q：ツムラ小青竜湯はドーピング禁止薬物か。（薬局）

A：ツムラ小青竜湯に含有されるマオウ（エフェドリン）は競技会時禁止物質である。競技会前なら問題ないが、大会3、4日前までの服用とし、それ以降は中止する。

Q：ディフェリンゲル、ロコイドクリーム、ピーソフテン軟膏、スチブロン軟膏はドーピング禁止薬物か。（薬局）

A：ステロイドの皮膚疾患に対する局所的使用は禁止されない。ちなみに、現在日本で販売されている外用剤に禁止されるものはない。

Q：当病院では、嚥下困難の患者に多くの薬を渡す場合、別々に粉碎し各々袋に入れて投薬する、もしくは簡易懸濁法を指導している。先日、患者より調剤薬局では朝昼夕と服用時間毎に粉碎したものを一包化しているのに、病院ではできないのかとの要望があった。調剤薬局は患者の希望で医師に疑義した上で、調剤していると思うが、以下の点が気になる。

1. 一包の量が多くなり服用しづらい。
2. 仮に、服薬中途中である薬剤（ハイリスク薬等）を減らす等調整したい時には、新たに作り直すことになる。

3. 薬が変質してしまうのではないか。（粉碎、混合後の長期の安定性は大丈夫か）（病院）

A：錠剤、カプセル剤の粉碎により、医薬品の製剤特性の消失、薬物動態、薬効への影響、さらに多剤との混合による配合変化や、長期安定性についても十分な調査・検討はされていない。ただ、実情として患者（介護者や家族）にとっては、服用させるのに手間が取られる等の理由から一包化の要望も多い。多くの薬剤が処方されている場合には、個々の薬剤についても、ハイリスク薬や光、湿度など物理科学的安定性等の情報も踏まえた上で、個々の患者に応じた対応が求められる。

Q：特定保健用食品（特保）のサントリー「胡麻麦茶」とレニベージェ、ディオバン、アムロジピン等の降圧薬を併用しても大丈夫か。（薬局）

A：「胡麻麦茶」の含有する胡麻ペプチドを含め、特保に含まれる降圧ペプチドは、ACE阻害作用を持つ。降圧薬服用患者が飲用する事で、血圧値に多少影響を及ぼす事も考えられるため、併用は控えた方がよい。

沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

「おくすり相談室」の受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

●安全性情報●

【質問】イナビル吸入について。使用してから10日ほど経っている。現在、臭いがしなくなっているが、この薬の副作用か。(女性)

【回答】イナビルによる臭い消失は報告がない。他の原因も考えられるため、早めに耳鼻科等を受診してください。

【質問】昨日蕁麻疹で皮膚科からセキトンシロップ(ケトチフェン)、アタラックスPシロップ(ヒドロキシジン)をもらった。今日は風邪のため、内科からメチエフ、ペリアクチン(シプロヘプタジン)、アスベリン、ムコダインを処方された。一緒に飲んでも大丈夫か。(男性)

【回答】アタラックスP、ペリアクチンは同じ抗ヒスタミン薬、またセキトンシロップは抗アレルギー薬である。抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬は併用注意となっており、眠気等の副作用が出る可能性がある。*現在は、蕁麻疹が治まっているとの事なので、皮膚科から処方された薬は中止して、風邪薬の服用を勧めた。

【質問】メネシット、コムタン、アーテン、ドブスを服用。栄養士にビタミンB、特にB12が不足していると言われたので、ビタミンB6やB12の入ったビタミンサプリを飲んでる。ネットでパーキンソンの薬はビタミンB6と悪いとあった。(女性)

【回答】メネシットの成分(レボドパ)は、ビタミンB6によりその効果が減弱するとされています。ビタミンB12単味の医療用薬もありますので、必要かどうか医師に相談すると良いでしょう。

【質問】昨日のテレビで亜鉛欠乏症の特集をやっていた。以下の薬を服用しているが、その可能性のある薬剤はあるか。バイアスピリン、デパス、チラーヂン、ファモチジン、ルボックス、プラビックス、アムロジピン。(女性)

【回答】今の所、その報告はありません。亜鉛欠乏症の症状としては味覚障害や皮膚炎が知られていますが、まずは亜鉛の多く含まれているうなぎ、牛肉(もも肉)、チーズ、レバー等やサプリメントを摂ってみるのもよいかと思われま

●ドーピング●

【質問】半夏瀉心湯(クラシエ)、ラックビー微粒N(興和)は大丈夫か。(10代)

【回答】漢方薬には多数の生薬成分が含まれており、各々の成分を禁止物質かどうか特定するのは難しい。処方された半夏瀉心湯にも微量ではあるが、エフェドリン類が含まれるため、ドーピング違反となる可能性があります。大会前は服用を控えるようにしてください。ラックビー微粒Nについては、問題ありません。*現在下痢がひどく学校も休んでいるとの事だったため、使用可能医薬品であるOTC薬の塩酸ロペラミド製剤を勧めた。

●健康食品・サプリメント●

【質問】αリポ酸を飲んだ時に、のどがカーッと熱くなる感じがした。その4~5年後に喉頭がんが見つかった。因果関係はあるのか。(男性)

【回答】αリポ酸を飲むと10分程度のどや体が熱くなるという報告はある。しかしながら、αリポ酸と喉頭がんとの関係については報告がない。

【質問】ソルミラン(一般名：イコサペント酸エチル)を服用中。EPAとDHAが含まれているサプリメントを飲んでも大丈夫か。(女性)

【回答】ソルミランと同成分の含まれているサプリメントとの併用により、常用量を超えることになる。併用は勧められない。

●その他●

【質問】かかりつけ薬局で、高血圧の薬をもらっている。今日、病院で検査をした事を薬局で伝えたら、検査結果表を見せるように言われた。見せないといけませんか。(男性)

【回答】薬剤師の意図が不明で、不快に思われたのかもしれませんが、薬剤師は薬の副作用等で問題が生じていないか、問題があれば早期に対応すべきであるとの考えから、患者さんの体調や検査結果を確認しています。ご理解ください。

●その他の問い合わせ●

○エビリファイを1ヶ月飲んでしたが、不眠が治らない。そのせいでずっと落ち着かない。

○医師の診断ミスで3年も違う薬を飲まされ、副作用が出ている。治療と言っては次々薬が変わる。

○薬剤師が吸入麻酔薬を調剤するのか。心配。

○多食と過食は同じ意味か。

○病院の担当医師が変わるたびに薬が変更になる。どうにもならないのか。

●薬局等に対する意見・苦情●

○患者が院外処方希望すれば、院外に出せるのではないかと。本土では基本的に全て院外処方である。△△病院が院外処方を出していない理由として、1. 処方箋料が出る(患者の負担が大) 2. 後発医薬品の安全性について、研究発表、論文もなく、安全性が確立されていない。からだと言う。この病院は薬の量も多く、利益優先になっている。

○昨年、薬局の質問票にジェネリック品変更に同意した。今回、医師に先発品を処方してもらったが、その薬局で何の説明もなくジェネリック品に変更された。最初に同意書にサインしても、私の体調が変わることもある。また、薬剤師からは投薬時にジェネリック薬に変更したとの説明もなかった。納得できない。

Q&A

沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

「おくすり相談室」の受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

○「今朝の（4月9日）の琉球新報の記事に「残薬確認」が薬剤師に義務づけられたと書いてあった。（下部参照）その事について確認したい。高齢の母が薬を飲まないため、残薬が沢山ある。担当医師にはその旨伝えたが、「今回は日数を調整するが、次回からはしっかりと用法通り飲ませて下さい」と言われた。前回、調整してもらったが、薬の量が多いため、飲みながら残薬は変わらなかった。それを度々医師に伝えられない。今回この記事を読んで、薬剤師が単独で調整できるようになったと嬉しくなり、薬剤師なら相談の解決が出来るかと思い電話をしました。」（女性）

この患者さんは、タイトルのインパクトで「ああ、医師には言いにくい、薬局に行けば薬剤師の裁量で薬を減らしてもらおう事が出来るんだ」との誤解が生じたものと思われる。

「残薬確認」は、患者さんの服薬コンプライアンスを高める事も目的の一つです。副作用や飲みにくい等の理由で服用していないのか、また薬が多すぎて飲みたくないのか、など患者さんの残薬の理由を明らかにし、それを解決に導く事で、薬の適正使用に貢献できるものと思われます。患者から得た情報を積極的に医師にフィードバックすることで、医師との連携も密になることでしょう。

今回の相談者は、最初から薬剤師を身近な存在と考え、信頼していました。その信頼を失わない為にも制度の目的をしっかりと理解してもらうことも必要です。

情報センターには、こういった残薬の相談も多く寄せられます。皆さんも、貴薬局を訪れる患者さんに寄り添って、このような「残薬」問題解決に取り組んでもらえたらと思います。



◆「残薬」確認 患者と薬剤師 認識に差

在宅患者の飲み忘れなどで無駄になっている薬剤費は年間約500億円にも上るといわれる。これを改善して医療費削減につなげようと、2012年度の診療報酬改定で薬剤師による「残薬の確認」が新たな算定要件として盛り込まれたが、制度導入から半年余りの間に「確認を受けた」と認識している患者はわずか24%にとどまることから、製薬企業ファイザーの実態調査で分かった。

昨年10月、生活習慣病の患者300人、医師、薬剤師各100人の計500人を対象にインターネットを通じて聞いた。

患者に対し薬を飲みきれずに余らせたことがあるか質問したところ「よくある」と答えた人が4.3%、「たまにある」が26.0%で、合わせて30.3%が実際に余らせた経験を持っていた。

さらに、残薬確認が導入された昨年4月以降、薬剤師から確認を受けたことがあるか尋ねると「十分確認された」が5.0%、「ある程度確認された」が19.0%で、計24%しか確認されたという認識がないことが判明。飲み残しの背景に、不十分な残薬確認があることがうかがわれた。

一方、薬剤師に患者への確

認を行っているか聞くと「十分確認」15.0%、「ある程度確認」76.0%で、計91.0%が確認していると回答。患者と薬剤師の認識に大きなギャップが存在した。

結果について慶応大薬学部の福島紀子教授（社会薬学）は「薬剤師が確認を行っても、それが患者に伝わっていないということだろう。医療従事者が患者目線で言葉を選び、耳を傾けることで、初めて（患者に）説明をしっかりと理解しようという姿勢が生まれる。患者とのコミュニケーションを密にすることが大切だ」と指摘している。

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

ガバペンチン(ガバペン)とプレガバリン(リリカ) : 乱用と中毒

正しい治療と薬の情報 27巻7号

プレガバリンとガバペンチンは、ベンゾジアゼピン剤とカルシウム拮抗剤の両作用を有すると考えられ、害は多種多様である。ヨーロッパでは2011年頃、プレガバリンによる約30例の依存、中毒、離脱症状がスウェーデンと仏の医薬監視センターと欧州薬物・薬物中毒監視センターに報告されている。また、ガバペンチンによる中毒の文献報告も約20例公表されている。最も頻繁に報告されたのは、離脱症状であり、離脱のために半数以上が入院を要した。用量では、薬物乱用や中毒患者の何人かは、プレガバリンを7.5g/日またはガバペンチンを27g/日まで使用しており、殆どが痛みを抑えるためだったとしている。これらの過剰な用量増加、認可されていない経路による使用、その他の薬剤との混合も報告されている。これら両剤の使用は、既知の薬物乱用の経歴のない患者でさえ、依存や乱用を引き起こしうる。処方前には、有益性と害の可能性を慎重に検討すべきである。

スティーブンス・ジョンソン症候群および 中毒性表皮壊死症の発生状況と原因薬剤

日本医事新報 4613号

薬疹は副作用の中で比較的頻度が高いとされており、中でもスティーブンス・ジョンソン症候群(SJS)、中毒性表皮壊死症(TEN)は重篤な副作用である。SJSとTENは多くの医薬品が原因となり、発症率は人口100万人当たり4人程度と低いものの致死率も高く、失明等の重い後遺症が残ることもある。山根らは2000～2006年に我が国から報告された文献を調査し、SJS36例、TEN65例について解析したところ非ステロイド性抗炎症薬および風邪薬(22例)、抗てんかん薬(21例)、抗菌薬(20例)が主であり、抗菌薬ではセフェム系が11例と大半を占めていたことを報告している。また、早川ら、医薬品医療機器総合機構(PMDA)からも同様の結果が得られており、特にカルバマゼピン、アロプリノール、アセトアミノフェンがSJS/TENに関する副作用疑いのある医薬品として報告された。

国立医薬品食品衛生研究所

齋藤 嘉朗・須藤 チエ

うつ病の予後

日本医事新報 4614号

20世紀初頭に行われたクレペリンの調査によると、うつ病を発症した患者の3分の2は比較的長い中間期(寛解期)が現れた後に再発した。その703例を調査した所、96例は10～19年、34例は20～29年、8例は30～39年、1例は44年寛解が続いた後に再発したため、再発する危険性はまったくないとは言えない。また、周期性あるいは再発性のうつ病患者に抗うつ薬が再発予防効果を発揮することがメタ解析の結果により示されている。1回だけの抗うつ薬治療により寛解後に、半年ほど抗うつ薬を続けて漸減中止後に再発しなければ、一旦治癒したと考えてよいのではないか。ただし、大きなストレスを回避、睡眠・覚醒リズムを規則的に維持、適度な運動など、うつ病予防に役立つ生活習慣を取り入れたほうがよい。2回再発した患者は寛解後に数年は慎重であるべきで、3回以上再発を繰り返した患者であれば、たとえ寛解しても治癒する可能性は低い。

大分大学医学部精神神経医学講座
寺尾 岳

海外渡航者へのワクチン接種

JIM 22巻9号

まずは頻度と重要度の高い感染症のワクチンを優先的に選択、これに加え滞在する地域、滞在期間、滞在中のライフスタイルなどを参考に絞り込んでいく。途上国に滞在する者には短期であってもA型肺炎のワクチンの接種を推奨する。日本国内でも毎年50例前後の輸入症例が確認されており、魚介類から感染することが多いため日本人の旅行者には特にお勧めする。また、先進国、途上国などに関わらず長期滞在中には破傷風トキソイドの接種を推奨している。これは海外で外傷後の処置が適切に行われない事が想定されるためである。なかには最終的に3回の接種が必要なものが多い。A型肺炎ワクチンの場合には2回目が2週間～4週間後、3回目が6ヶ月～1年後である。こうしたワクチンは出国までに2回目までの接種を終了しておく。出国まで時間がないケースでは同時接種を行う。日本でも医師の判断で複数のワクチンを同時接種することが可能になっている。

東京医科大学病院 渡航者医療センター
濱田 篤郎

今の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

○医薬ジャーナル 49巻2号

- *特集：最新の免疫学～自然免疫・獲得免疫～
- ・副作用情報のSOM を用いたビジュアル化と解析～糖尿病治療薬を用いて～ (p.127)
- ・連載・実務実習をより良くするために(6) 長期実務実習生の効率的な受け入れ体制とその工夫 (p.140)
- ・連載：副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く(11) (p.162)
 1. カフェイン含有飲料の多量摂取によるワルファリン体制
 2. シプロフロキサシン服用による急性食道病変
 3. パロキセチン併用でアリピプラソールの血漿中濃度が上昇
 4. エファピレンツ長期併用でオメプラソールの血漿中濃度が低下
 5. ピオグリタゾンによる可逆的僧帽弁/大動脈弁逆流
 6. ソテピンとハロペリドールの併用による多汗症

○医薬ジャーナル 49巻3号

- *特集：骨粗鬆症治療の新展開
- ・連載・実務実習をより良くするために(7) 学生の報告が語る実務実習の成果と課題 (p.174)
- ・連載：副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く(12) (p.178)
 1. シンバスタチンによる記憶障害
 2. アロプリノールとフロセミドの併用により血清尿酸値が上昇
 3. ダビガトラン単回投与による致死性消化管出血
 4. ミコフェノール酸とフェノフィブラートの併用による重篤な好中球減少症
 5. チロシンキナーゼ阻害薬による致死性有害事象のリスク
 6. プロトンポンプ阻害薬、H₂受容体拮抗薬の併用は二硝チニブの臨床効果に影響を及ぼさない可能性

○エキスパートナース 29巻3号

- *特集：ナースが防ぐ！深部静脈血栓症
- *特集2：発熱・解熱の「いまわかっていること」

○エキスパートナース 29巻4号

- *特集：人工呼吸器装着患者のケア
- *特集2：ドレッシング剤&外用剤

○きょうの健康 3月号

- *特集：丈夫な股関節で生き生きと
- *特集2：耳の聞こえ大丈夫？

○きょうの健康 4月号

- *特集：内臓脂肪とメタボリックドミノ
- *特集2：ひざ痛克服

○月刊薬事 55巻2号

- *特集：糖尿病治療のリスク管理と患者支援
- ・重症悪阻の患者に対する薬剤師の関わり (p.95)
- ・適応外使用の処方せんの読み方(33) 妊娠高血圧症候群(1) (p.153)
- ・臨床の“困った”に応える病院薬局製剤(14) 皮膚炎に対する40%カラヤ軟膏 (p.127)
- ・シチュエーションに応じた消毒薬の選び方と使い方(13) 注射剤の混注(ミキシング)と消毒 (p.130)

○月刊薬事 55巻3号

- *特集：臨床で気になる”なに”と”なぜ”に答える
- ・適応外使用の処方せんの読み方(34) 妊娠高血圧症候群(2) (p.125)
- ・シチュエーションに応じた消毒薬の選び方と使い方(14) 手指消毒 (p.161)
- ・臨床の“困った”に応える病院薬局製剤(15) 流涎抑制に用いる5%スコポラミン軟膏 (p.156)

○新薬と臨牀 62巻2号

- ・リラグルチド単独療法による血糖改善効果、体重減少効果の検討 (p.178)
- ・初診の大うつ病性障害患者を対象にした、デュロキセチンとオランザピンの併用療法において、8週までに治療を終了した987例の治療期間および治療終了後の再発率について (p.253)

○新薬と臨牀 62巻3号

- ・透析患者における速崩型沈降炭酸カルシウム製剤の臨床効果 (p.423)

○調剤と情報 19巻2号

- *特集：薬剤師が行うべき残薬確認と管理
- ・新薬くろーずあっぷ：インライタ錠1mg, 5mg (p.95)
- ・薬を極めて服薬指導(23) クエチアピソフマル酸塩(2) (p.103)

今月の特集・論文

- ・セルフメディケーションQ&A (11)
外皮用薬の適正使用 (2) (p.114)
- ・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく (29) :
徐放錠に出された粉砕指示 (p.86)

○調剤と情報 19巻3号

- *特集：関節リウマチの薬物治療
- ・新薬くろーずあつぷ：コルベット錠25mg、ケアラム錠25mg (p.107)
- ・薬を極めて服薬指導 (24) フェブキソスタット (p.123)
- ・セルフメディケーションQ&A (12)
ビタミン・サプリメントの適正使用 (p.137)
- ・薬局ヒヤリ・ハットなくし隊がゆく (30) :
抗血小板療法中に市販の高用量アスピリンを併用! (p.75)

○治療 95巻3号

- *特集：症例でみる腰痛・肩痛・膝痛・外傷

○治療 95巻4号

- *特集：しびれのプライマリ・ケア

○日経ドラッグインフォメーション 184号

- *特集：今こそ薬局で取り組もう～うつ病患者のケア
- ・DIクイズ：二次性高血圧の検査でARBを中止した理由
- ・DIクイズ：褥瘡の再発予防に医師が勧めた健康食品

○日経ドラッグインフォメーション 185号

- *特集：必ずやっておきたい～薬局の災害対策
- ・DIクイズ：HbA1cの標記の説明を求める患者
- ・DIクイズ：バセドウ病にチラージンSが出された理由

○日経メディカル 543号

- *特集：片頭痛の新攻略法
- ・医薬情報室：花粉症の薬物治療 (P.121)
- ・論文ピックアップ：降圧薬2剤とNSAIDs併用で急性腎障害のリスク (P.1121)

○日経メディカル 544号

- *特集：合剤を使いこなす
- ・医薬情報室：タキサン系薬による急性肺障害 (P.139)
- ・論文ピックアップ：PCIを受けた抗凝固薬服用者、クロピドグレルのみ追加でOK (P.141)

○日本医事新報 4631号

- ・質疑応答Q&A～栄養・食品：胃瘻等の経管栄養で不足しやすい微量金属の検査・症状・治療法 (P.60)

○日本医事新報 4632号

- ・質疑応答Q&A～救急医学：過呼吸症候群の正しい対処法とペーパーバッグ法の危険性 (P.90)
- ・質疑応答Q&A～医動物学：セアカゴケグモ咬症の対策 (P.97)

○日本医事新報 4635号

- ・質疑応答Q&A～医事法制：薬剤の返金要求 (P.62)

○日本医事新報 4636号

- ・質疑応答Q&A～産婦人科：妊娠女性への抗インフルエンザ薬の安全性 (P.58)

○日本医事新報 4640号

- *特集：プライマリケア医に必要なワクチンの知識

○薬局 64巻3号

- *特集：食物アレルギー
- ・認定薬剤師の広場：骨粗鬆症の薬物利用における薬剤の使い分けと注意点 (P.143)

○薬局 64巻4号

- *特集：向精神薬と妊娠・授乳
- ・認定薬剤師の広場：調剤実務に関する法制度 (P.159)

○JIM 23巻2号

- *特集：かゆみ大全

○JIM 23巻3号

- *特集：血液疾患ブラッシュアップ

○JIM 23巻4号

- *特集：今日の外科一連携のための最新知識

○正しい治療と薬の情報 28巻1号

- ・スタチン系薬剤と筋萎縮性側索硬化症類似の症状
- ・貧血のない妊婦に鉄の補給を行うべきではない

○正しい治療と薬の情報 28巻2号

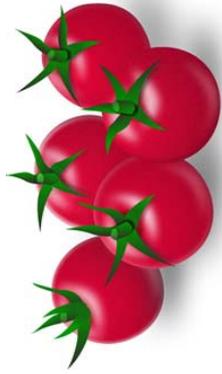
- ・ダビガトラン（プラザキサ）：致死性の出血のリスク
- ・三環系抗うつ剤と痙攣・心停止

○The Medical Letter (日本語版) 28巻21号

- ・魚油サプリ (p.83)

○The Medical Letter (日本語版) 28巻23号

- ・便秘治療薬リナクロチド (p.91)



話題のビタミン・サプリメント(39) リコピン(リコペン)

Key Word: トマト・抗酸化作用・活性酸素

トマトの赤！スイカの赤！食物のもつ天然の色素が私たちの体内で栄養素として働いています。リコピン＝トマトは有名ですが、どのような働きをしているのでしょうか？今回はリコピンを取り上げてみました！

トマトの赤い色素は「リコピン」という成分で、とりわけ抗酸化作用が強いことがわかっています！

リコピンは「カロテノイド」の一種で、トマトやスイカ、グレープフルーツなどに含まれる脂溶性の赤色の色素です。カロテノイドとは動植物に含まれる色素のひとつで、『カルチノイド』と呼ばれることもあります。「カロテノイド」は活性酸素を消す抗酸化力が強いのが特徴です。「リコピン」の他「β-カロテン」、「ルテイン」などがあります。リコピンの抗酸化作用はβ-カロテンの2倍以上あることが知られています。これは「抗酸化ビタミン」といわれるビタミンEの100倍以上にあたります。

偏った食事や飲酒、また過度の運動などで体内の活性酸素が増え、生活習慣病のきっかけになったりするといわれています。リコピンはこの活性酸素を消し去って、生活習慣病から私たちの身体を守ってくれるガードマンのような働きをしています。緑黄色野菜の中で、トマトにはこのリコピンが最も多く含まれています。

リコピンは油に溶けやすい性質があります。そのため、油を使った調理法によって、吸収が高まります。リコピンは熱に強いので、炒めたり煮込んだりしても成分がそれほど減少する心配もありません。

【安全性・1日の摂取量】

通常の食品に含まれる量の摂取は、妊娠中・授乳中を含めておそらく安全と思われれます。望ましいリコピンの1日の摂取量は15mgといわれています。

……参考文献……

1. 国立健康・栄養研究所「健康食品」の安全性・有効性情報
2. サプリメント事典、日経ヘルス
3. 機能性食品素材便覧、薬事日報社
4. カゴメ株式会社、「トマト大学」

<http://www.kagome.co.jp/tomato/tomato-univ/>

【リコピンの供給源になる食品】

リコピンはトマトの中でも大玉よりミニトマトが多く含まれています。その他ピーマン、ナス、パパイア、サクラソバなどにも含まれています。また、ケチャップやトマトジュースでもリコピンを摂取することができます。

食品	リコピン(mg/100g)
ミニトマト	8.1
トマト	3
スイカ	3.2
グレープフルーツ	3.2
柿	0.7

活性酸素の話

活性酸素とは、通常の酸素と比べてモノを酸化する力が強い酸素です。普通に生活していても、体に入った酸素の約3%が活性酸素になるといわれています。また、日光を浴びたり、激しい運動をした時も活性酸素が増加します。通常、活性酸素は体内に侵入した細菌などの異物を攻撃したり、体内の酵素反応を促したりするなど、私たちの生体にとって大切な役割を果たしています。現代は、精神的なストレスや喫煙、飲酒、排気ガス、紫外線、電磁波、放射線といった極めて現代的な生活要因で活性酸素が増加している背景があります。

Book Information

Book Information Book Information Book Information Book Information Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

【日薬幹旋図書】保険薬事典 Plus+ 平成25年4月版

【編著】薬業研究会 【発行】じほう 【発行日】2013年4月

【版型/頁】A5判/950頁 【定価】4,830円(税込) 【会員価格】4,350円(税込)

同成分の中で、剤形・薬価別に製品をまとめられ、薬価の違いがひと目でわかります。適応・用法がなる場合は、それぞれの違いを分かりやすく解説し、ジェネリック医薬品使用の際にも便利。

平成24年からの新しい算定制度に対応し、診療報酬上の後発品や先発・準先発品といった指定を分かりやすくマーク表記。低用量ピルなどの薬価基準未掲載の薬剤も掲載したほか、適応外使用にかかる公知申請が認められているものを適応に記載。

【日薬幹旋図書】薬効・薬価リスト 平成25年版

【編著】医薬情報研究所 【発行】じほう 【発行日】2013年4月

【版型/頁】B5判/1,000頁 【定価】6,825円(税込) 【会員価格】6,100円(税込)

レセプト業務向けに、薬価基準掲載医薬品の薬価、効能・効果、用法・用量、禁忌・併用禁忌、保険の扱い(厚生労働省保険直通知の概要)を1冊に収録。「内服薬」「外用薬」「注射薬」「歯科用薬剤」の投与経路別に商品の50音順に掲載し、後発医薬品、先発医薬品、準先発品などに分かりやすいマークを付しています。適応使用に係る高知申請が認められているものを適応に記載。各製品にはYJコードと医薬品請求コードも記載。抗菌薬については「適応症」、「適応菌種」も各製品ごとに掲載。投与日数に制限のある内服薬・外用薬一覧付き。新医薬品、後発品の追補情報をWEB上にて無料で提供。

【日薬幹旋図書】薬価基準点数早見表 平成25年4月版

【発行】じほう 【発行日】2013年4月

【版型/頁】A5判/950頁 【定価】3,780円(税込) 【会員価格】1,950円(税込)

薬価基準掲載医薬品を、「内服薬」「外用薬」「注射薬」「歯科用薬剤」の投与経路別に、商品名の50音順に配列し、点数早見表、薬効別分類表を収録した医療事務必携の書籍。局方品目の銘柄名、請求に使用できる略称なども本文に掲載。統一名掲載品目の製品も各銘柄名から検索が可能。診療報酬上評価される後発医薬品や、先発医薬品、準先発品、経過措置品目などにマークを付して分かりやすく表記。

【日薬幹旋図書】OTC薬ハンドブック 2013

【監修】堀 美智子 【発行】じほう 【発行日】2013年2月

【版型/頁】B5判/1,500頁 【定価】13,650円(税込) 【会員価格】12,600円(税込)

顧客の状態に応じた適切なOTC医薬品の選択を行うために必要な情報を網羅。店頭対応の事例を紹介した「OTCアラカルト」で顧客対応のノウハウを学べるほか、薬効群ごとにまとめた「使用目的と適応」、「使用上の注意事項とその解説」などで、OTC薬の選択に必要な情報を学べる。また、薬効群ごとの商品一覧では、製品ごとの含有成分、1回量、服用回数、投与禁止年齢などを見やすい表形式になっている。

Book Information Book Information Book Information Book Information Book Information

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1) 医薬品情報の提供 (2) 「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3) 医薬品に関するお問い合わせ (4) 県薬ホームページの制作・管理 (5) 消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6) 医薬品 PL センター窓口業務 (7) ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)
(一般対象) 「おくすり相談室」平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室の電話は098-963-8935になります。お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の見覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937
(社) 沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

* * JAPIC 海外文献から * *

●局所 Retinoid への暴露後の妊娠転帰:多施設プロスペクティブ研究 (Clin. Pharmacol. 52(12)1844-/(2012.12))

経口 retinoid により特徴的なレチノイド胎芽病がまれに報告されていることから、局所 retinoid の使用に関して懸念が示されている。妊娠第 1 トリメスターにおける局所 retinoid への暴露後の先天性奇形の発生率について評価するため、European Network of Teratology Information Services の共同試験を実施。暴露した妊婦 235 例と対照 444 例の集団を比較した。その結果、自然流産、軽度および重度の先天性欠損について群間における有意差はなく、小児におけるレチノイド胎芽病の特徴は認められなかった。暴露群における人工妊娠中絶率は 3 倍高かった。結論として、レチノイド胎芽病のリスク増加は示唆されなかったが、リスク/ベネフィット比については疑問が残ることから、妊娠中に局所 retinoid を使用することは推奨されない。

●栄養ドリンクと Caffeine の副作用 (JAMA 309(3)243-/(2013.1.16))

2012 年、米 FDA は caffeine を含有する栄養ドリンクに安全性の懸念(突然死など)があるため、調査を再開。栄養ドリンクの消費者は無意識のうちに caffeine を過剰摂取し、中毒による重篤な疾患や死亡につながることを、caffeine に関連した最も一般的な死因は不整脈であること、アルコールや他の薬剤が caffeine の半減期を延長し中毒の一因となる可能性がある。

●アルコールを混ぜた栄養ドリンクのリスク (JAMA 309(3)245-/(2013.1.16))

アルコールと栄養ドリンクを混ぜた飲み物(AMED)の人气が高まっている。栄養ドリンクの主な活性成分は caffeine であり、AMED 摂取による様々なリスク(caffeine がアルコールの鎮静作用を打ち消し、危険行為に対する判断力や神経認知機能が鈍ること、飲酒運転による交通事故リスクが増加すること)が懸念される。

●パンデミックインフルエンザウイルス感染またはワクチン接種後の胎児死亡リスク:ノルウェーの全国登録および診療データを用いた研究 (N. Engl. J. Med. 368(4)333-/(2013.1.24))

妊娠女性へのインフルエンザワクチン接種の安全性を調べるため、ノルウェーの全国登録と診療データを関連付け、2009 年のパンデミック前、パンデミック中、パンデミック後の妊娠女性(13歳-49歳)におけるインフルエンザの診断、ワクチン(Pandemrix, Celvapan)接種状況、出生転帰、背景情報を明らかにした。Cox 回帰モデルを用いて、在胎日数を時間指標とし、ワクチン接種とパンデミック暴露を時間依存的な暴露変数とし、胎児死亡のハザード比を推定した。2009 年-2010 年のノルウェーにおける妊娠 117347 件を対象とした。胎児死亡率は出生 1000 件あたり 4.9 であった。パンデミック中は、妊娠第 2 または第 3 トリメスターの女性の 54%がワクチンを接種した。妊娠中のワクチン接種により、インフルエンザの診断を受けるリスクは大幅に減少。インフルエンザの臨床的診断を受けた妊娠女性では、胎児死亡リスクが上昇。胎児死亡リスクは妊娠中のワクチン接種により減少したが、有意ではなかった。ワクチン接種そのものは胎児死亡率の上昇とは関連しておらず、パンデミック中のインフルエンザ関連の胎児死亡リスクを低減させた可能性がある。

県民の皆様へ

薬剤師会をご利用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つよう取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電話 098-963-8930

おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電話 098-963-8935

試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（沖縄県薬剤師会ホームページからも閲覧できます。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>＞



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

薬学の歴史

15. 最初の公式な薬局方

全ての薬剤師が遵守することになる公式な薬局方は、もともとはフィレンツェで誕生したものです。1498年にイタリア語で書かれたヌボ・レセプタリアが発行され、都市国家での公式規格となりました。これは、当時の薬剤師組合と医学会の共同作業により実現され、専門職種間で初めての建設的関係の一つでもありました。これらの専門家団体は、フィレンツェの政治的指導者でもあった有力なドミニカ人牧師、サボナローラ（絵の手前側で着席している人物）から公式な助言と指導を受けました。

15. THE FIRST OFFICIAL PHARMACOPOEIA

The idea of a pharmacopoeia with official status, to be followed by all apothecaries, originated in Florence. The Nuovo Receptario, originally written in Italian, was published and became the legal standard for the city-state in 1498. It was the result of collaboration of the Guild of Apothecaries and the Medical Society-one of the earliest manifestations of constructive interprofessional relations. The professional groups received official advice and guidance from the powerful Dominican monk, Savonarola, (seated, foreground) who, at the time, was the political leader in Florence.



GREAT MOMENTS IN PHARMACY

薬学の歴史

16. ロンドンの薬剤師協会

中世の時代、薬や香辛料の交易は実入りのよい産業でした。当時イギリス諸島では食料雑貨商組合がこれらの交易を独占し、薬剤師の管轄権も握っていました。しかし、薬剤師たちは長年の努力の末に、宮廷侍医の同盟に帰することとなりました。この絵には、両脇に2人の守衛を置き、刺殺を恐れ分厚い衣装を身に纏っている王のジェームズ1世が描かれています。ジェームズ1世は、哲学者であり政治家でもあったフランシス・ベーコンの説得により、食料雑貨商の猛烈な抗議にもかかわらず1617年に Master, Wardens, and Society of the Art and Mystery of the Apothecaries of the City of London として知られる独立会社の設立勅許を与えました。この団体は、アングロサクソン社会で初めての薬剤師組織となりました。

16. THE SOCIETY OF APOTHECARIES OF LONDON

Trade in drugs and spices was lucrative in the Middle Ages. In the British Isles, it was monopolized by the Guild of Grocers, which had jurisdiction over the apothecaries. After years of effort, the apothecaries found allies among court physicians. King James I, flanked by two "Beefeaters" wore heavily padded attire because of fear of stabbing. Upon persuasion by the philosopher-politician, Francis Bacon, the King granted a charter in 1617 which formed a separate company known as the "Master, Wardens and Society of the Art and Mystery of the Apothecaries of the City of London" over vigorous protests of the grocers. This was the first organization of pharmacists in the Anglo-Saxon world.

第7回 暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

シークワサー

学名 Citrus depressa Hayata
科名 ミカン科
属名 ミカン属
使用部位 果実
有効成分 ノビレチン
タンゲレチン



シークワサーの花

シークワサーの特徴

琉球諸島から台湾に自生する小果寛皮柑橘の一つで、和名は「ヒラミレミン」。沖縄では芭蕉布を織り上げた際に固い布をシークワサーの果汁で洗浄して柔らかくしたことから、方言で「シー」は酸（酢）、「クワサー」は食べさせる（加える）を表す。

枝は細く節間は短く、しかも屈曲し、稜角

は発達して新梢の横断面は三角形になっている。葉はやや小型でほとんど翼がなく、倒卵形で、長さ9cm、巾4cm内外、上部は鈍い鋭尖頭で、基脚は楕円形で、葉縁はあらい鈍鋸歯に囲まれている。花は頂生または腋生してつき芳香を放つ。結実期は11月～12月で、果実は扁球形で径3cm、横径4cm、重量は25gほどで、果実の内部は7～12室あり、黄熟か、黄橙熟する。

通常は青切りで収穫されるため、酸味が強いのが特徴で、刺身や焼き魚に絞ったり、醤油と併せてポン酢にしたりとレモンのような感覚で使われる。しばり汁を泡盛に加えて楽しむこともある。

シークワサーの産地

沖縄県北部の大宜味村が日本における最大の産地であり、生産量の約70%を占める。世界一の長寿国といえれば日本。その日本の中でも一番の長寿の里といわれるのが大宜味村である。ということは大宜味村は世界一の長寿村である。がんの発症率が全国一低く、元氣な長寿者が多いことも知られている。シークワサーが長寿の一因？

参考 沖縄薬草 家庭栽培と薬効 多和田真淳
沖縄食材図鑑 有限会社 楽園計画

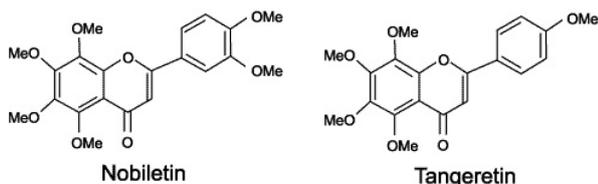
栄養成分 (100g 当たり) 五訂増補 日本食品標準成分表

エネルギー	蛋白質	炭水化物	脂質	食物繊維	マグネシウム	リン	カリウム
25 kcal	0.8 g	7.9 g	0.1 g	0.3 g	15mg	8mg	180mg
葉酸	カロテン	カルシウム	ビタミンB ₁	ビタミンB ₂	ナイアシン	ビタミンB ₆	ビタミンC
7mg	89μg	17mg	0.08mg	0.03mg	0.3mg	0.03mg	11mg

ノビレチンの含有量 温州ミカン2.4mg、カボス8.9mg、ポンカン12.7mg、シークワサー26.7mg

シークワサーの特徴的な成分

カンキツ類に含有されるフラボノイド類はフラバノン、フラボン、フラボノール、アントシアニンなどのグループに分けられる。メトキシ基がたくさん付いたフラボンをポリメトキシフラボン（上位の総称ポリメトキシフラボノイド）という。シークワサーにはメトキシ基が5個のタンゲレチン、6個のノビレチンが多く含まれている。ノビレチンは漢方生薬陳皮の成分である。



ノビレチンの作用

- ・発ガン抑制やガンの転移抑制
- ・リウマチ、関節破壊、骨粗鬆症の予防
- ・紫外線からの皮膚保護作用
- ・血糖上昇抑制作用・血圧上昇抑制作用
- ・脂質代謝改善作用
- ・アディポネクチン増加作用
- ・抗動脈硬化作用 などの報告がある。

ノビレチンのガン細胞増殖・転移抑制や細胞死

慶応大学医学部 吉永信就（消化器外科）らは、マウスの腹部にヒトの胃癌細胞を注射してがん細胞が米粒のように散らばった状態をつくり、一週間後からノビレチンの液体を体重1kgあたり2.1mgの割合で二週間皮下投与した。その結果ノビレチンを投与しなかったマウス群のがん細胞は平均6.9個あったのに対し、投与群では平均7個しかなく、がん細胞の総重量も約十分の一だった。また、試験管内のがん細胞に投与すると二日後に半分に減少していた。

参考 慶応大学医学部 吉永信就 琉球新報より

ノビレチンのアディポネクチン発現・分泌促進

前駆脂肪細胞を用いた試験系においてノビレチンのアディポネクチン（脂肪細胞から分泌され、インスリン受容体を介さない糖取り込み促進作用、脂肪酸の燃焼、動脈硬化抑制、効炎症、心肥大抑制など多彩な作用あり）発現促進作用について検討したところ、濃度依存的にアディポネクチンの効果が認められた。また自

然発症糖尿病マウスを用いノビレチン群とコントロール群においてアディポネクチン分泌量を比較した結果、ノビレチン摂取により、脂肪細胞におけるアディポネクチンの分泌量が有意に増加した。

参考 アークレイグループ からだサポート研究所

ノビレチンの関節保護作用

培養ヒト滑膜細胞に炎症サイトカインであるインターロイキン-1α及びノビレチンを同時に処理し、24時間後の培養上清中プロスタグランジン(PG)E2量をELISA法で測定した結果、ノビレチンにより細胞内シクロオキシゲナーゼ(COX)-2が濃度依存的に抑制された。これは培養ウサギ滑膜細胞においても確認されている。またノビレチンは炎症メディエーターの産生抑制に基づきの抗炎症作用を発揮する。

ノビレチンはコラーゲン誘導関節炎モデル動物においても、抗炎症作用とマトリックスメタプロテアーゼ(MMP)ならびにアグリカナゼ発現抑制に基づくECM(細胞外マトリックス)破壊抑制作用の両面から関節保護作用を示す。

参考 東京薬科大学薬学部 今田啓介、佐藤隆、伊東晃

ノビレチンの肝炎抑制効果

劇症肝炎を発症させたネズミにノビレチンを1週間与えたところ、GPTとγGTPの数値が投与量と反比例し、それぞれ4分の1に減少した。

参考 静岡大学・大和製罐総合研究所協同研究

抗認知症成分ノビレチン

神経細胞のモデルとして汎用されるPC12D細胞（ラット副腎髄質細胞）にノビレチンを処理したところ、神経細胞突起伸展作用が発見された。また突起伸展作用に重要な役割を果たすシグナル細胞情報伝達分子であるERKやCREBが活性することも見出された。ノビレチンが1)記憶障害改善作用、2)脳コリン作動性神経の変性抑制作用、3)脳内でのアミロイドβペプチド(Aβ)の蓄積抑制作用、4)Aβの神経毒性抑制作用を合わせ持ち、かつ末梢投与が可能な天然薬物であることを発見した。

参考 東北大学大学院薬学研究科 山國徹 他



はいさい! はい

薬局訪問 VOL. 37

(プロローグ)

取材先は、名護!仕事を終えて食事をとる間もなく、沖縄自動車道で名護に向かう。高速を出て、名護バイパスに入り白銀橋(東)交差点で右折すると、ふく薬局の大きな平屋の建物があった。すぐ左隣りはタウンプラザかねひで大宮店で、集客力抜群の立地条件である。ふく薬品といえば、沖縄県では老舗のドラッグストアなので、どんな話が飛び出すのか、興味シンシンであった。(聞き手:池間記世)

ふく薬局 名護店 (名護市)

～常に業務改善を心がけて!～

ふく薬局名護店は坪数約100坪の大型ドラッグストアに調剤薬局を併設している。親会社である株式会社ふく薬品は、現在県内に22店舗を構える県内最大手のドラッグストアチェーンである。店舗の営業時間は、AM9:00～PM11:30と長時間なので7名いる登録販売者が交代で店を見ている。登録販売者は名札の他に皆おそろいの青い制服を着けており、一目で登録販売者と分かるようになっていた。第1類医薬品は自動ドアでしっかり区別された調剤薬局部分に陳列されており、薬剤師が対応している。ここで目を引いたのが薬の説明書をインターネットからとって第1類医薬品の箱に取り付けていたこと。字も大きくイラストもふんだんに入っていて、とても分かりやすそうであった。調剤薬局の営業時間はPM7:00までとなっているが、夕方になると、小児科からの処方箋や隣に大型スーパーがあるので買い物しながら薬を受け取るという

人が多く、なかなかその時間には閉められないという。

店舗には一般用医薬品の他に健康食品・化粧品・サプリメント・介護用品等が広い店内にぎっしりと陳列されていた。備蓄医薬品数は、一般用医薬品 約2000品目、医療用医薬品約1500品目と、やはり名護という土地柄は、急配は難しいのでどうしても備蓄医薬品数が多くなる。おかげで小分けも多い。マンツーマンで受け付けている医療機関があるわけではなく、県内50～60の医療機関からの処方箋を受け付けているが、小児科や精神科からの処方箋も多いので、全自動分包機や全自動水剤調製機も備えている。取材に指定された日は土曜日であったが、取材中にも患者さんが次々と訪れていた。1日の処方箋枚数は70～80枚くらいで、広域病院からのFAX送信と直接持ち込みが半々位とのことだったが、土曜日でこの忙しさなので、ウィークデ이의忙しさが容易に想像できる。



大型ドラッグストア“ふく薬局名護店”

た〜い！！



調剤室の前で記念撮影

現在ふく薬局名護店の管理薬剤師をしているのは、玉城尚洋氏でこの店にきて約2年半になる。その前は北部地区薬剤師会の会営薬局に勤務しており、以前何度かお目にかかったことがあるが、あの頃とはすっかり様子が変わっていた。背広姿のちょっと控えめな好青年が、ひとまわり大きくなって、なんとヒゲまでたくわえてなんでも気軽に相談に乗ってくれそうな街の“おじさん”薬剤師に変身していた。玉城氏は平成15年に北海道医療大学を卒業し、すぐ北部地区の会営薬局に勤めたので調剤の経験しかなく、ふく薬局に勤めてから、OTC薬品に詳しい経験豊富な登録販売者に教えてもらうことも多々あったし、OTC薬品についての勉強も必要であった。

「医薬品の専門的な事や、お薬手帳持参の患者さんの、飲み合わせについての問い合わせなどは、登録販売者の方から『説明お願いします』と薬剤師に引き継がれることも多く、お互いのコミュニケーションはうまくいっている。」

取材で最も心に残ったのは在庫管理について。玉城氏が来る前は1年に1回の棚卸しであったが、今は毎月行っている。「月に1回



調剤室にて玉城氏(右)より説明をもらう

なんて考えただけでも気が遠くなりそう！」と思ったが話を聞いて大いに納得。

「レセコンと連動した在庫管理システムによって『理論上の在庫数』が簡単にわかるので、業務の合間に棚ごとに分けて、数日かけて行えばよい。小分けした分や、紛失、破損、廃棄した分もきちんとメモしているので、『理論上の在庫』とピタッと合うことも多く、精度は良くなっている。」

と、自画自賛！また、北部地区には調剤をしているふく薬局グループが3軒あり、さらにサンキューファーマシーグループの2軒を加えた5軒の薬局の薬剤師が月に1回集まって、勉強会や情報交換をしているが、

「自分の薬局で試してみて良かったと思う方法を持ち寄ってお互いの店を良くしてこうと思っている。」

過誤対策としての工夫は、インスリンの空き箱の一部を処方箋に貼り付けて、あとから確認が出来るようにしているそうだ。この薬局では職員全員ほとんど立ちっぱなしで座ったことがないという。皆立ったままで黙々と仕事をこなし、手が休まることはない。学ぶべきことの多い取材であった。



広大な店内 商品がぎっしり陳列されている



登録販売者は青い制服を着用



私のドライブ



こくら虹薬局 比嘉 仁

こくら虹薬局の比嘉といいます。こくら虹薬局は沖縄協同病院の門前の薬局で、1日約400枚程度の処方せんを受けている忙しい薬局です。まだ薬剤師になり1年たたないのですが、日々この忙しい中を奮闘しています(この記事を読んでもらっているときにはやっと1年たったころだと思います)。

こんな私が、なぜ琉球大学附属病院薬剤師部(以下、琉大病院)の外間登先生からバトンを受けたかということ、実務実習を琉大病院の方でさせていただいたからなのです。無事に薬剤師になることができ沖縄に帰ってきてからも、ちょこちょこ何かのイベントの際には呼んでいただいたり、勉強会でも声をかけてきてくれたり、と実習生だったときと変わらない接し方をしてくれくれます。外間先生から「オレはフットサルの話をするから、車の話をしてよ!」とのバトンを受けたので、車の話をさせていただきます。

みなさんはドライブに行かれますか? 沖縄でのドライブの場合、どうしても県をまたぐことができないためドライブというと国道58号(通称ごーぱち)を北上して行くって感じかと思います。それはそれでかなりいいドライブになりますよね(私自身そう思って

います)。今回はそれとはまた違った私がいまはまっているドライブを紹介します。みなさんは“林道”って道をご存じですか?“林道”とは、字のごとく林業をするためにつくられた道のことで、森・山の中を通っている道なのです。沖縄では大国林道が有名でしょうか。なぜこのような道にはまってしまったかということ、普段通る道では出会うことのないものや出来事に遭遇するからです。今まで私が通ってきた道の写真と比較的入りやすい2つの林道を紹介します。

1つは沖縄で有名だろうと思われる大国林道。こちらの林道は塩屋(塩谷)から入ることができます。入口には“開けたら閉める”の門がある変わった入口をしています。確か「マングースか何かがこの区域からでないために…」などと書かれていたかと思います。こちらの林道はかなり長く出口まで1時間以上はかかったかと思います。途中三又の分岐点がありましたが、自分が行った際には片方は途中がけ崩れで道が閉ざされていたためもう片方の道に引き返しましたが、その道は喜如嘉(きじょか)に出たかと思います。その道にもアスファルトの下がえぐられている道がありました。



がけ崩れにより閉ざされてしまった道路。なくなく別のルートに引き返すことに…。



道路一部のアスファルト下がえぐれている部分が…。左端だけえぐれていたのが安全に通過することができました。



大国林道への行き方

塩屋より国道331号線にのり大保ダムに入り、ダムを横切り反対側の道路に出ます（うまく説明できませんが、大保ダム入口にはダム排水口の上を通りますが、そこを超えたところに左右道がありそこを左に行けば池高と思います）。ダムを横切り反対側の道に出ればそこを左に行けば左側に入口があります。入口は大きなフェンスの門があるのでパッと見立ち入り禁止かと思いますので注意してください。



湧水があったところ。
なにかの口から水が…。おしゃれ？

もう1つの林道は、オリオンビール工場近くにある名護城跡からずっとまっすぐ行った道です。こちらの道は短く20分もしないうちに出口に出たかと思えます。こちらは途中で湧水が出ていたところがありました。出口はオリオンビール工場から東側に向かう道の途中でです。確か出口から左の方に向かえばオリオンビール工場のところへ出て行けたかと思えます。

名護城跡近く林道への行き方

名護城跡に行く道をそのまままっすぐ入ることで行くことができます。名護城跡近くにはオリオンビール工場があります。名護城跡には“県立名護青少年の家”もありますのでそこを目的にしてもつくかと思えます。林道入り口前には展望台がありますのでそれを通り過ぎれば自然と林道に入ります。

この2つ以外にもまだまだ沖縄に林道はたくさんありそうな感じです。林道に行く際には注意点もあります。道幅は狭く、見通しも悪いのでくれぐれも安全運転で！林道では対向車などに早く発見してもらうために昼間でもライトを点灯させて走らせるのがいいですよ。林道は山奥でコンビニ、トイレなどはないため用をすませて入ってくださいね。また、大国林道、名護城跡近くの林道ではなかったですが

“上記林道以外の写真”のように道が悪かったり、道に左右から草が生えていて草を車でかき分けながら通らないといけないところもあり、そういったところは車に小傷（ひっかき傷のようなものではなく、光に反射すると薄ら線が入る感じの傷）ができたります。

今回の記事、写真をみてワクワクした方、ぜひ時間がある時に林道に遊びに行ってみてください！！

上記林道以外の写真



車廻し…？車をUターンさせる少し道路幅が広い所のようなです。



ガードされて…ないですね(笑)。



◀▲道路に結構ための枝があったり、道全体にぬためたの泥があったり



ここから通過できました。ふう〜っ
排水溝のふたがない！



木が道を横切って倒れている。でも木の下を通過することができました！！

次号には照屋林一郎先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

薬連だより

国会レポート

～補正予算が成立・来年度政府予算案の審議に～



参議院議員・薬学博士 藤井 もとゆき

政権に復帰し、第二次安倍内閣のもとで国会運営が進められています。日本経済を立て直すための「日本経済再生に向けた緊急経済対策」を実践するための平成24年度補正予算が2月26日の参議院本会議で可決成立しました。賛成117、反対116のわずか一票差での可決でした。参議院においては自民・公明の与党が過半数を占めていないことから、参議院においては否決され、衆議院優越規定により成立するものと考えていましたが、民主党からの離党者の出現や日本維新の会の賛成等により予想に反した結果となりました。約13兆円の補正予算のうち、約10兆円が経済対策関係であり、厚生労働省関係は約7,000億円となっています。補正予算の成立により、いわゆるアベノミクスを掲げての経済対策が実践されることとなります。我が国の経済状態を見ても、円安・株高の動きが続いており、景気回復の兆しが徐々に明らかになってくるものと期待しています。

国会においては補正予算の成立を終え、来年度予算案の審議に移っています。審議に必要な時間を考えると、年度内成立は難しく、暫定予算を組まなければならないのではないかと思います。

ところで、3月5日の参議院本会議では安倍総理の施政方針演説等に対する代表質問の前に、「第32回オリンピック競技大会及び

第16回パラリンピック競技大会に関する決議案」が緊急提出され、賛成多数で採択されました。決議文を紹介します。

『オリンピック夏季競技大会及びパラリンピック競技大会の開催は、ロンドンオリンピック・パラリンピックに見られるよう、国民に夢と希望を与えるものである。また、東日本大震災からの復興を世界に示すものであり、本年9月に開催地が決定される第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会を東京都に招致するため、政府、国会が一体となって取り組むべきである。右決議する。』

3月5日は、IOC評価委員会の委員による、東京の現地調査が行われていた時期であり、極めてタイミングが良かったと思います。現地調査後の調査委員長の記事会見では、プレゼンテーションの質も高かったし、熱意を感じたとの感想が寄せられました。安倍総理が説明役を務めたり、皇太子殿下が接見されたことなどが国民的支持の印象を与えたものと思われます。マドリード、イスタンブールと争うこととなりますが、2020年のオリンピックが東京で開催されることを楽しみにしています。

藤井基之ホームページ

<http://mfujii.gr.jp/>

弔文

吉川敏男先生を悼む

理事(元事務局長) 山城 志津

那覇市の国場十字路の一角を占める吉川漢方薬局。そこが吉川敏男先生のお城でした。店内の陳列棚は全て生薬類。原形のままの物も。海外からの直接仕入れも多いと伺った。沖縄の薬草に魅せられ、奥様と共に当地へ移住された。本島内のみならず、離島へも足を運び、薬草を採取して廻られた。店舗で、薬草・漢方などについて熱く語られる側らにいと、さながら大学の研究室で研究者のお話を傾聴している気分させられた。実際、先生は沖縄県かりゆし長寿大学や琉球新報カルチャースクール、そしてEMホテルの薬草講座(先生の要請で講義室に隣接して薬草を使ったの料理をする調理室も備えた)等の講師を務められた。

先生の店を訪れる患者さんは殆どが病院の医師から紹介された人々で離島の方も多いとのこと。実は私も個人的に家族の漢方薬を処方していただいていたこともあった。

先生には当薬剤師会へも多大な貢献をして下さった。平成15年、当



吉川漢方薬局に掲げられていた先生の作品

時の大城桂子会長の「薬剤師も社会活動をして表に出て行かねば」との発言でスタートした“健康とおくすり相談会”、当時は薬剤師の相談員の確保に苦勞した。新聞広告を見て、漢方薬の相談をしたいとの事前申し込みが来ることもあった。漢方薬相談コーナーの担当としていつも先生にお願いをしていた。

その他、薬剤師会報への執筆や講師依頼に、時間の許す限り快く応じていただいた。沖縄都ホテルの社長さんが同ホテルの特色を出すために、沖縄の薬膳料理を検討しておりアドバイスをとるので、先生の店へお連れした。

先生は、素っ気なく一言。「あれこれ飾り立てるものではない。自らフーチバーでも育てて、採りたてを天麩羅で食すのが一番だ。」私はその素朴な一言の奥に秘められた意味を今もなお思い返したりする。

生前にもう一度お会いしたかった。私共にはどこまでも優しく身を乗り出すようにして話されたお姿が忘れられません。安らかにお眠り下さい。

訃報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

吉川 敏男 先生(享年65歳) 平成25年2月23日ご逝去

新垣 善彦 先生(享年63歳) 平成25年3月29日ご逝去

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、
沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
(香典・生花等の手配があります)

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしく申し上げます。

【連絡先】 県薬事務局：098-963-8930

平成24年度 第8回定例理事会 議事概要

日時：平成24年11月17日(土) 19:00～22:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副会長：宇野司、吉田洋史

理 事：江夏京子、亀谷浩昌、山里 勇、池宮恵美子、姫野耕一、新垣秀幸、下地 仁、
荒谷敏巳、宮里 直、糸嶺 達、山城志津、村田美智子、宮城敦子、
大城恭子（学校薬剤師部会代表理事代理）

事務局：稲福文隆

<議事録署名人> 池宮恵美子

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等（9月分）及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>
- (2) 学校薬剤師部会役員会 10月14日（日）県薬 <資料配布>
前濱理事代理の大城恭子氏より、学薬の各表彰者が報告された。
- (3) 会計監査（会営薬局） 10月15日（月）県薬
糸嶺理事より、会営薬局の定例会計監査が行われたと報告された。
- (4) 沖縄県精神疾患対策検討会 10月17日（水）県庁
村田理事より、平成25年度からの次期医療計画に新たに「精神疾患」が加わる事になった。自殺対策として、薬の正しい使い方が学校保健にも組み込まれていると報告された。
- (5) 平成24年度「薬と健康の週間」 10月17～23日（水～火） <資料配布>
- (6) 第105回健康とおくすり相談会 10月17日（水）パレット市民劇場
- (7) 県民公開講演会 10月17日（水）パレット市民劇場
- (8) 「薬と健康の週間」街頭キャンペーン 10月19日（土）20・22日（土・月）各所
糸嶺理事より、(5)～(8)の「薬と健康の週間」をまとめて報告。10月17日（水）くすり
と健康フェア、10月20日（土）・22日（月）街頭キャンペーン開催。くすり
と健康フェアの講師に梁瀬奈々氏、大城友弥氏を招いて講演を行ったと報告された。
- (9) 平成24年度高度管理医療機器継続研修会 10月21日（日）県薬
江夏常任理事より、今年で7回目、参加人数106名で毎年同じ内容であるが、今回から
薬務疾病対策課が担当していた第1章の説明を県薬が行うことになった。終了後に認定証を
発行したと報告された。
- (10) 薬祖祭 10月22日（月）波之上本殿
- (11) 平成24年度薬事功労者知事表彰式 10月23日（火）県庁
糸嶺理事より、病院薬剤師会から田場英治先生、薬剤師会から金城栄一先生が表彰されたと報告された。
- (12) 平成24年度第4回薬剤師学術研修委員会 10月23日（火）県薬 <資料配布>
亀谷理事より、学術大会の発表内容の確認をした。出展ブースが去年の6ブースから今年
は11ブースとなり、スペースも狭かった。次回出展料の検討をしたいと報告された。

- (13) 個別指導（2薬局） 10月25・26日（木・金）沖縄県宮古合同庁舎
- (14) 薬学生実務実習（D I） 10月25日（木）県薬
- (15) 沖縄県老人クラブ連合会創立50周年・公益財団法人移行記念祝賀会
10月25日（木）総合結婚式場ジュビランス
江夏常任理事より、吉田久子氏と共に出席したと報告された。
- (16) 平成24年度第3回選挙管理委員会 10月25日（木）県薬 <資料配布>
山城理事より、議題にて報告する。
- (17) 平成25年度以降の会費徴収に係る全国担当者会議（第2回） 10月26日（金）日薬
糸嶺理事より、各県から、日薬から各県薬へ支給される助成金には税金がかかるのではとの質問がだされたが、税制上問題ないとの回答だった。会費徴収については正式に12月の会長会議で決定するとの報告があった。
- (18) 食品の安全・安心意見交換会 10月26日（金）県庁
糸嶺理事より、笠原理事がアドバイザーで参加したとの報告がされた。
- (19) 薬学生実務実習受入委員会 10月26日（金）県薬 <資料配布>
糸嶺理事より、資料の式次第に沿って開催されたと報告があった。
- (20) 開局委員会主催研修会第2回スキルアップ研修会 10月28日（日）県薬 <資料配布>
新垣理事より、日曜日に開催したが、平日開催と比べて、参加人数が変わらないため、次回12月は平日に開催を予定しているとの報告があった。
- (21) 公益法人制度改革についての総務私学課との第4回打合せ 10月29日（月）県庁
- (22) 健康おきなわ21 第2回分野別検討委員会（タバコ） 10月30日（火）県庁
- (23) スポーツファーマシスト委員会 10月30日（火）県薬 <資料配布>
新垣理事より、第67回国民体育大会に役員として笠原大吾理事が派遣されたことと、薬剤師会ドーピング防止ホットラインへ3名の先生がご協力いただくことになったと報告があった。
- (24) 薬学生実務実習（夜間救急） 11月1・6日（木・火）会営薬局医療センター前
- (25) 第21回麻薬・覚醒剤乱用防止運動沖縄地区大会 11月2日（金）てだこホール
神村会長より、式典の後、麻薬探知犬の紹介、特別講演に夜回り先生こと水谷修先生が講師。参加していた高校生に対して、熱の入った強い口調での講演だったと報告された。
- (26) 日本医業経営コンサルタント大会懇親会 11月2日（金）かりゆしアーバンリゾート・ナハ
吉田副会長が参加。
- (27) 平成24年度 第3回開局委員会 11月5日（月）県薬 <資料配布>
新垣理事より、一般薬の1類医薬品を扱っている薬局に対し、保健所からの調査が行われている。販売方法には気を付けるようにと報告がされた。エパデールのスイッチOTC化が薬食審一部で承認された。講習会等の開催が必要。スキルアップ研修会は、平成24年12月6日（木）午後7時30分からと、平成25年1月14日（月）成人の日の午後1時から県薬で開催する予定である。
- (28) 平成24年度第3回不動産・備蓄ネットワーク委員会 11月6日（金）県薬
吉田副会長より、今回の委員会は県薬学術大会に向けてのスライド作成だったと報告された。
- (29) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会
11月7日（水）社保診療報酬支払基金沖縄支部
神村会長より、毎月の定例会議で、基金だよりの内容の説明だったと報告された。

(30) 平成24年度第1回沖縄県医療保健連合（なごみ会）幹事会・懇親会

11月7日（水）沖縄ハーバービューホテル <資料配布>

神村会長より、来年も県民健康フェアを開催してほしいと要望し、各医療団体全会一致で賛成した。薬剤師ブースが狭かったため、機器による測定等に時間がかかった。来年は広いスペースを要望した。看護協会から、ウォーキング大会への参加案内、理学療法士会から、第14回沖縄県理学療法学会大会開催の案内があったとの報告がされた。

(31) 個別指導（2薬局）

11月8・15日（木）県庁

神村会長より、個別指導は、九州厚生局沖縄事務所から指導薬剤師1名と事務官2名で、月に4か所の薬局指導を行なっている。悪質な薬局については監査になる場合がある。保険法はしっかり守ってほしいと報告がされた。

(32) 九州厚生局長来訪（表敬訪問）

11月8日（木）県薬

神村会長より、九州厚生局長に就任の表敬訪問だったと報告された。

(33) 第1回日薬九州ブロック会議

11月10日（土）自治会館 <資料配布>

吉田副会長より、日薬から4名、九州各県から2、3名の参加だった。

日本学校薬剤師会が日本薬剤師会部会へと移行したが、いまだ単独的な動きがあり、問題になったと報告された。議題・意見交換では、薬剤師会を巡る最近の課題について、医療計画等への対応について、会員増強策について、生涯学習について議論したと報告された。

(34) 第26回沖縄県薬剤師会学術大会

11月11日（日）県薬・医師会館 <資料配布>

亀谷理事より、今後の課題として、メイン会場がMAX198名となっており、それを超える参加者だった。参加者が増えれば会場の変更も検討する。駐車場の誘導員として、高校生を採用したが、誘導の判断に乏しい面があった。次回はシルバー人材派遣センター等への依頼を検討する。学術大会の内容については、九山大会のリハーサルも兼ねているので、会を重ねるごとにレベルアップした内容を期待したいと報告された。

(35) 役員及び代議員の選挙規程整備に関する第2回打合わせ会議

11月12日（月）照屋俊幸法律事務所

山城理事より、議題にて報告する。

(36) 薬物乱用防止協会寄付金授与式

11月15日（木）県庁 <資料配布>

山城理事より、OTC薬局の3グループからの寄付贈呈で、数十年にわたって続けられている。薬剤師会として恥ずかしいと感じた。印象深かったのは、薬務疾病対策課担当者からの報告で、脱法ハーブを使用して、病院へ救急搬送された人が、平成23年1月から12月10件で、平成24年1月から10月で33件、10代から20代が7割というものだったと報告した。

(37) 第3回在宅医療に関する講習会における講師派遣のお願い

<資料配布>

糸嶺理事より、鹿児島県薬剤師会理事の沼田真由美先生を特別講師としてお願いしたとの報告がされた。

(38) 平成24年度 禁煙相談への薬剤師の派遣について

<資料配布>

糸嶺理事より、豊見城市役所より禁煙相談員の依頼があった。

保健福祉委員から、笠原大吾氏、我喜屋美香氏、大城恭子氏が相談員として参加するとの報告がされた。

(39) 平成24年度「がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用推進のための講習会」について

＜資料配布＞

糸嶺理事より、各地区、各委員会から講習会へ参加を希望される方がいましたら、ご推薦下さいとの報告がされた。

(40) 看護師の特定能力の認証に関する医行為分類（案）と教育内容等基準（案）に関する意見募集に対する本会意見の提出について

＜資料配布＞

糸嶺理事より、厚生労働省の「チーム医療推進会議」及び同会議の下部組織である「チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループ」で作成された医行為分類（案）及び教育内容等基準（案）の意見募集に対し、日本薬剤師会より意見をまとめた資料に沿って報告された。

(41) 「基準薬局制度」の発展的解消について

＜資料配布＞

神村会長より、日本薬剤師会としては、目的が達成できたということで、発展的解消をすることになった。各都道府県では、基準を定めて継続しても良いとの事だが、沖縄県も今後検討したいとの報告がされた。

(42) おくすり相談室に寄せられた苦情及び問い合わせ

＜資料配布＞

糸嶺理事より、「おくすり相談室に」患者から苦情が増加している。内容については、各薬局の接遇に関する事が多く、医療保険委員会・開局委員会で検討していただきたいと報告された。

報告（薬連）

(1) 遠山清彦衆議院議員と語る女性の集い 10月15日（月）かりゆしアーバンリゾート・ナハ

(2) 2012公明党政経文化セミナー 10月15日（月）かりゆしアーバンリゾート・ナハ
江夏常任理事が出席。

(3) 比嘉なつみ氏を囲む会 10月15日（月）パシフィックホテル沖縄
神村会長より、乾杯の音頭をとった。医療団体の代表として衆議院選挙の応援をする。推薦状を交付したとの報告。

(4) 石破茂自由民主党幹事長との意見交換会 10月17日（水）パシフィックホテル沖縄
神村会長より、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会から各要望書を提出した。薬剤師会として、一般用医薬品のインターネット販売の禁止を要望した。石破茂幹事長も理解を示した。

(5) 自由民主党沖縄県支部連合会政経パーティー 10月17日（水）パシフィックホテル沖縄

(6) 國場幸之助君を激励する集い 10月22日（月）かりゆしアーバンリゾート・ナハ
城間副幹事長、江夏常任理事が出席。

(7) 翁長雄志那覇市長選挙立候補予定者への推薦状交付

10月29日（月）ひやみかち・改革市民の会

神村会長より、薬剤師会、日本薬剤師会から推薦状を交付したとの報告がされた。

(8) オナガ雄志・必勝出陣式 11月3日（土）オナガ雄志選挙対策本部前広場

(9) 平成24年度日本薬剤師連盟九州ブロック協議会 11月10日（土）自治会館＜資料配布＞
神村会長より、厚生労働省は保険調剤等におけるポイント付与を原則禁止するとの報告がされた。

江夏常任理事より、在宅療養を行っている患者に係る薬剤管理指導については、診療報酬

上の在宅患者訪問薬剤管理指導料を算定を受けている患者が、要介護となり認定を受けた後も、算定科目を誤って、在宅療養管理指導料でなく、在宅患者訪問薬剤管理指導料を継続して算定する事例等が約30件あったので、注意してほしいとの報告がされた。

- (10) 平成24年度第2回全国会長・幹事長拡大会議 11月14日(水)東京會館
神村会長より、日薬連盟小田幹事長より沖縄県で開催された平成24年度日本薬剤師連盟九州ブロック協議会の報告がされた。連盟会費については、会員から徴収する場合、県薬会費、連盟会費をまとめて徴収するのは構わないが、徴収後は振り分け処理を行うことと報告された。

議題

(1) 役員及び予備代議員の選出について

- ① 予備代議員の選出について <資料配布>
山城理事より、一般社団法人沖縄県薬剤師会(平成25年4月1日移行予定)に於ける第一期の予備代議員を、定款(案)第5条第7項ならびに代議員選挙規程第20条に準拠して選出すると説明された。
- ② 一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員選挙規程(案) <資料配布>
山城理事より、上記資料に基づいて説明された。
- ③ 一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規程(案) <資料配布>
山城理事より、上記規程資料に基づき、会長は選挙を行う日の60日前までに、届出の受付期間、締切日時、その他選挙に関し必要な事項を本会の事務局に掲示するとともに、会員に周知させるため、12月の会報に掲載する等規程説明がされた。
- ④ 一般社団法人沖縄県薬剤師会理事候補者選出要綱(案) <資料配布>
山城理事より、会長候補(代表理事)は代議員会(社員総会)にて選出する。会長候補以外の理事候補については、六地区薬剤師会及び各職種部会から各1名を理事候補として推薦することができる。推薦された理事候補のほかに、会長候補は定款第23条第1項第1号に定める理事の定数の範囲で、新たに理事候補を指名することができる。
理事候補となる者は、理事選出の日(社員総会)から90日前までに薬剤師会に入会している者とする、等の説明がされた。
- ⑤ 代議員並びに役員選出タイムスケジュール <資料配布>
吉田副会長より、資料に基づいて説明した。上記議題資料(1-1から1-5)について挙手にて確認し、全員一致で承認された。

- (2) 会館入口看板施工等について <資料配布>
神村会長より、2階の研修室にてスライド映写時、正面窓からの光で見づらい。目隠しをしたい。また、薬剤師会館の表示がわかりにくい為、正面入り口に看板を設置したい。
他団体の会館も参考にしながら検討することになり、継続審議となった。

- (3) 日本薬剤師会有功賞(個人)推薦について <資料配布>
神村会長より、満80歳で、薬剤師会会員30年の会員が該当する。沖縄県から那覇地区の崎山信子先生、宮城初枝先生が候補者として推薦することで了承された。

- (4) 会員管理上の所属支部について <資料配布>
糸嶺理事より、那覇市の奥武山と離島の渡嘉敷村、座間味村、栗国村、南・北大東村、渡名喜村は会員がいなかった為、該当支部がなかった。今回、奥武山町に在住の方が入会し

た為、小録支部に加えたいと説明した。また、前記の離島も小録支部に加えることに了承された。

(5) A E D購入のお願い <資料配布>

新垣理事より、薬剤師会館は会員以外も利用している。医療関係団体が運営する会館にA E Dが設置されていない、早急に設置したいと説明された。薬剤師会館、会営薬局うえはら・とよみに各1台設置することで了承された。機種等の選定については、開局委員会、保健福祉委員会で決めてもらうことに了承された。併せて職員を中心にA E D講習会を予定することになった。

(6) 会営薬局うえはら開局20周年について <資料配布>

神村会長より、今年会営薬局うえはらが開局20周年、会営薬局とよみが18周年、会営薬局医療センター前が4周年になる。理事、職員を中心に祝賀会兼忘年会を開催したい。12月8日(土)18時から理事会を開催し、その後20時から祝賀会兼忘年会を計画していると説明し、了承された。

(7) その他

村田理事より、患者さんからの「おくすり相談室に寄せられた苦情及び問い合わせ」の資料に基づいて説明し、各薬局の対応等について議論された。

会報原稿募集のご案内

広報委員会



おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します(薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です)。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております(手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します)。

☆原稿送付先(会報に関する問い合わせ)

〒901-1105 島尻郡南風原町字新川218-10 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932
e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

平成24年度 第9回定例理事会 議事概要

日時：平成24年12月8日(土) 18:00～20:00

場所：沖縄ポートホテル シリウス

<出席者>

会 長：神村武之

副会長：吉田洋史

理 事：江夏京子、亀谷浩昌、山里 勇、新垣秀幸、下地 仁、荒谷敏巳、宮里 直、糸嶺 達、
前濱朋子、山城志津、笠原大吾、宮城敦子、我喜屋美香、成川賢一（北部地区代理）

事務局：松堂恵美

<議事録署名人> 江夏 京子

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等（11月分）及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>
- (2) 第106回健康とおくすり相談会 11月18日（日）サンエー那覇メインプレイス
- (3) 平成24年度高度管理医療機器等継続研修会 11月18日（日）宮古福祉保健所
- (4) 平成24年度高度管理医療機器等継続研修会 11月19日（月）大濱信泉記念館
- (5) 第18期沖縄県自然環境保全審議会委員委嘱辞令交付式及び沖縄県自然環境保全審議会
11月22日（木）県庁 <資料配布>

報告事項(8)と合わせて宮城理事より報告。今年度から審議会の委員に宮城理事が就任した。審議会には自然環境・鳥獣部会と自然公園・温泉部会があり、宮城理事は温泉部会の所属となった。29日の現地調査は温泉の掘削申請に関するものであった。薬剤師としても環境等に関わる知識を深め、積極的に関わっていきたい。沖縄県には温泉が既に10箇所程度あり、掘ればもっと出てくるらしい。沖縄は冷泉。審議会では許可を出すのではなく、問題点の掘り起こしを行う。

- (6) 平成24年度第3回医薬品事故・過誤対策委員会 11月27日（火）県薬 <資料配布>
糸嶺理事より報告。来年2月17日に「平成24年度医療安全講習会」開催を予定している旨、報告された。会員発表や機器展示も行う。
- (7) 個別指導（2薬局） 11月29日・12月6日（木）県庁
- (8) 平成24年度第1回沖縄県自然環境保全審議会自然公園・温泉部会及び現地調査
11月29日（木）現地視察：本部町／温泉部会：本部町役場会議室 <資料配布>
前記報告事項(5)でまとめて報告。
- (9) 平成24年度第1回自殺対策検討委員会 11月29日（木）県薬 <資料配布>
笠原理事より報告。来年1月14日に自殺対策委員会主催研修会を予定している。内容はゲートキーパーとしての薬剤師のスキルアップ。今日の新聞に自殺者が減少してきている旨の記事が掲載されていた。活動の効果は出てきているようだが、今後も継続していく。
- (10) 2012年度公認スポーツファーマシスト認定制度特別講習会
11月30日（金）品川フロントホテル
- (11) 会報取材 12月1日（土）天久台病院

亀谷常任理事より報告。天久台病院を取材した。村田薬局長は漢方へ積極的に取り組んでおり、沖縄に漢方の植物園を作りたい。との話もされた。また、ゲートキーパーとして薬

局が患者を紹介すると、心療内科は混んでいてなかなかすぐには対応できないが、天久台病院では飛び込みでも対応可能のようである。

- (12) 医療保険委員会 12月3日(月) 県薬 <資料配布>
吉田副会長より資料に沿って報告。今年度の調剤報酬改定に伴う質問は一般名処方に関するものが多かった。また、八重山地区より要望のあった「処方せんの書き方」についての新しい資料を作成。県薬のホームページにも掲載予定である。また「調剤報酬請求業務」等の研修会について、今後の開催方法について協議した。また、調剤報酬算定について、現在社保と国保の審査で基準が違う部分があることからそのすり合わせを行った。こちらに関しては今後研修会等で説明していきたい。
- (13) 薬業連合会第2回代表者会議 12月4日(火) 沖縄都ホテル
来年1月20日の合同祝賀会についての会議。
- (14) 平成24年度沖縄県体育協会第2回財務特別委員会 12月4日(火) 公益財団法人沖縄県体育協会
- (15) 会計監査 12月4日(火) 県薬
- (16) 平成24年度第4回スポーツファーマシスト委員会 12月4日(火) 県薬 <資料配布>
笠原理事より報告。今後はe-ラーニング等でも取得可能になる予定。現在沖縄県薬剤師会でも更新のための研修会を開催しているが、こちらもそうなる方向である。来る12月16日にその研修会が県薬で開催されるが、現在受講申込者は約50名。現在、県体協から利用しやすい「禁止表のリスト」作成と指導を依頼されており、リストはD Iにて作成中である。
- (17) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 12月5日(水) 社会保険診療報酬支払基金
神村会長より報告。薬局に配布されている「社保だより」と同様の内容だが、今回は茨城県の大学病院が不正請求で保険医療機関の指定が取り消された事が報告された。通常保険医療機関が停止になるとその病院は廃止になるが、同病院の場合、そうになると患者への影響が大きい為、特別な措置がなされるだろうとのことであった。
- (18) 平成24年度健康づくり運動実践活動団体助成事業助成金の確定について <資料配布>
吉田副会長より、お薬手帳の啓蒙活動のためということで、以前より申請していた助成金が交付されたと報告された。
- (19) 九州山口薬剤師会事務局職員研修会 12月6・7日(木・金) 鹿児島県
県薬事務局より2名参加。
- (20) 平成24年度試験検査センター技術研修会 12月6・7日(木・金) 日薬・主婦会館プラザエフ
- (21) 開局委員会主催第3回スキルアップ研修会 12月6日(木) 県薬 <資料配布>
- (22) 医薬分業対策委員会主催研修会(SGD)開催について <資料配布>
江夏理事より説明。毎年度末にスモールグループディスカッションを行ってきたが、今回は12月16日に開催することとなった。テーマは「10年後の薬局・薬剤師を考える」。しかし、メンバーがまだ足りていない為、各地区に参加をお願いをしている。
- (23) 日本薬剤師会会員の会費納入方法の変更について(日薬文書) <資料配布>
糸嶺理事より説明。これまで日薬会費(県薬が徴収しているもの)は月払いもあったが、来年度からは一括払いに移行。また神村会長より、来週日薬の各県薬会長協議会にて報告があり、決議予定である旨が伝えられた。
- (24) その他

報告（薬連）

- (1) 第5回若手薬剤師指導者育成フォーラム 11月17・18日（土・日）福島県飯坂温泉ホテル聚楽
沖縄県より伊敷松太郎氏、吉田将司氏が参加。
- (2) みやざき政久を国政に送る『女性の集い』 11月26日（月）フェストーネ
- (3) ニシメ恒三郎氏への推薦状交付 11月27日（火）ニシメ恒三郎選対事務所
- (4) 比嘉なつみ選挙事務所開き 11月27日（火）比嘉なつみ選対事務所
- (5) ミヤザキ政久後援会 緊急会議 12月3日（月）ミヤザキ政久後援会本部
- (6) 石破茂自民党幹事長を囲む朝食会 12月4日（火）沖縄ハーバービューホテル
会長より報告された。朝食を兼ねての会議を持った。沖縄県の問題についてもかなり前向きな姿勢で取り組んでいくような話であった。また、自民党は沖縄を重要視しており、今回は幹事長が公示日に沖縄県入りしている。安倍総裁は被災地の福島にて第一声をあげた。
- (7) 國場幸之助出陣式 12月4日（火）ジュンク堂前の事務所
- (8) 西銘恒三郎出陣式 12月4日（火）西銘恒三郎選対本部
- (9) 宮崎政久出陣式 12月4日（火）事務所前
- (10) 比嘉なつみ出陣式 12月4日（火）沖縄市ゴヤ十字路
- (11) 宮崎政久総決起大会 12月5日（水）結婚式場ジュビランス
- (12) 國場幸之助総決起大会 12月6日（木）県立武道館
- (13) 比嘉なつみ総決起大会 12月7日（金）沖縄市民会館
- (14) その他

報告事項(1)、(5)以外は総括。薬連の会務報告はまとめて神村会長よりなされた。

沖縄県薬剤師連盟及び日本薬剤師連盟から4名に推薦状を交付した。西銘恒三郎氏は優勢だが國場幸之助、比嘉なつみの両氏は一進一退の状況。宮崎政久氏は相手候補がかなり強く、苦戦を強いられている。選挙については、お金を渡したり、文書を送るのは選挙違反なので、注意しなければいけない。期日前投票のお願いは大丈夫なので、来週も一斉同報する予定である。また、できればどういう理由でその候補者を推薦したか文書等で会員に知らせて欲しい、との意見もあった。しかし、今回の選挙は急であり難しかった。

議題

- (1) 3月代議員会について（日時等について）
平成25年3月24日（日）の午後1時より開催予定。同日会長候補者及び監事選挙が開催される旨が伝えられ、了承された。
- (2) 会長候補者及び監事選挙に関する告示について <資料配布>
会長候補者及び監事選挙に関する告示
一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則（案）
一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則施行細則（案）
一般社団法人沖縄県薬剤師会理事候補選出要綱
代議員ならびに役員選出タイムスケジュール（案）
山城理事より、資料に沿って説明がなされた。
一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則については、旧規則を元に日本薬剤師会の規則を参考にしながら案を作成したが、今回再度見直し、細かな訂正を行っている。
一般社団法人沖縄県薬剤師会理事候補選出要綱については、担当弁護士と話し合いを重ね

たうえ「要綱」として作成した。内容に関しては今後も検討を重ねていきたい。

タイムスケジュールについては、前理事会にも出したが、再度出している。理事に関しては各地区、部会から推薦されてもその時点ではあくまでも候補者であり、代議員総会の議決を経て決定する。会長候補者については1人の場合、信任投票ではなく無投票当選とする。選挙期日等の公示については会報及びホームページにて行う予定。3月24日の臨時代議員会にて会長候補者、監事が選任される。4月の定例理事会で各地区部会より理事候補者を推薦してもらい、5月の代議員総会にて会長候補者指名理事を含む全理事について選任する。その後新理事による審議を行い、役割等を決めていくという流れですすめる。

会長候補者が理事を選ぶというのは民主的ではないのではという意見もあるようだが、日本薬剤師会では会長候補者が全理事を選任するのに対し、沖縄県薬剤師会では指名理事以外各地区部会からの推薦であることから、より民主的なやり方であると考えている。

また、総会代議員会後の新理事による理事会は、どのように運営するのかという質問もあった。その時点ではまだ会長候補者でしかなく、議長を誰にすべきか決められない。この件に関しては理事会運営要綱を作るよう、事務局に指示することになった。

(3) 沖縄県薬剤師会認定基準薬局制度の今後について ＜資料配布＞

日本薬剤師会では基準薬局制度を発展的解消することになったことを受けて、沖縄県ではどうするか議題にあげられた。神村会長より説明があり、日薬会長協議会ではこの件の議論については喧々諤々だったが、各県でどうしていくか決めていくこととなっている。

現在認定を取っている薬局もあり、日本薬剤師会に倣って即廃止するのもどうか、との意見もあった。また今後在宅医療に関わっていくうえで、麻薬の取扱いに関する部分も重要であるとの声もあった。沖縄県では制度の運営及び基準の見直し等を含め検討していくこととした。

(4) 平成24年度パート職員冬季賞与について ＜資料配布＞

神村会長より、資料に沿って説明がなされ、支給することで承諾された。

(5) 平成24年度薬事功労者合同祝賀会について ＜資料配布＞

神村会長より、今年度の受賞者について、説明がなされた。今回からは薬剤師会以外の団体（医薬品配置協議会、医薬品登録販売者協会等）で受賞したのものについても挙げてもらい、全部で18名の受賞者となっている。続けて、祝賀会招待者案も説明され、もし他にも「この方も招待して欲しい」との声があれば、会長との相談で決めるということで承諾された。

(6) AEDトレーニングシステムの購入について ＜資料配布＞

新垣理事より説明がなされた。AEDは実際に使えることが重要であり、定期的なトレーニングが必要である。また、お薬相談会での活用等も考えられることより、購入が承諾された。

(7) 次回の幹事会・理事会日程について

理事会は毎月第2土曜日となっているが、来月は沖縄県医師会の新年会と重なっており、会長が参加予定である。そのため、1月理事会を1月19日（第3土曜日）に開催される案が出され、承諾された。

(8) その他

我喜屋理事より、報告がなされた。12月7日に宮城県で震度5の地震があった。これは東日本大震災の余震とされている。比較的大きなゆれだったが、現地では3.11の教訓を活かし、適切な対応ができたとの報告があったとのことである。

それを受け、神村会長からも「以前から話が出ている対策委員会を早く立ち上げ、沖縄県でも対応を考えていこう」とのお話があった。

平成24年度 第10回定例理事会 議事概要

日時：平成25年1月19日(土) 19:00～22:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副会長：宇野司、吉田洋史

理 事：亀谷浩昌、江夏京子、山里勇、姫野耕一、新垣秀幸、下地仁、荒谷敏巳、糸嶺達、
村田美智子、山城志津、笠原大吾、宮里直、前濱朋子、宮城敦子、我喜屋美香

事務局：與那嶺真美

<議事録署名人> 笠原大吾

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等(12月分)及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>

(2) 会営薬局創立20周年祝賀会忘年会 12月8日(土) 沖縄ポートホテル

(3) 沖縄県国民医療推進協議会 12月10日(月) ロワジールホテル那覇 <資料配布>

神村会長より、TPP問題について、全国大会が東京で開催され、日本薬剤師会の児玉会長が出席した。沖縄県医師会、沖縄県薬剤師会も強く反対しており、各地区で反対集会が開催され、県知事、厚生労働大臣、総理大臣宛に決議文を提出している。医療関係団体として、皆保険制度が崩壊することがないように、総意のもとでの決議ということで沖縄県医師会会長から報告された。

(4) 平成24年度医療安全講習会講師との打ち合わせ会議 12月11日(火) 県薬

糸嶺理事より、医療安全講習会は3回目の開催になる。今回は、琉薬の新垣氏に講師をお願いしている。新垣氏は主に病院等の医療安全の講演会講師を行っている方で、今回、薬局バージョンで医療安全のヒヤリハット報告に対する対応等の講演をしていただくことになっている。また、東京のPMDAから講師をお願いしており、PMDAメディナビに関し、講演を行う予定。あと宮古、八重山も同様に、講演会を予定している。沖縄はPMDAメディナビの登録が少ないということで、なぜ少ないか調査も兼ねての来沖である。

(5) 平成24年度第4回都道府県会長協議会・懇談会 12月12日(水) 日薬 <資料配布>

神村会長より、一般用医薬品のインターネット販売事業者が、第1類・第2類医薬品の郵便等販売を行う権利の確認等を求めた裁判について、東京高等裁判所がこれを認める判決に対して国が最高裁判所に上告していた。平成25年1月11日、最高裁判所においてこれを棄却する旨の判決が下されたと報告があった。これまで日本薬剤師会としては、利便性よりも安全性を重視し、インターネットによる医薬品販売に反対してきたところであり、今回の最高裁判決は誠に遺憾。今後、厚生労働省で検討会を発足し、議論していく。

日本薬剤師会が公益社団法人へ移行したことに伴い、平成25年度より日薬会費の納入方法を都道府県薬剤師会への賦課方式から、会員が県薬を経由して本会に会費を納入していただく方法に変更することについて検討されているところである。

また、学校薬剤師会の会費問題として、活動のための資金は、会費徴収をするのではなく、各県から一口10万円の寄付金を仰ぐとの意見があった。

(6) 平成24年度第3回医薬分業対策委員会 12月12日(水) 県薬 <資料配布>

江夏常任理事より、2グループに分かれて、「10年後の薬局・薬剤師を考える」という

テーマでディスカッションを行った。若手薬剤師で活発な討論ができ、将来に対する若手薬剤師の意欲が感じられ、大変良かったと報告された。

- (7) 会計監査 12月13・21日（木・金）県薬
- (8) 個別指導（2薬局） 12月13日（木）県庁
- (9) 健康おきなわ21第3回分野別検討委員会（タバコ） 12月13日（木）県庁 <資料配布>
 笠原理事より、10年計画のうち半分が経過し、中間報告ということで、各分野（医師、薬剤師、保健師、教育委員会など）のメンバーで評価をし、数値目標がどれだけ達成できたか、達成の度合いによって、A・Bのランクをつけ、後期5年間の新たな目標を設定し、取り組むことになったとの報告があった。
- (10) 平成24年度第4回広報委員会 12月13日（木）県薬 <資料配布>
 亀谷理事より、以下の報告がなされた。
- ① 連載となっている女性薬剤師部会執筆・編集の薬草学が大変好評との意見が寄せられている。
 - ② 薬と健康の週間中に地元紙に投稿した当委員会池間委員執筆の論壇記事「お薬手帳持参忘れずに・安心安全な処方に必要」を読んだ一般の方が、「お薬手帳で健康の管理を」という内容の投稿記事が地元紙に掲載されていた。同じく、一般の方からの投稿記事に“かかりつけ薬剤師”の大事さが分かった等、の記事もあり今号に転載することとした。
 - ③ 薬剤師職能をPR、啓発する記事や事業があれば掲載していきたい。
- (11) AED講習会 12月14日（金）会営薬局うえはら 12月27日（木）会営薬局とよみ
 12月19・26日（水）県薬
 糸嶺理事より、訓練用トレーナーを購入したので、実際に使って練習していただくようお願いされた。
- (12) 2013公認スポーツファーマシスト認定実務講習会 12月16日（日）県薬
 笠原理事より、新規受講者を含め40名余りの参加があり、推進委員が東京で受講した内容が伝達された。次回は、平成25年1月27日（日）に行う予定。
- (13) 平成24年度医薬分業対策委員会主催研修会（SGD） 12月16日（日）県薬<資料配布>
- (14) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 審査委員会
 12月17日（月）社会保険診療報酬支払基金
- (15) 保健福祉委員会 12月18日（火）県薬 <資料配布>
 笠原理事より、以下の報告がなされた。
- ① 豊見城市健康推進課主催の禁煙指導の禁煙相談員として、3回参加した。平成24年11月10日（土）、我喜屋美香氏。平成24年12月15日（土）、大城恭子氏。次回は、平成25年1月27日（日）開催予定（相談員：笠原大吾）とのこと。
 - ② フィジカルアセスメント講習会の開催について、平成25年4月19日（金）病院勤務薬剤師、20日（土）薬局勤務薬剤師を対象として開催予定。主催は（株）大塚製薬工場。
 - ③ 第7回日本禁煙科学会について、開催日11月17日（土）～18日（日）岩手で開催。
 - ④ 沖縄県薬剤師会で購入したAEDの取り扱い講習会について、訓練用トレーナーを購入し、それを使用して、胸骨圧迫とAEDによる除細動等の実務講習会を行う。一般会員への講習会は後日に行う予定。
- (16) 試験検査センター運営委員会 12月19日（水）県薬 <資料配布>
 議題にて審議。
- (17) 個別指導（2薬局） 12月20日（木）県庁

- (18) 自殺対策検討委員会 12月20日(木) 県薬 <資料配布>
- (19) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 12月20日(木) 社会保険診療報酬支払基金
- (20) 平成24年度「健康づくり支援事業」第1回推進委員会
12月21日(金) 沖縄県総合福祉センター
- (21) 平成24年度第3回沖縄県自然環境保全審議会 12月27日(木) 県庁 <資料配布>
宮城理事より、諮問事項の審議で、土地掘削・動力装置許可申請が出ていた。内容として、環境の影響を最小限に留めるよう掘削すること、定期的な環境支援をすること。本部町備瀬でオリオンビールが新しくホテル&リゾートスパを現在建設中で、温泉を模索しているところ。環境問題でエメラルドビーチへの排水等の問題があり、業者といろいろ話を聞いたなかで、審議会としては、許可申請に相当するということであった。もう一か所は、動力装置の電線を地下からくみ上げる動力装置があり、読谷村富着に建設中で来年には完成する予定と報告された。
- (22) 平成24年度叙勲表彰等受賞祝賀会並び新年会(沖縄県看護協会)
1月5日(土) ホテル日航那覇グランドキャッスル
- (23) 平成25年沖縄県医師会新年祝賀会・医事功労者表彰式
1月5日(土) 沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ
- (24) 平成24年度第5回スポーツファーマシスト委員会 1月7日(月) 県薬 <資料配布>
新垣理事より、平成24年12月25日に笠原理事と沖縄県体育協会を訪問。その際、平成25年1月16日(水)に行われる冬季国体の団結式において、ドーピング防止教育啓発研修会の講師を当委員会の笠原理事が引き受け、派遣することになった。
講師を引き受けた笠原理事より、今まではスポーツドクターが講師をやっていたが、薬の専門家としてスポーツファーマシストとしてお願いされた。スケートとスキー選手を対象にドーピングの基礎知識を講義した。今後、薬剤師の活動の場が増えてよかったと報告された。
- (25) 平成24年度薬事功労受賞者合同祝賀会来賓者について <資料配布>
平成25年1月20日(日) 開催予定。
- (26) 厚生分野に係る平成25年秋の叙勲並びに褒章候補者の推薦等について <資料配布>
叙勲候補者に、新垣正次氏、藍綬褒章候補者に神村武之氏が推薦されてた。
- (27) 会長候補者及び監事選挙に関する公示 <資料配布>
選挙日は平成25年3月24日(日)、場所は沖縄県薬剤師会館、立候補締切日は平成25年3月9日(土)となっている。理事選出については、平成24年度第8回定例理事会にて決議された、一般社団法人沖縄県薬剤師会理事候補選出要綱に基づいて開催していきたいと報告された。
- (28) 日本薬剤師会会員の会費納入方法の変更について <資料配布>
大きな変更点として、現行では月払いで納入が可能であるが、平成25年度からは年払いに変更になる。詳しい内容は決まり次第連絡すると報告された。
- (29) 支部活動費算出方法について <資料配布>
平成24年7月29日に各地区薬剤師会会長会議の議題にあがっていた支部活動費について、案を提示している。次回2月の会長会議で検討する予定。各支部で十分検討するよう報告された。
- (30) 平成24年度沖縄県交通遺児育成会への募金について <資料配布>
神村会長より、例年同様5万円の寄付をしたと報告された。
- (31) 地域・在宅医療委員会 1月9日(水) 日薬

(32) 沖縄県歯科医師会新年会並びに叙勲・大臣表彰等受賞合同祝賀会

1月10日(木) 沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ

(33) 平成24年度第4回開局委員会

1月10日(木) 県薬 <資料配布>

新垣理事より、①第3回スキルアップ研修会、参加者は34名であった。前回までのテキストが欲しいという参加者が多かった。第4回は、平成25年2月21日(木)第5回は、4月18日(木)に予定している。②登録販売者のための一般用医薬品研修会については、費用の問題、ビデオ(6時間)研修は長いということで、中止にした。③薬剤師のための一般用医薬品研修会については、平成25年2月11日(月)予定。2時間のビデオ研修、伝達事項の説明を含めると3時間余りとなると報告された。

(34) がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用推進のための講習会

1月12日(土) 御堂会館(大阪)

(35) ゲートキーパー(薬剤師)スキルアップ研修会

1月14日(月) 県薬

(36) 平成24年度沖縄県自殺対策連絡協議会(第2回)

1月15日(火) 県庁

(37) 第5回都道府県会長協議会

1月16日(水) 日薬 <資料配布>

神村会長より、日本薬剤師会会館建設予定で、予算は25億円以内、場所はまだ公表していない。日本薬剤師会120周年記念式典並びに祝賀会を平成25年6月9日(日)800名の招待者で行う。沖縄から8名の歴代会長、歴代代議員の招待者名簿が届いている。参加費用は12,000円、式典には天皇陛下が出席し、ご挨拶をいただく企画である。

また、生涯学習支援システム(JPALS)については、今回2万人を目標にしているが、現在9千人の申し込みとなっている。沖縄は全国一少ない為、たくさんの会員が申し込みをしていただきたいと報告された。

(38) 日薬新年賀詞交歓会

1月16日(水) 東京會館

(39) 平成24年度第4回選挙管理委員会

1月17日(木) 県薬

(40) 平成24年度第4回沖縄県がん診療連携協議会

1月18日(金) 琉球大学医学部

神村会長代理で、吉田副会長が出席。がん患者団体を含め、沖縄県に要望を出す会議となっている。複数年にわたってやってきたがようやくまとまり、今月末に県に申請することとなっていると報告された。

(41) 平成24年度第2回地区薬剤師会会長会議

2月2日(土) 県薬 <資料配布>

各地区に対する交付金について、議題であがっている資料をもとに検討していただきたいと報告された。

(42) 平成25年度事業計画案(各委員会、部会)について

<資料配布>

まず、当該案件の提出締切を2月1日(金)に設定。3月開催の臨時代議員会に平成25年度事業計画案を提示することから、各分野の担当理事は提出をするよう呼びかけた。

(43) 那覇地区薬剤師会の一般社団法人化について

<資料配布>

姫野理事より、日本薬剤師会、沖縄県薬剤師会の定款を参考にしながら那覇地区薬剤師会定款(案)を司法書士に確認しながら進めている状況で、平成25年2月16日(土)設立総会を開催予定と報告された。

(44) 医薬品のインターネット販売訴訟について

<資料配布>

一般用医薬品のうち、副作用のリスクが高い「第1類医薬品」の文書を用いた調査が、平成22年度から毎年行われている。購入の際に文書を使った詳細な説明があったのは平成22年が46%、23年が31.5%、24年が55.2%と増えているが、もう少し割合を上げるよう委員会で検討していただきたいと報告された。

(45) 平成25年6、7月の会場貸し出しについて

<資料配布>

例年6～7月にかけて、各地区、部会の総会が開催予定されているが、沖縄県薬剤師会を会場として使用される場合、日程が限られているため、希望日が重なることがある。この期間（土、日、祝日）は申込順での受付をせず、希望日が重なった場合はそれぞれで、話し合い調整して頂きたい。使用を希望される地区、部会は早めにお申し込みをしていただきたい。

報告（薬連）

(1) 選挙区ミヤザキ・比例区こうめい 読谷村支部総決起大会

12月10日（月）読谷村福祉センター

(2) 選対会議

12月12日（水）北部連合事務所（第3選挙区）

(3) 西銘恒三郎総決起大会

12月13日（木）豊見城中央公民館

(4) 國場幸之助練り歩き

12月15日（土）与儀公園

(5) 西銘恒三郎打ち上げ式

12月15日（土）糸満市（ロッテリア前交差点）

(6) 國場幸之助打ち上げ式

12月15日（土）むつみ橋交差点

(7) 比嘉奈津美打ち上げ式（うるま市）

12月15日（土）安慶名交差点

(8) 比嘉奈津美打ち上げ式（沖縄市）

12月15日（土）胡屋交差点

(9) 西銘恒三郎・國場幸之助・比嘉奈津美選対事務所訪問

12月16日（日）各選対本部

(10) 北部連合事務所訪問

12月16日（日）北部連合事務所（第3選挙区）

(11) 参議院議員島尻あい子後援会新春の集い

1月4日（金）自治会館

(12) 自由民主党県連新春の集い

1月7日（月）ロワジュールホテル那覇

(13) 2013公明党沖縄県本部賀詞交換会

1月8日（火）沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ

(14) なかいま弘多後援会常任理事会

1月11日（金）沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ

(15) 第46回衆議院議員選挙結果報告と御礼

<資料配布>

議題

(1) 試験検査センター運営委員会の委員定数変更について

従来の運営委員は7名以上13名以下となっていたが、今回5名以上13名以下と規定を変更。挙手にて承認された。

(2) 総会の日程等について

① 第78回臨時代議員会

日時：平成25年3月24日（日）13時～、場所：沖縄県薬剤師会館ホール

※平成24年12月8日（土）理事会にて承認済

② 第1回通常総会

日時：平成25年5月26日（日）13時～、場所：沖縄県薬剤師会館ホール

以上、承認された。

③ 代議員ならびに役員選出タイムスケジュール（案）として

※臨時代議員会（平成25年3月24日（日））

・現代議員会にて会長候補、監事選挙

※定例理事会（平成25年4月13日（土））

・平成25年度第1回定例理事会にて新理事者候補を選出

※通常総会（平成25年5月26日（日））

・社員総会、理事選任を行う

・新理事による理事会に於いて、会長、副会長、専務理事、常務理事等を互選する。

平成24年度 第11回定例理事会 議事概要

日時：平成25年2月9日(土) 19:00～21:00

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副会長：宇野司、吉田洋史

理 事：江夏京子、亀谷浩昌、山里勇、糸嶺達、池宮恵美子、姫野耕一、新垣秀幸、下地仁
荒谷敏巳、村田美智子、山城志津、笠原大吾、宮里直、前濱朋子、宮城敦子、
我喜屋美香

事務局：山城英人

<議事録署名人> 亀谷 浩昌

会議次第に記述した事項について糸嶺理事から順次説明。項目によっては、事業担当理事から追加説明がなされた。

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等（1月分）及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>
- (2) 平成24年度女性薬剤師部会第12回漢方講座 1月20日（日）県薬
村田理事より、94名の参加があったこと等が報告された。
- (3) 平成24年度第1回災害対策委員会 1月20日（日）沖縄都ホテル <資料配布>
吉田副会長より、第1回目ということで委員長（吉田洋史氏）、副委員長（仲真良重氏・姫野耕一氏）書記（玉城有子氏）に決定。次年度事業計画案として日薬の動きを踏まえて県薬災害対策マニュアルの作成、行政との防災計画についての連携、県薬BCP（事業継続計画）を作成することが報告された。
- (4) 合同祝賀会 1月20日（日）沖縄都ホテル
神村会長より、近年は参加者も増え、例年会場としている都ホテルも手狭になってきている。次年度の会場について、主催側の沖縄県薬業連合会で検討していきたいと報告された。
- (5) 沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会 <資料配布>
1月22日（火）沖縄県後期高齢者医療広域連合
江夏常任理事より、沖縄県後期高齢者医療広域連合は、各市町村の後期高齢者医療に関する医療費の適正化、また後発医薬品の普及率等を分析していること等が報告された。
- (6) 平成24年度アクションプラン推進協議会 <資料配布>
1月22日（火）沖縄レインボーホテル
江夏常任理事より、健康沖縄21（5疾病5事業）の後期事業として、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を掲げている。特に沖縄県はCOPDの死亡率が高いということで社会環境整備等や食生活の改善等の活動に取り込んでいくことが報告された。
- (7) 平成24年度第5回広報委員会 1月22日（火）県薬 <資料配布>
亀谷常任理事より、次回号予定のスポットライト、薬局訪問、研修会報告等が説明され、来期事業計画案について協議したことが報告された。また誌上ギャラリーの投稿写真が同じ会員に偏ってきているため、理事を通して各地区会員への投稿を呼び掛けてほしいとの依頼があった。

- (8) 日薬国際委員会 1月23日(水) 日薬
宮城理事より、平成24年度第1回目の委員会が開催された。委員長等の選出と事業計画、
アニュアルレポート(海外の薬剤師向け日本薬剤師会現況情報)(英語版と日本語版)の内容
の検証等が報告された。
- (9) なごみ会主催県民健康フェア第1回実行委員会 1月24日(木) 沖縄県医師会 <資料配布>
笠原理事より、第3回目となる平成25年度県民健康フェアが平成25年8月18日(日)、
会場が前回と同様にコンベンションセンターに決定したこと等が報告された。
- (10) 日本薬剤師会薬事情報センター実務担当者等研修会 1月25日(金) 日薬 <資料配布>
糸嶺理事より、薬事情報センターの吉田典子氏が参加した。今回から「医薬品情報の一部
に医療安全を含む」との考え方から、「医薬品情報」及び「ヒヤリハット事例の収集解析」
など、医療安全に関する研修会となった。その中のワークショップでは、「ヒヤリハット事
例収集はなぜ進展しないか?問題点の抽出と解決法の提案」について議論された。薬剤師の
医療安全に対する意識が低い。ミスを知られたくない、業務が忙しい等の意見が出されたこ
とが報告された。
- (11) アジア国際シンポジウム 1月26日(土) 海運クラブ(東京都) <資料配布>
糸嶺理事より、薬事情報センターの吉田典子氏が参加した。JADA(日本アンチ・ドー
ピング機構)主催でアジア国際シンポジウムが開催されている。27カ国の医師、薬剤師、
スポーツ団体関係者ら150名の参加があった。今回のテーマは、世界におけるドーピング
防止に関する最新情報の他、治療目的使用に係る除外措置(TUE)及びアンチドーピングプ
ログラム等であった。
- (12) 平成24年度薬局実務実習受入に関する九州山口地区ブロック会議 <資料配布>
1月26日(土) ホテルビアントス(佐賀県)
吉田副会長より、仲真良重氏と参加した。平成25年度のワークショップの開催予定は7
月14・15日に予定されている。沖縄からは5人の参加を予定している等が報告された。
- (13) 2013第1回公認スポーツファーマシスト認定実務講習会 <資料配布>
1月27日(日) 県薬
新垣理事より、参加者数は16名で内8名が非会員。認定実務講習会は今年まで、来年か
らは、eラーニングを利用した講習になる等が報告された。
- (14) 介護老人保健施設 池田苑 創立二十周年記念祝賀会 1月27日(日) あいわクリニック
神村会長より、ご夫婦で当会会員の宮城光吉氏、光江氏が経営する介護老人保健施設の二
十周年記念祝賀会に参加したことが報告された。
- (15) 管理者会議 1月28日(月) 県薬
- (16) 保健福祉委員会 1月30日(水) 県薬 <資料配布>
笠原理事より、委員会議事概要資料に沿って、報告事項、協議事項、平成25年度事業計
画(案)並びに平成24年度事業報告について順次報告された。
- (17) 青年部会役員会 1月30日(水) 県薬
- (18) 第3回 九州山口各県薬代表者会議 1月31日(木) 福岡県薬 <資料配布>
吉田副会長より、従来の日本学校薬剤師会が部会になったことを受けて、その余剰金と
して九州ブロックに130万円振り分けられ、8県に15万円ずつ分配された。また各県薬
から日学薬部会に寄付される1口10万円の件、最近の日薬の動向として、JPALSの登
録が1万人を超えた件、日薬会館契約の件、福岡県が開発し、九州各県薬が登録している求

人求職webシステムの個人情報保護について所管より指摘され改修し、改修費用負担を各県薬にお願いした件、薬学会報の予算増額の件等が報告された。

- (19) 九州ブロック日薬代議員予備会議・懇親会 1月31日(木) 福岡県薬
吉田副会長より、今回の日薬代議員会の九州ブロック代表質問は熊本県薬が担当する。発表内容は日薬会費の一本化について、病院薬剤師への支援と退院時共同指導実施促進について等の案が出され、担当の熊本県薬でまとめていくことが報告された。
- (20) 九州ブロック日薬代議員予備会議・懇親会 1月31日(木) 福岡県薬
- (21) 沖縄県保健医療審議会 1月31日(木) 県庁 <資料配布>
江夏常任理事より、平成25年から29年までの5年間の沖縄県保健医療計画について協議された。この計画は、自殺対策、がん対策推進、高齢者保健福祉、へき地医療等の医療に関わるすべての基礎となっている。薬事関係で当会から要望を出していた文言について追加されたことが報告された。
- (22) 平成24年度沖縄県薬剤師会薬事情報センター運営委員会 <資料配布>
1月31日(木) 県薬
糸嶺理事より、委員会議事資料に沿って平成24年度事業経過報告、実務担当者研修会、アジア国際シンポジウムの報告と平成25年度事業計画案について協議されたことが報告された。
- (23) 役員及び代議員の選挙規程整備に関する第3回打ち合わせ会議 1月31日(木) 県薬
- (24) 第107回健康とおくすり相談会 2月2日(土) 識名老人福祉センター
- (25) 平成24年度第2回各地区薬剤師会会長会議・懇親会 2月2日(土) 県薬<資料配布>
糸嶺理事より、支部活動費の算出方法について協議し財務委員会へ諮問すること、那覇地区薬剤師会より、那覇市が中核市への移行にともない浦添市は南部福祉保健所の管轄になるが、浦添支部は、現状のまま那覇地区薬剤師会に所属して活動を継続したい旨が説明されたこと等が報告された。
- (26) 第127回全国禁煙アドバイザー育成講習会 in Okinawa <資料配布>
2月3日(日) 県薬
笠原理事より、100名程の参加があった。半分程が看護師や養護教員等の他職種であった。3年に1回の更新で、3年前の講習会と変わったところは、禁煙支援基礎コースと禁煙支援アドバンスコースに分かれた講座になっていたこと等が報告された。
- (27) 会計監査 2月4日(月) 県薬
- (28) 自家用電気工作物年次点検(停電) 2月5日(火) 県薬
糸嶺理事より、稲福係長が深夜から朝方にかけて契約専門業者の年次点検に立ち会った。結果、異常なしであったことが報告された。
- (29) 収益事業部運営委員会 2月6日(水) 県薬 <資料配布>
山里常任理事より、パート職員の時給及び人事異動等について協議されたこと、会営薬局うえはら、とよみの収支状況について3月末見込みで算出すると3,000万円程の利益が予想されること等が報告された。
- (30) 第3回在宅医療に関する講習会 3月3日(日) 県薬 <資料配布>
- (31) 郵便等販売実態把握調査及び登録販売者実態把握調査について <資料配布>
- (32) 薬剤師に対する行政処分について <資料配布>
- (33) ご逝去について〔友利賀代氏(会員)、三村悟郎氏(琉大名誉教授)]
神村会長より、友利氏は過去に理事を務め、会の発展に尽力された。三村氏は琉大の名誉

教授で、沖縄県の医薬分業の発展に尽力し、当時、当会が非常にお世話になったことが述べられた。

- (34) 平成24年度事業報告（各委員会、部会）について <資料配布>
※提出締切4月1日（月）

(35) その他

山城理事より、知人が厚労省の食品・医薬品審議会の委員に就任した。何かあればご相談等下さいと述べられた。

吉田副会長より、テレビ会議・研修会システムを検討している。これまでシステムを導入するには、500万円余り必要とされていたが、沖縄パナソニック提供の光回線を利用したwebシステムで、県薬本部、北部、宮古、八重山の4拠点を想定して見積りしたところ設備導入に約200万円、月々の利用料は3千円程で安価となっている。また画像もかなり鮮明である。ぜひ前向きに検討していきたいと説明された。

報告（薬連）

- (1) 参議院議員島尻あい子後援会新春の集い 1月4日（金）自治会館
(2) 自由民主党県連新春の集い 1月7日（月）ロワジュールホテル那覇
(3) 2013公明党沖縄県本部賀詞交換会 1月8日（火）沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ
(4) なかいま弘多後援会常任理事会 1月11日（金）沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ
(5) 衆議院議員比嘉奈津美後援会「新春の集い」 1月19日（土）NBCホール
(6) 平成25年ニシメ恒三郎後援会 新春の集い 1月26日（土）南風原中央公民館
(7) 参議院議員島尻あい子を励ます会 2月1日（金）沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ
(8) 日本薬剤師連盟平成24年度第2回臨時評議員会

2月6日（水）ホテルグランドヒル市ヶ谷

神村会長より、代理で吉田久子幹事長が出席した。今年7月に予定されている参議院議員選挙において福祉分野から推薦されている現職の衛藤晟一氏、（3年前の参議院議員選挙において藤井基之氏の当選に尽力していただいた）また介護分野から推薦されている日薬常務理事の木村隆次氏の2人を日本薬剤師連盟として推薦することが報告された。

議題

- (1) 第78回臨時代議員会の資料（議案第1号）について <資料配布>
糸嶺理事より、臨時代議員会の議案第1号の平成25年度事業計画案について、各理事は読み込んでご意見をいただきたい。まだ提出していない項目の担当理事は、早急に提出するようお願いされた。
- (2) 沖縄県薬剤師会入退会等新様式について <資料配布>
糸嶺理事より、入会申請書をはじめ会員登録変更届等、これまでの各種様式の内容項目を見直し変更した。また新様式7号については、一般社団法人移行に伴い、入会者に対して理事会の入会承諾後、入会承認書を通知することになっているため追加した。以上のことが説明され、了承された。
- (3) 沖縄県薬剤師会部会、委員会等の組織検討について <資料配布>
糸嶺理事より、日薬より日薬基準薬局制度に関して発展的解消を理由に制度を廃止する。各都道府県薬剤師会においては、各々の判断に任せる旨が通知された。それを受けて沖縄県薬剤師会基準薬局制度について執行部より当会協議会に対して、認定期間を1年間延長し認

定制度の存続、基準内容を検討することが諮問された。協議会からの協議結果として、認定期間を1年間延長し、他府県薬剤師会の状況調査及び現在認定を受けている薬局に対してアンケート調査をして検討を重ねていくことになったことが説明され、了承された。

神村会長より、管理薬剤師部会の設立からこれまでの経緯について説明があった。しかし長年に亘り活動がなく、今後も必要性がないと判断し、定款施行規則の第4条から削除したいという事が説明され了承された。

神村会長より、平成25年度1年をかけて組織編成の見直しが必要である。現に保険薬局部会と開局委員会との位置付けが曖昧となっている。本来は、開局部会の中に保険薬局と一般販売業が組織されるべきである。

新垣理事より、開局委員会は、保険薬局部会設立以前から既存していたと聞いている。開局委員会が既存していたのにも関わらず保険薬局部会を設立したのは、なぜなのかお伺いしたい。

神村会長より、当時の当会第一の活動方針は、積極的な医薬分業推進であった。その上で保険薬局部会として活発に活動してほしいという趣旨で必要とされ、立ち上げられた。現在、医薬分業が発展したことで組織の見直しが必要である。各々の意見により検討していきたい。

(4) 支部分けについて ＜資料配布＞

糸嶺理事より、会員薬剤師が存在しなかった理由で定款施行規則に定められている支部分けに含まれていなかった地域に対して、次の支部に追加したいとの説明がなされ、了承された。

小禄支部（安次嶺、奥武山町、大嶺、鏡水、垣花町、末吉町、渡嘉敷村、座間味村、渡名喜村、栗国村、北大東村、南大東村）以上が追加された。

(5) 災害対策委員会を常置委員会とすることについて ＜資料配布＞

糸嶺理事より、前回の理事会で災害対策委員会の立ち上げについて了承された。当委員会を常置委員会として追加設置することについて説明され、了承された。

(6) 理事選出要綱について ＜資料配布＞

糸嶺理事より、平成24年度第8回定例理事会にて決議された理事候補者選出要綱の「会長候補以外の理事候補については、6地区薬剤師会及び各職種部会から各1人を理事候補として推薦することができる」とされている各職種部会について具体的に提示してほしい。また職種部会に当てはまらないと思われる部会でも活発に活動している。部会の全てから選出できるようにすべきではないかとの意見があると説明された。協議の結果、部会の全てから選出できるとし文言を各職種部会から各部会へと改正することが、了承された。

(7) 代議員選挙規程について ＜資料配布＞

山城理事より、代議員に欠員が生じた場合の補欠の代議員選挙について条文を新設することが説明され、了承された。

(8) 会長候補者及び監事選挙規則（案）について ＜資料配布＞

山城理事より、これまでの立候補の届出方法は、立候補者自らが届出する方法と推薦者が候補者の承諾書を添付し推薦する方法の2通りあった。検討したところ届出方法を一つにしたほうがわかりやすく現状に相応しいとの改正案が説明され、了承された。

(9) 平成24年度沖縄県献血推進協議会委員の推薦について ＜資料配布＞

神村会長より、現在の推進委員として吉田久子氏が長年務めてきた。今後若手に引き継いでいきたい。多くの理事がその意見としては、学業担当理事の前濱氏を推薦したいとのことで、本人の承諾を得て、了承された。

平成24年度 第12回定例理事会 議事概要

日時：平成25年3月9日(土) 19:00～10:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：神村武之

副会長：宇野 司、吉田洋史

理 事：江夏京子、亀谷浩昌、山里 勇、姫野耕一、新垣秀幸、下地 仁、宮里 直、糸嶺 達、
山城志津、笠原大吾、宮城敦子、我喜屋美香、前濱朋子、成川賢一（北部地区代理）

監 事：大城桂子、伊敷幸太郎

職 員：仲真良重（会営薬局うえはら薬局長）、島袋陽子（会営薬局とよみ主任薬剤師）、
新城光枝（会営薬局医療センター前 薬局長）、山城英人（係長）、宮城麻希（経理）、
金城みどり（経理）、與那嶺真美（経理）

事務局：大城喜仁

<議事録署名人> 下地 仁

議長である会長の指示により、糸嶺理事が会議進行を司った。

当理事会開催前に年度前期の監事による監査が行われ、監査を終えた大城・伊敷両監事が理事会に出席された。一般会計、収益事業部、薬剤師連盟会計の各部門の監査をお昼から夕方まで行い、特に問題は無かったとの報告がなされた。また、来る3月24日開催の第78回臨時代議員会において審議される事業計画案、予算等について、当理事会で事前の説明が必要であることから、その補足説明に備え、各部署（各会営薬局・事務局）から担当職員が出席した。各部署の職員が当理事会へ出席する機会が年間を通して少ないことから、職員・理事間の質疑応答を踏ったが、特に無く、会議に入った。

今回、会議次第に記述されている事項が多いこと、協議事項に直近の臨時代議員会における審議項目があることにより、報告事項については端的に事業内容の概要説明を担当理事からなされ、協議事項を重視した時間配分で会議は進行された。

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等（2月分）及び病院別院外処方せん発行状況 <資料配布>
- (2) 平成24年度 日本薬剤師会生涯学習担当者全国会議 2月10日（日）日薬<資料配布>
- (3) 日本薬剤師会生涯学習支援システム（JPALS）説明会 <資料配布>
2月11日（月・県薬）、3月1日（金・八重山）2日（宮古）県薬

亀谷学術担当理事より次のとおり報告があった。

日薬はクリニカルラダーレベル5認定の暫定登録期間を平成25年3月末までと定めて同システムの登録を推奨している。薬剤師経験15年、あるいは他の認証機関で認定を受けた方は申請するだけで認定される。ただ、同システムについて、未だ理解できない、なかなか馴染めない、実践することに不安をもっているなどの問い合わせが多いので、日本薬剤師会から生涯学習委員会副委員長の高濱寛先生をお招きし、2月11日、県薬会館ホールにおいて、JPALSについての素朴な疑問の解決方法等のご講演をしていただいた。当日は77名の会員が参加された。

上記開催後、八重山・宮古両地区においても同説明会を開催し、亀谷理事が講師となった。八重山地区8名、宮古地区8名の参加があった。

- (4) 平成24年度薬剤師のための一般用医薬品基礎知識研修会 2月11日(月) 県薬
- (5) 個別指導(2薬局) 2月14・21日(木) 県庁
- (6) 那覇市国民健康保険運営協議会 2月14日(木) 那覇市役所
- (7) 健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」 2月15日(金) 北部会館
- (8) 九州厚生局沖縄事務所より来訪 2月15日(金) 県薬
- (9) 那覇地区薬剤師会 設立総会 2月16日(土) 県薬
- (10) 県内薬局・病院における医療安全等の取り組み状況に関するPMDAから視察訪問
2月16日(土) こくら虹薬局、すこやか薬局知花店、中頭病院
18日(月) コジャ薬局
19日(火) はと薬局
- (11) 医薬品事故・過誤対策委員会主催 平成24年度医療安全講習会 <資料配布>
2月17日(日) 県薬、宮古
18日(月) 八重山

糸嶺理事より、前記報告事項(10)と重ねて次のとおり報告がなされた。

去る2月17日、標記講習会が県薬会館ホールにて開催され、106名の多くの会員の参加があった。本年度は、調剤過誤対策に焦点が絞られ、薬局で実際に行っている過誤対策の紹介、対策を立てるための手法などが発表された。発表はこくら虹薬局とすこやか薬局であった。また、同対策の一助になる機器展示(3社)もあった。独立行政法人医薬品医療機器総合機構(以下、PMDA)からは、医薬品・医療機器の安全性情報収集における「PMDAメディナビ」の活用方法の説明があった。次に薬局におけるリスクマネジメントについて、株式会社琉薬の医薬営業企画部よりヒヤリ・ハット事例分析手法であるRCAについて説明があった。同講習会は、宮古(参加者9名)・八重山(参加者12名)両地区においても開催された。

同講習会の演者として来沖されたPMDAからは、4日間にわたるスケジュールにて沖縄本島、宮古・八重山地区の薬局、病院を訪問し、沖縄県内の薬局・医療機関の薬薬連携、安全性情報の入手方法・活用状況等の視察が行われた。八重山地区での講習会終了後の懇親の場では、八重山地区における医薬品供給についての問題点等(卸会社の設置)について、有意義な情報交換ができたと山城専八重山地区薬剤師会会長から報告があったことも述べられた。

- (12) 学校薬剤師部会役員会 2月17日(日) 県薬 <資料配布>
- (13) 第12回九州地区健康教育研究大会 第一回沖縄県実行委員会
2月18日(月) 南部合同庁舎

学校薬剤師部会代表理事の前濱理事より、前記報告事項(12)と重ねて次のとおり報告がなされた。

部会役員会が開催され、その中で、今年の8月5日から6日にかけて、浦添市てだこホールにて「九州地区健康教育研究大会」が開催される旨の報告があった。これについて、是非多くの方が参加できるよう呼びかけてほしい旨の発言がなされた。

- (14) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 審査委員会
2月18・21日(月・木)・3月4日(月) 社会保険診療報酬支払基金

(15) 平成24年度 財団法人沖縄県看護学術振興財団 第2回理事会

2月19日(火) 沖縄県立看護大学

(16) 平成24年度 第5回薬剤師学術研修委員会

2月19日(火) 県薬 <資料配布>

同委員会委員長の亀谷常任理事より、委員会の平成25年度事業計画が練られ、第27回となる当会の学術大会の開催日程が、11月24日(日)となったことが報告され、関係者各位に周知するよう呼びかけの発言があった。例年とおり11月開催を検討し、近隣施設に問い合わせたが、医師会館が既に第1、第2、第3日曜日に予定が入っているため当該期日となった旨の説明があった。また、部会、地区、委員会から積極的な演題提出がなされるよう呼びかけられた。

(17) 平成24年度 第4回医薬分業対策委員会

2月19日(火) 県薬

<資料配布>

同委員会の江夏常任理事より、3月10日に開催されるFAXコーナー担当者意見交換会について話し合われたことが報告された。県内12カ所(那覇4カ所、中部1カ所、南部3カ所、宮古1カ所、八重山1カ所)のFAXコーナーより担当役員と職員2名までを参加させ、懇談も兼ねている。患者からの意見や苦情、FAXコーナーからの働きかけで解決した事例などを共有するため事前アンケートをとっている。このアンケートの結果報告をもとに情報交換を行う予定である。

(18) 平成24年度 第5回開局委員会

2月21日(木) 県薬

<資料配布>

(19) 会計監査

2月22日(金) 県薬

(20) 第3回九山地区調整機構会議

2月22日(金) 博多都ホテル

<資料配布>

同会議は主に薬学生実務実習に関するものとなっている。薬学生実務実習受入委員会の仲真委員長が当理事会に出席していることから報告いただいた。実務実習に関しての報告、トラブル事項、調整結果、ワークショップの事業報告並びに計画などが話し合われた。ワークショップは継続で開催されることになっており、他県に比べ沖縄県は毎年多くの先生方が参加している。ふるさと実習も継続で検討されている。

(21) 日本薬剤師会 第80回臨時総会

2月23・24日(土・日) ホテルイースト21 <資料配布>

同総会には神村会長と吉田副会長が出席。神村会長より次のとおり報告がなされた。

毎回熱の入った会となるが、今回も活発な質疑応答がなされた。特に議案事項である会費額と会館建設の両案件については、当理事会においても度々報告してきたが、同総会においては特に時間を割いたものとなり、今後も検討していくことが山積みである。また、重要事項の経過報告として、一般用医薬品販売制度、JPALS、日薬120周年記念事業、薬剤師の将来ビジョンについて等が報告された。他に、学校薬剤師部会に存在する日薬非会員から会費徴収はなされているのかという件、朝日新聞掲載「経済気象台“調剤薬局は花盛り”」の一方的な解釈に基づく薬局批判の記事が、一般読者の誤解を招く内容が認められるため、朝日新聞社に反論文を送付した件等、同会場が喧々囂々となる光景が多々あった。

(22) 平成24年度診療ガイドライン薬剤コース・スクーリング

2月24日(日) 県薬 <資料配布>

(23) 平成24年度沖縄県献血推進協議会

2月25日(月) 県庁

(24) 応能会費についての会長諮問委員会

2月25日(月) 県薬 <資料配布>

同委員会にオブザーバーとして参加した吉田副会長から次のとおり報告がなされた。

一般社団法人移行後の会員規程及び会費規程に定められているとおり、平成25年度から

は薬局は賛助会員となり、応能会費は賛助会員B会費になる。これに関して、①応能会費の明確な使途、②応能会費取り扱い要項、③賛助会員B会費の義務化、について同委員会より会長へ回答を求めた。①について、県薬事業のほとんどが医薬分業に関する事業となっているため応能会費の経費割合を示すことが難しいと回答があったことに対して、同回答では応能会費を払っている薬局が納得できるか懸念されると委員から発言があった。②について、応能会費取り扱い要項の内容が10年以上変わっておらず、現状に即さない箇所もあることから、応能会費が賛助会員B会費となることを機会に、内容の検討をするべきであることが促された。これについては、既に今年度の総会にて可決済みの一般社団法人移行後の会費規程において明記されていることから、改めて変更することはないということになった。処方せん受け付け回数1回につき9円についても事業に必要とするならば現状どおり、支払額の上限額も現状どおり48万円となった。③については、同会費規程第9条第2項に「正会員Aが在籍する薬局は、賛助会費Bとして入会するものとする。」というように義務化されることに対して、実際、会費を払わない薬局に所属する正会員Aの身分におよぶのではないかと、または除名・退会とするのか等、今後の会運営に影響が出てこないか懸念されることから、義務化ではなく努力事項にする条文にしてはどうかという提案があった。これについては、賛助会員B会費が会を健全に事業運営するためには必要であること、また、条文で拘束することで薬局間の平等性を維持できることから、同会費規程どおりとすることになった。

- (25) 日薬会費の徴収方法についての打合せ会議 2月25日(月) 県薬
- (26) 第2回沖縄県精神疾患対策検討会 2月26日(火) 県庁 <資料配布>
- (27) 沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式 2月26日(火) 琉球新報社 <資料配布>
- (28) 沖縄県自然環境保全審議会 2月26日(火) 県庁 <資料配布>
- (29) 保健福祉委員会 2月26日(火) 県薬 <資料配布>
- (30) 会報取材 2月28日(木) ルーナ薬局
- (31) 沖縄県医療審議会及び法人部会 2月28日(木) 県庁
同会の委員となっている神村会長より、救急医療のベッド数が少ないことが問題視されていたが、未だベッド数が増やせていない状況で、ベッドの増床が望まれている。現在、3病院42床が設置予定と報告された。
- (32) 開局委員会主催 第4回スキルアップ研修会 2月28日(木) 県薬 <資料配布>
開局委員会委員長である新垣理事より、39名の参加があったこと、次回は北陸大学薬学部長の三浦雅一氏をお招きし「骨粗鬆症を理解するための基礎知識」の演題で3月17日に開催することが述べられた。
- (33) 第3回 在宅医療に関する講習会 3月3日(日) 県薬 <資料配布>
同講習会を主催する保健福祉委員会委員長の笠原理事より、参加者は会員が78名、非会員11名、他職種6名の計95名の参加があったこと、鹿児島県薬剤師会理事の沼田真由美氏をお招きし、他職種連携の中での薬剤師の役割りについての基調講演があったこと等の報告がなされた。
- (34) 財務委員会 3月4日(月) 県薬
- (35) 平成24年度 第4回医薬品事故・過誤対策委員会 3月4日(月) 県薬
- (36) 日本薬剤師会 地域・在宅医療委員会 3月4日(月) 日薬
- (37) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 3月6日(水) 社会保険診療報酬支払基金
- (38) なごみ会主催県民健康フェア実行委員会 (H25.8.18開催) 3月6日(水) 沖縄県医師会

(39) 平成24年度「健康づくり支援事業」第2回推進委員会

3月7日(木) 沖縄県総合福祉センター

(40) 平成24年度 第5回選挙管理委員会

3月7日(木) 県薬

(41) 沖縄県薬物乱用防止協会理事会

3月8日(金) ホテル美ら琉球

(42) 平成24年度 医薬分業指導者協議会

3月28日(木) 厚生労働省 <資料配布>

同協議会が来る3月28日に厚生労働省にて開催されることになっており、医薬分業対策委員会から池間記世委員長と同委員会委員である江夏常任理事が出席する。同協議会の会議事項は配布資料のとおり、「日本薬剤師会の活動と今後の展望」、「最近の薬事行政の話題」、「地域医療における薬剤師の取り組みについて」で、どの事項とも在宅医療に関するものとなっている。

(43) その他

報告(薬連)

(1) 第23回参議院議員選挙「羽生田たかし先生激励会」

2月20日(水) ロワジールホテル那覇

(2) 翁長政俊後援会 議会報告会と新春の集い

2月26日(火) 沖縄ハーバービューホテル

(3) その他

議題

(1) 第78回臨時代議員会に提案する議案資料について

<資料配布>

式次第、代議員名簿

<議案>

第1号 平成25年度事業計画案の件

第2号 平成25年度会費額に関する件

第3号 平成25年度歳入歳出予算案の件

第4号 事業計画の範囲における予算の補正についての
権限を理事会に委任する件

第5号 平成25年度借入金最高限度額承認の件

第6号 一般社団法人移行に係る社団法人

沖縄県薬剤師会定款及び諸規程について

第7号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則

一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則施行細則

一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員選挙規程について

第8号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙について

当該代議員会に配布される式次第、代議員名簿、各議案の資料について審議が行われた。式次第については、提示されている案のとおり執り行われることで了承された。

各担当理事、委員長により提示されている議案第1号事業計画(案)については、大項目「1. 医薬分業の推進とかかりつけ薬局の普及啓発」の中の「(2) 在宅医療への薬局の参画」に記載されている文言、「サポート薬局」を「会員薬局」に変更できないかと神村会長から提案があった。これについては、広く、会員が、会営薬局うえはらに整備予定の無菌調剤設備を活用できるようにとのことで、異議無く承認された。他に疑問、訂正案等があれば事務

局へ後日連絡するよう呼びかけられた。

議案第2号会費額に関する件については、山里財務担当理事より配布資料に沿って説明がなされた。日本薬剤師会の会費納入方法の変更に伴い、正会員Bの会費内訳（県薬会費＋日薬会費）が変わることに対する質疑が出ると予想される。当該議論となりうる事項は、B会費内訳の日薬会費が従来9,000円から7,000円に引き下げるが、県薬会費は30,600円から32,600円と2,000円値上げになることである（年額は変わらず39,600円）。昨年度（平成23年度）と次年度（平成25年度）の会費徴収額比較表（資料配布）では、昨年度と新方式の会費徴収額の差額は70万円の負である。これは日薬会費が2,000円値下げになったにもかかわらず日薬負担金の算出方法が変わったため、日薬負担金が大幅に上がることによる。代議員会にB会費の県薬会費実質2,000円値上げ（年額は39,600円のまま）で提案したいことを諮った。これについては、結局、県薬へ支払う会費年額（B会費）が39,600円と変わらないこともあり、前記事由で代議員会に提案することで同意を得た。

第3号の平成25年度歳入歳出予算案の件について、山里財務担当理事より項目毎に詳細説明がなされた。積算された予算額について特に異議は無かった。当理事会においては同提案資料が従来積算書で示されているが、代議員会での資料は沖縄県に提出する予算書（本来の様式）にて提示することが告げられた。しかし、県へ提出の当該予算書は非常に分かりづらいこともあり、見慣れて分かり易い従来の予算書も添付することが述べられた。

議案第4号事業計画の範囲における予算の補正についての権限を理事会に委任する件と、議案第5号平成25年度借入金最高限度額承認の件については、毎年、同代議員会に諮ってきた事項であり、今年も同様に提案することで同意を得た。

議案第6号については、一般社団法人への設立の登記の前日をもって、①社団法人沖縄県薬剤師会定款、②社団法人沖縄県薬剤師会定款施行細則、③社団法人沖縄県薬剤師会選挙管理規程を廃止する議案となっている。一般社団法人移行に伴う事由ということで同代議員会に提案することで同意を得た。

議案第7号は、①一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則、②一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則施行細則、③一般社団法人沖縄県薬剤師会代議員選挙規程について、いずれも現時点で案の状態であるため同代議員会にて施行して良いか、制定日を同代議員会開催日として良いか等を諮ることになっている。

議案第8号一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙については、議案7号で制定される同選挙規則・規則施行細則に則って選挙が行われる。本日3月9日午後5時をもって当該候補者の届出を締め切った。会長候補者に大橋得二氏と現会長の神村武之氏、監事に現監事の大城桂子氏と伊敷幸太郎氏が立候補してきている。会長候補者に関しては実質上の選挙となる。議案7号に続き、同代議員会にて選挙管理委員会委員長の野崎真敏氏から選挙方法について説明をし、議長と共に当該選挙は執行される。これについても特に異議無く承諾された。

(2) 財務委員会からの協議事項

① 役員報酬規程について

＜資料配布＞

山里財務担当理事より、配布資料に沿って説明がなされた。会長、副会長、常任理事以外の各理事の責任が重くなるため各理事への報酬が支払われること等が述べられた。

特に異議無く了承された。

② 会営薬局の公用車購入について

＜資料配布＞

収益事業部（特に会営薬局とよみ）の収益が良いことから、両会営薬局（会営薬局とよみと会営薬局うえはら）専用の公用車を購入したい。今まで職員個人の車で配達等が行われていたこともあり、問題となるケースもあった。配布資料のとおり車両見積もりが提示されている。

特に異議無く了承された。

この件とは別になるが、遠隔テレビ会議システムの導入も検討されている。

③ 特別手当の支給について

＜資料配布＞

前記にもあるとおり、収益が良い状態であるので、職員への特別手当の支給が、財務委員会で検討され、配布資料に示されている3つの案から支給したい旨の発言が山里財務担当理事よりあった。この3つの案のうち、①が前年と同じ支給方法であることが告げられ、この方法で支給することに異議無く了承された。

(3) 一般社団法人定款について

＜資料配布＞

主務官庁（沖縄県総務私学課及び薬務疾病対策課）より配布資料のとおり、一般社団法人定款（案）の訂正が求められた。求められたとおりに訂正することで了承を得た。

(4) 予備代議員の選出について

＜資料配布＞

予備代議員が各選挙区から選出されてきている。まだ選出していない選挙区は、5月理事会までに選出するよう呼びかけられた。

(5) 一般社団法人移行記念行事（総会特別講演会 等）について

5月開催の一般社団法人移行最初の総会において、特別講演会等を開催してはどうかとの提案について議論がなされた。代議員制総会であることをふまえ、代議員以外の会員を多く参加させることに異論があるとして、同総会ではなく他の行事もしくは特別の機会を設けて行った方が良いとの意見も出た。この意見に賛成とする理事が多かったことにより、当該協議事項については見送りとなった。

(6) 第75回九州山口薬学大会表彰等の推薦について

＜資料配布＞

今年開催の標記大会表彰について、大会本部から推薦依頼が届いており、その候補者として3氏が挙げられた。神村会長から山城志津氏を推薦する旨の発言があり、他理事からも多くの賛成意見が出たため、承諾していただいた。

(7) その他

転載記事

沖縄県体育協会「海邦スポーツ第57号（平成24年12月）」より

国体に沖縄県でははじめての薬剤師として帯同させていただきました — ぎふ清流国体へのスポーツファーマシスト帯同記 —



(社) 沖縄県薬剤師会

理事 笠原大吾

(JADA認定スポーツファーマシスト)

今回、沖縄県でははじめてになる、薬剤師としての国体への帯同を経験させていただきました。出発に先立つ県選手団結団式において、選手等が使用している薬物についての問い合わせ窓口のご紹介、帯同中(9月28日～10月4日)は開会式の前日のドクターズミーティング(懇親会含む)への出席、各競技の激励の傍ら選手等の薬の使用に関して、禁止薬物の情報提供を含めた助言の活動等を通して、薬剤師(スポーツファーマシスト)のお手伝いできることを考える貴重な機会を与えていただきましたのでご報告いたします。

きっかけは、8月下旬に県体育協会に、県薬剤師会として電話でアポイントを取り、スポーツファーマシストとしてのドーピングについての日頃の活動を報告し、競技者に、薬剤師が何かお役にたてないかを申し入れたことです。その際には、こちらからのいきなりの話であり、まさか帯同とまでは思いもよりませんでした。しかし、9月になってから県薬剤師会に、同協会より帯同について可能かどうかの打診をいただき、国体開催中に時間が取れる自分が、その大役を務めることとなりました。出発前にあわただしく、他県のスポーツファーマシストの方にどんなことをしたらよいかのアドバイスをもらって参加いたしました。今まで沖縄県では、スポーツドクターならびにアスレティックトレーナーの帯同はありましたが、薬剤師のそれはありませんでした。ドーピングは、故意に薬物等を使用することばかりでなく、むしろ禁止薬物を知らずに使用してしまう“うっかりドーピング”に気を付けなければなりません。情報提供がどれだけ正確かつ迅速にできるかがスポーツファーマシストとしてのわれわれの役割と考え、帯同中は質問に対して沖縄にいるスポーツファーマシストメンバーが24時間対応する体制で臨みました。先日、ぎふ清流国体全体におけるドーピングの陽性検体はゼロであったことが公表され、ほっとしております。

今後も、ドーピングに関する競技者の意識を高めるための啓発活動やわかりやすい禁止薬物の一覧など、われわれ薬剤師が沖縄県の選手のお役にたてることも多々あると存じます。この経験を生かして縁の下の力持ちとして選手の支援に貢献できればと思っております。最後になりましたが、このような機会を与えていただきました関係各位に深謝して、スポーツファーマシストによる帯同記といたします。

※発行元(編集出版社)のご許可を得て転載しています。

転載記事

会員の佐藤雅美氏が紹介されていました。

2013
2/28
3/6

週刊 ほ〜むらざ

毎週木曜発行

女性のためのライフアップ情報紙

第1339号



表紙撮影/高野生優 (フォトアートたかの)

彩職賢美

株式会社すこやかホールディングス
常務取締役

佐藤 雅美さん

県内に28店舗を構える「すこやか薬局」などを経営する株式会社すこやかホールディングスの常務取締役として、人事・採用や教育研修に携わる佐藤雅美さん。これからの薬剤師はもっとお客さんと向き合って、健康相談をするなど活躍の場を広げなくてはと、人材育成や利用者が気軽に来店できる居心地のいい空間づくりなど、環境整備に力を入れている。その一環として、同社で初となるカフェ風の店舗デザインを取り入れ、アロマやコーヒーなどのオリジナル商品の開発も手掛ける。

薬剤師をもっと身近に

第4週テーマ

CONTENTS 賢く暮らす

- 18 19 おしゃれ変身道? IN&OUT
毎日の意識で理想に近づく
- 03 じんぶん見聞/ウォーターピュア・大嶺光雄さん
災害・アウトドアに 安全な飲み水
- 21 もしもの備え/正しく知ろう! 津波警報・津波注意報
「巨大」は非常事態!
- 33 ペット生活/真栄田圭太さんと金松
草刈り担当の人気カメ店員

発行 株式会社タイムス住宅新聞社
〒904-2234 沖縄県うるま市州崎7-14 ☎098-934-1122(代)
☎098-934-2295(編集部) FAX098-934-6677
http://www.jpresse.co.jp E-mail home@jpresse.co.jp

検索するなら ▶ ほ〜むらざ 検索

沖縄タイムス 本紙は「沖縄タイムス」とセットで配達される副読紙です。購読の申し込みは上記の電話へ。



佐藤さん(中央)がデザインした「すこやか薬局沖赤店」の店内。この店舗以後、同社では「高齢者にやさしい」などコンセプトを持った店舗が作られるようになったという

「長く続けていくためにも働きやすい環境を」「来店してよかったと思われたい」と場をつくりたい

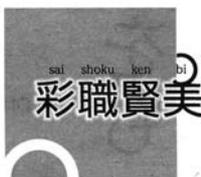
1997年に㈱薬正堂に入社し、薬剤師として勤務。2004年に㈱すこやかホールディングスの常務取締役役に就任し、薬剤師の人事・採用、教育研修などに携わっている。同社で初めての女性の役員であり、現場の薬剤師が役員になるのも同社では初のこと。「自分の仕事は組織の裏方。社員が働きやすく、やりがい

さまざまな研修を行い、スキルアップを図っている。こうした取り組みを続けるためには社員が長く働くことができる環境づくりが大事。薬剤師には女性が多く、子育てしながら働いている人も多い。沖縄県は人口あたりの薬剤師の数が全国で2番目に少なく、業務が過密でなかなか休みが取りづらいという。佐藤さんは取締役役に就任後、現場にいた経験と女性としての立場からスタッフひとり一人のさまざまな事情に配慮してシフトを組んだ。それからは社内で働きやすい環境をつくらうという意識が芽生えたという。

居心地のいい空間づくり

PROFILE さとう・まさみ

1963年、宮古島市出身。87年に第一薬科大学を卒業後、薬剤師として県内外の病院・調剤薬局に勤務。97年に㈱薬正堂に入社。2004年に㈱すこやかホールディングスの常務取締役役に就任。薬剤師の採用・人事、薬局スタッフの教育研修、医薬品の仕入れ、PB(プライベートブランド)商品の開発などに携わる。



社員の採用に関しては、薬剤師としてのスキルはもちろん、コミュニケーション能力

も重視。面接では時には一緒に昼食を取りながら話をするなど、じっくり時間をかけてその人の人柄をみるという。従来の調剤薬局は処方箋に基づいた薬を求める利用者が中心だが、これからはもっと気軽に健康相談だけでも来店できるようにと、居心地のいい店舗空間づくりにも力を入れている。

2010年には、那覇市の沖繩赤十字病院のそばに同社で23店舗目となる「すこやか薬局沖赤店」をオープン。佐藤さんの提案でカフェのような雰囲気になった。店舗のデザインは佐藤さんが中心となって手掛けた。店内は明るく温かな雰囲気、カウンターでお茶やコーヒーを飲みながらゆったりとくつろ



沖赤店の外観。カフェ風のおしゃれなデザインで、土地面積18・8坪の狭い敷地をうまく活用した

■ところで…+α

店頭で販売しているアロマやコーヒーは「癒やし」をテーマに作ったオリジナル商品。コーヒーに関しては自身もコーヒー好きで、パッケージも自社でデザインしたとか。サプリメントは薬局7社合同で開発した商品。

見ていてわくわくするものを置きたいという佐藤さん。趣味は旅行で、特にイタリアが好きだそう。旅先でも商品としてお店に置けるものはないか常にアンテナを張りめぐらしている。

今後の抱負について「この人とお話したい」、「そこに行きたい」と、お客さんがすこやか薬局に来てよかったと思えるような人と場をつくりたい」と語った。(池原拓)

※編集出版社のご許可を得て転載しています。

転載記事

平成25年4月6日(土) 沖縄タイムス

皆保険崩れ 医療格差も

TPP 地方の岐路

—— 県経済への影響

誰でもいつでもどこでも、低額で医療を受けられる「国民皆保険」が崩れ、医療費は全額自己負担。負担額を減らすには民間保険に加入する必要があるが、所得により保障内容は天地の差。地元の病院で受診したくても保険のランクが低いと断られ、遠方の病院まで行かざるを得ない。

医の安心

公的保険がないという深刻な将来像は、復帰前の沖縄と同じだ。遺伝性の高血圧症を患い毎月通院している浦添市の亀島靖さん(69)は「家族が病気になるのが傾く、とよく言われていた」と振り返る。中学、高校時代には、家族に重病人が出たために休退学して働きに出る同級生がいたという。「医療が市場化されれば治療格差が広がる。そんな時代が再び来るのかと思うと不安」と心配する。米国は長年日本に、公的保険適用の診療と適用外の自費診療を併用する「混合診療」や病院経営への株式会社参入を解禁するよう求めてきた。照屋理事は「TPP参加交渉でこれらを認めてしまえば、世界に誇る日本の平等、安心な医療制度が崩壊する『一里塚』になる」と警戒する。

ジェネリック薬にも影響



患者を診察する医師。TPP参加は、日本の公的医療保険制度に大きな影響を与える。5日、浦添市・かしまやクリニック

提訴できる「紛争解決条項」が盛り込まれていることだ。照屋理事によると、提訴対象には自治体も含まれる可能性があるが「離島、難病など不採算医療を担う公立病院や、子どもの入院、通院費を助成する県や市町村の制度まで『役所が自由競争を妨げている』とやり玉に挙げかねない」と話す。

県民への影響は、医薬分野でも見込まれる。TPP交渉で知的財産権の保護が強化された場合、米国の製薬企業が自社の特許期間を意図的に延長して高い医薬品を供給しやすく、品質の変わらない特許切れ後の安い後発薬「ジェネリック医薬品」の販売を阻む恐れがあるからだ。

ジェネリック医薬品の県内の使用率は42%で、全国の都道府県で最も高い。普及に努めてきた県薬剤師会の神村武之会長(65)は「県民所得が低い沖縄で、患者が費用を節約しながら良質な医療を受けるには、ジェネリック医薬品の役割が大きい」と話す。

安倍晋三首相の「国民皆保険は絶対に守る」という発言もあり、TPPが医療に及ぼす影響に対し県民の関心はまだ薄いが、神村会長は「首相発言の保証はどこにもない。公的薬価制度を含め、国民皆保険は今や県民にとって空気や水のような存在。崩れば、地域医療への波及は計り知れない」。県医師会、県歯科医師会とともに交渉参加に断固反対している。(社会部・新里健) 〓おわり (25面に関連)

転載記事

平成25年2月4日(月) 沖縄タイムス

「残薬確認を受けた」24%

製薬が実態調査 薬剤師91%「確認した」

在宅患者の飲み忘れなどで無駄になつている薬剤費は年間約500億円にも上るといわれる。これを改善して医療費削減につなげようと、2012年度の診療報酬改定で薬剤師による「残薬の確認」が新たな算定要件として盛り込まれたが、制度導入から半年余りの間に「確認を受けた」と認識している患者はわずか24%にとどまる。製薬企業ファイザーの実態調査で分かった。

昨年10月、生活習慣病の患者300人、医師、薬剤師各100人の計500人を対象にインターネットを通じて聞いた。

患者に対し薬を飲みきれずに余らせているか質問したところ「よくある」と答えた人が4・3%、

「たまにある」が26・0%で、合わせて30・3%が実際に余らせた経験を持つていた。

さらに、残薬確認が導入された昨年4月以降、薬剤師から確認を受けたことがあるか尋ねると「十分確認された」が5・0%、「ある程度確認された」が19・0%で、計24%しか確認されたという認識がないことが判明。飲み残しの背景に、不十分な残薬確認があることがうかがわれた。

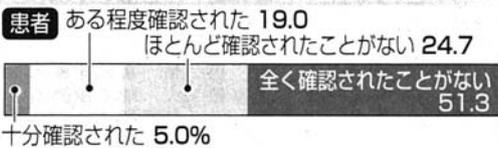
一方、薬剤師に患者への確認を行っているか聞くと「十分確認」15・0%、「ある程度確認」76・0%で、計91・0%が確認していると回答。患者と薬剤師の認識に大きなギャップが存在した。

認識にギャップ

結果について慶応大薬学部福島紀子教授(社会薬学)は「薬剤師が確認を行っても、それが患者に伝わっていないということだろう。医療従事者が患者目線で言葉を選び、耳を傾けることで、初めて(患者に)説明をしっかりと理解しようという姿勢が生まれる。患者とのコミュニケーションを密にすることが大切だ」と指摘している。

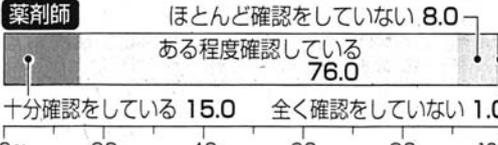
処方薬の飲み残しに関する実態調査

昨年4月以降、残薬状況について薬剤師から確認されたか



十分確認された 5.0%

患者に対し残薬状況を確認しているか



0% 20 40 60 80 100

転載記事

平成25年3月22日(金) 琉球新報

在宅医療に必要な医師、看護師、介護士らの連携について意見を交わす研修会＝6日、沖縄市のNBC



在宅医療連携強化を

中部地区 医師、看護師ら意見交換

沖縄市

【沖縄】在宅医療や、みどりについて考
える中部地区在宅医療ネットワーク研修会
(中部地区医師会主催)が6日、沖縄市胡
屋の結婚式場NBCであった。参加した医
師らが在宅医療の充実に向けた連携の強化
に向けて意見を交わした。

厚生労働省の補助を受
けた在宅医療連携拠点事
業の一環。医師や看護
師、薬剤師、介護士、ソ
ーシャルワーカー、ケア
マネジャーらが意見交換
を通じて、在宅医療に不
可欠なネットワークの形
成・強化を図るために開
催した。

昨年11月、高齢の父親
を自宅でみとった島達巴
さんが体験を発表。「医
師の説明、家に帰りたい
という父の希望を受け、
在宅でみとることを決め
た」と説明。父の介護を
通じて「家族が頻りに集
まるようになり、日常生
活と父の介護との balan
スが取れるようになった
」と述べた。

島さんは「主治医や看
護師、介護士との連携で
病院と同様の医療を受け
ることができた」と振り
返り「充実した在宅医療
で満足して父をみとるこ
とができた」と語った。
意見交換では参加者が
グループに分かれ、在宅
医療に求められる連携に
ついて意見を交わした。

平成25年4月6日(土) 沖縄タイムス

12年度ジェネリック切り替え調査

沖縄軽減額が全国一

全国健康保険協会(協会けんぽ)は、
2012年度に治療薬を新薬から安価
な後発薬「ジェネリック医薬品」に切
り替えた県民の医薬品費の軽減額が、
47都道府県で最も多かったとの調査結
果をまとめた。09年度から続く4回目
の調査で沖縄が全国一になったのは3
度目。政府が参加表明したTPP(環
太平洋連携協定)交渉の行方によつて
は後発薬が手に入りにくくなる可能性
があり、協会は「患者の家計を直撃す
る恐れがある」と影響を懸念している。
(6面に関連)

「TPPで家計直撃も」

2646人の医薬品費の軽減額をレセ
プトで比べた。
切り替えた県民1人当たりの軽減額
は1619円で北海道1528円、岩
手1456円と続いた。全国平均は1
290円だった。切り替え率も県内が
29・2%と全国一高く、安価な後発薬
を進んで使う傾向がみられた。
一方、TPP交渉で知的財産権の保
護が強化された場合、米国の製薬企業
が自社の持つ医薬品の特許期間を意図
的に延長し、特許期間が切れて安くな
ったジェネリック医薬品の販売を阻む
恐れがある。
協会けんぽ沖縄支部は「TPPに参
加すれば、県民の財布に直接響く事態
になる。公的医療保険制度への影響も
避けられない」と心配する。(新里健)

転載記事

平成25年3月22日(金) 沖縄タイムス

精神・在宅医療柱に

県審議会5年計画承認

県医療審議会は21日、2017年度までの5年間の保健医療計画を承認した。新たに精神疾患と在宅医療の両分野を施策の柱に据えたのが特徴で、人口10万人当たりの自殺死亡率を現状から5・2割減らし、22・0%を目指す数値目標を盛り込んだ。

高齢者に急増している認知症対策では、現在はない専門の医療センターを2カ所以上指定し、サポート医を6人増の16人にする目標を掲げた。

在宅医療では、患者が望む場所で見られる支援体制を強化。自宅や老人ホームでの死亡割合を2・1割増の16・1%と設定した。支援診療所と訪問看護ステーションを増やすとしたが、財源を伴うため、数値目標は示さなかった。

平成25年1月22日(火) 沖縄タイムス

県薬剤師会の Oさんに感謝

大嶺 よし子 68歳

昨年12月12日の午後4時半ごろ、沖縄タイムス社のNさんから突然お電話をいただき驚きました。Nさんの説明はこうでした。

「実は沖縄県薬剤師会のOさんが10月25日に掲載されたあなたの投稿文『お薬手帳で健康の管理を』をぜひ広報誌に載せたい、とお電話をいただいたのですが、ご本人の了解を得ないといけませんので。そして10分ほどしてOさんから私に直接お電話がきました。

をしていましたのでその経験から自分が思ったことを書いただけに。私のつたない文章を掲載してくださるなんてと思い喜んで了解しました。

12月27日にOさんからメール便で「おきなわ薬剤師会報」と書かれた厚い本が届きました。

当初、私は薄い冊子だと想像していましたが、本を受け取って驚きました。A4判で127ページもあり裏表紙には会員作品の誌上ギャラリーで「石垣島の珊瑚礁」などの写真もあり、すばらしい広報誌です。Oさんありがとうございました。

(豊見城市、主婦)

行政通達

手数料の改正について

(薬事法、大麻取締法、覚せい剤取締法、麻薬向精神薬取締法、毒物劇物取締法)

標記について、沖縄県福祉保健部薬務疾病対策課より、平成25年4月1日から、薬局開設許可申請手数料、麻薬施用者免許申請、毒物劇物取扱者試験手数料など、一部の手数料が変わる旨の通達がありました。会員への周知をお願いする旨の通達となっております。

(薬事法にかかる手数料改正一覧)

使用料・手数料名	細区分	沖縄県 現行単価 円	沖縄県 改正案単価 円
薬局開設許可申請手数料		29,000	29,200
薬局開設許可更新申請手数料		11,000	11,300
医薬品販売業許可申請手数料		29,000	29,200
医薬品販売業許可更新申請手数料		11,000	11,300
配置販売従事者身分証明書書換え交付手数料		2,000	2,100
販売従事登録証書き換え交付手数料		2,000	2,100
高度管理医療機器等の販売業又は賃貸業許可申請手数料		29,000	29,200
高度管理医療機器等の販売業又は賃貸業許可更新申請手数料		11,000	11,300
薬局開設許可証、医薬品販売業許可証、高度管理医療機器等の販売業若しくは賃貸業の許可証又は医薬品の販売先等変更許可証の書換え交付手数料		2,000	2,100
医薬品、医薬部外品、化粧品又は医療機器の製造業の許可申請手数料	工 薬局製造販売医薬品に係るもの	11,000	11,200
医薬品、医薬部外品、化粧品又は医療機器の製造業許可更新申請手数料	工 薬局製造販売医薬品に係るもの	5,600	5,800
医療機器修理業許可申請手数料		69,400	70,700
医療機器修理業許可更新申請手数料		47,600	48,500
医療機器修理業の修理区分の変更又は追加許可申請手数料		17,500	17,800
医薬品、医薬部外品、化粧品又は医療機器の製造販売業許可証の書換え交付手数料		2,000	2,100
医薬品、医薬部外品、化粧品若しくは医療機器の製造業又は医療機器の修理業の許可証の書換え交付手数料		2,000	2,100

(使用料及び手数料改正一覧)

		使用料・手数料名	沖縄県 現行単価 円	沖縄県 改正案単価 円
麻薬申請関係	申請 手数料 免許	麻薬卸売業者	14,600	14,800
		麻薬小売業者 麻薬施用者 麻薬管理者 麻薬研究者	3,900	4,000
		精神薬卸売業者	14,600	14,800
		向精神薬小売業者	3,900	4,000
	免 再許 交証 付及 手 数 登 録 証	麻薬卸売業者 麻薬小売業者 麻薬施用者 麻薬管理者 麻薬研究者 向精神薬卸売業者 向精神薬小売業者 向精神薬試験研究施設設置者	2,700	2,800
	向精神薬研究施設設置者登録申請手数料	3,900	4,000	
大麻関係		大麻取扱者免許申請手数料	6,700	6,800
		大麻取扱者免許登録変更手数料	3,200	3,300
		大麻取扱者免許証再交付手数料	2,700	2,800
覚せい剤関係	手 数 料 指 定 申 請	覚せい剤施用機関 覚せい剤研究者 覚せい剤原料研究者	3,900	4,000
	再 数 交 付 指 定 証 手	覚せい剤施用機関 覚せい剤研究者 覚せい剤原料取扱者 覚せい剤原料研究者	2,700	2,800
		覚せい剤原料取扱者の指定申請手数料	11,500	11,700
毒物または劇物関係	販 売 業	登録申請手数料※	14,700	15,000
		登録更新申請手数料※	6,400	6,500
		毒物劇物取扱者試験手数料	10,500	10,700
	輸 製 入 造 業	登録申請手数料	27,200	27,700
		登録更新申請手数料	10,200	10,400

※那覇市内に関しては、那覇市にお問い合わせ下さい。

平成25年2月

- 1 金○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏
- 2 土○第107回健康とおくすり相談会 識名老人福祉センター
 - 平成24年度第2回各地区薬剤師会会長会議 県薬研修室
- 3 日○第127回全国禁煙アドバイザー育成講習会 in Okinawa 県薬全館
 - 糖尿病チーム医療ワークショップ in 沖縄 第1回講演会・シンポジウム 沖縄コンベンションセンター 共催：医療法人湘南会湘南病院
- 4 月○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城・與那嶺
- 5 火○糖尿病フォーラム in 沖縄 沖縄県医師会 共催：(株)三和化学研究所
- 6 水○収益事業部運営委員会 県薬会議室
 - 平成24年度医療安全講演会に関する打合せ会議 県薬研修室 (株)琉薬・新垣氏、糸嶺理事、大城係長
 - 第11回定例幹事会 県薬会議室
- 7 木○個別指導(2薬局) 県庁 社会保険医療担当：仲真良重氏
 - 一般社団法人移行に伴う総務私学課との面談 県庁 吉田副会長、前原新公益法人制度改革委員会委員長、仲程みちの税理士、事務局山城係長・宮城
 - 沖縄IBD講演会 ラグナガーデンホテル 共催：杏林製薬(株)
- 8 金○第4回 前立腺肥大症研究会 沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ 共催：グラクソ・スミスクライン(株)
 - 基準薬局制度運営協議会 県薬会議室
 - 保険薬局部会役員会 県薬部会室
- 9 土○会報取材 ふく薬局名護店 亀谷・前濱・池間(広報委員会)、大城係長
 - 第11回定例理事会 県薬研修室
- 10 日○平成24年度日本薬剤師会生涯学習担当者全国会議 日本薬剤師会 亀谷常任理事
- 11 月○日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)説明会 県薬ホール 講師：高濱寛(日本薬剤師会生涯学習委員会副委員長)
 - 平成24年度薬剤師のための一般用医薬品基礎知識研修会 県薬研修室 講師：新垣理事
- 14 木○個別指導(2薬局) 県庁 社会保険医療担当：仲真良重氏
 - 那覇市国民健康保険運営協議会 那覇市役所 宮城理事
- 15 金○健康づくり支援事業「リーダー養成講習会」 北部会館 講師：大橋得二(北部地区薬剤師会会長)
 - 九州厚生局沖縄事務所所長来訪 県薬会長室 神村会長
 - テネリア新発売講演会 沖縄県医師会 共催：田辺三菱製薬(株)
 - 第8回OCEAN研究会 ザ・ナハテラス 共催：大日本住友製薬(株)
- 16 土○那覇地区薬剤師会設立総会 県薬ホール
 - 沖縄県中部地区CKD講演会 ちばなクリニックちばなホール 共催：中外製薬(株)
 - 県内薬局・病院における医療安全等の取り組み状況に関するPMDAからの視察訪問 くら虹薬局、すこやか薬局知花店、中頭病院 糸嶺理事、大城係長
- 17 日○PCP研究会 沖縄産業支援センター 共催：大塚製薬(株)
 - 平成24年度医療安全講習会 県薬ホール

- 17日○平成24年度医療安全講習会（宮古地区開催） シモジ薬局2階
- 18月○県内薬局・病院における医療安全等の取り組み状況に関するPMDAからの視察訪問 コ
ジャ薬局
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審
査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
 - 平成24年度医療安全講習会（八重山地区） 大濱信泉記念館（石垣市）
- 19火○県内薬局・病院における医療安全等の取り組み状況に関するPMDAからの視察訪問 はと
薬局
- 平成24年度財団法人沖縄県看護学術振興財団第2回理事会 沖縄県立看護大学教授会室
神村会長
 - 平成24年度第5回薬剤師学術研修委員会 県薬会議室
 - 平成24年度第4回医薬分業対策委員会 県薬研修室
- 20水○第17回日本アレルギー協会九州支部沖縄県部会講習会 ホテル日航グランドキャッスル
共催：MSD(株)
- 21木○個別指導（2薬局） 県庁 社会保険医療担当：仲真良重氏
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査
委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏・照屋林一郎氏
 - 第277回沖縄皮膚科勉強会 ザ・ナハテラス 共催：グラクソ・スミスクライン(株)
 - 平成24年度第5回開局委員会 県薬会議室
- 22金○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城・與那嶺
- 第3回九山地区調整機構会議 博多都ホテル 仲真委員長（薬学生受け入れ委員会）
 - 沖縄県糖尿病学術講演会 ザ・ナハテラス 共催：MSD(株)
- 23土○日本薬剤師会第80回臨時総会（24日迄） ホテルイースト21 神村会長・吉田副会長
- 24日○平成24年度診療ガイドライン薬剤コース・スクーリング 県薬ホール 主催：女性薬剤
師部会
- 25月○平成24年度沖縄県献血推進協議会 県庁 前濱理事
- 応能会費についての会長諮問委員会 県薬会議室
 - 日薬会費の徴収方法についての打合せ会議 県薬会議室 神村会長、吉田副会長、山里常
任理事、糸嶺理事、山城係長
- 26火○第2回沖縄県精神疾患対策検討会 県庁 比嘉佳穂子（自殺対策検討委員会）
- 沖縄県交通遺児育成会募金贈呈式** 琉球新報社 神村会長、大城係長
 - 平成24年度第4回沖縄県自然環境保全審議会 県庁 宮城理事
 - 保健福祉委員会 県薬研修室
- 28木○会報取材 ルーナ薬局（浦添市） 鈴木・宮城（広報委員会）、大城係長
- 沖縄県医療審議会及び法人部会 県庁 神村会長
 - 第40回沖縄うふいち会 ザ・ナハテラス 共催：アステラス製薬(株)
 - 沖縄クレメジン学術講演会 沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ 共催：田辺三菱
製薬(株)
 - 開局委員会主催第4回スキルアップ研修会 県薬研修室

平成25年3月

- 1 金○日本薬剤師会生涯学習支援システム（JPALS）説明会 大濱信泉記念館 亀谷常任理事（講師）、神村会長
- 2 土○沖縄リハビリテーション栄養研究会 沖縄コンベンションセンター 共催：沖縄リハビリテーションセンター病院
- 日本薬剤師会生涯学習支援システム（JPALS）説明会 シモジ薬局 亀谷常任理事（講師）、神村会長
- 3 日○第3回在宅医療に関する講習会 県薬ホール
- 4 月○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当：仲真良重氏
- 財務委員会 県薬研修室 仲程みちの税理士、事務局金城・與那嶺・宮城
- 平成24年度第4回医薬品事故・過誤対策委員会 県薬会議室
- 日本薬剤師会 地域・在宅医療委員会 日薬 大橋得二
- 5 火○第12回定例幹事会 県薬会議室
- 6 水○社会保険診療報酬支払基金沖縄支部幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 神村会長
- 6 水○なごみ会主催県民健康フェア実行委員会 沖縄県医師会館 笠原理事、稲福係長
- 7 木○平成24年度「健康づくり支援事業」第2回推進委員会 沖縄県総合福祉センター 吉田久子
- 7 木○平成24年度第5回選挙管理委員会 県薬会議室
- 8 金○沖縄県薬物乱用防止協会理事会 ホテル美ら琉球 山城理事
- 9 土○監事監査 県薬会議室 神村会長、大城・伊敷両監事、山里常任理事、事務局金城・與那嶺・宮城
- 第12回定例理事会 県薬研修室
- 10 日○FAXコーナー担当者意見交換会 県薬研修室
- 11 月○平成24年度第5回沖縄県自然環境保全審議会 県庁 宮城理事
- T P P交渉参加問題に関する緊急合同会議 自治会館 神村会長、山城係長
- 12 火○沖縄県保健医療協議会 県庁 江夏常任理事
- 13 水○平成24年度地域・在宅医療等担当者全国会議 日薬 笠原理事
- 沖縄県マクロライド講演会 ザ・ナハテラス 共催：大正富山医薬品(株)
- 14 木○平成24年度第4回地域医療支援病院運営委員会 ロワジールホテル&スパタワー那覇 神村会長
- 沖縄県医師会広報委員会主催マスコミとの懇談会へ参加 沖縄県医師会館会議室 宮城・前濱（広報委員会）、大城係長
- 15 金○沖縄県福祉保健部薬務疾病対策課との打ち合せ会議（薬と健康の週間について） 県庁 事務局稲福・大城両係長・金城・宮城
- 17 日○開局委員会主催第5回スキルアップ研修会 県薬研修室 講師：三浦雅一（北陸大学薬学部長）
- 18 月○PRATNER Study フォーラム in 沖縄 ちばなクリニックちばなホール 共催：大日本住友製薬(株)
- 災害対策全国担当者会議（仮称） 日薬 吉田副会長（日薬委員）・姫野理事・仲真良重
- 19 火○保険薬局部会役員会 県薬部会室

- 21木○琉球放送(株)土方浄アナウンサーより取材(薬剤師不足について):3月25日(月)
ラジオ放送 県薬会議室 宮城理事、大城係長
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部第1次審査 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当:仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 沖縄県医療審議会 ホテルチュラ琉球 神村会長
- 沖縄発達障害学術講演会 ホテル日航グランドキャッスル 共催:日本イーライリリー(株)
- 22金○平成24年度社会保険指導者研修会 アルカディア市ヶ谷 社会保険医療担当:仲真良重氏・宮城幸枝氏
- 24日○第78回沖縄県薬剤師会臨時代議員会 県薬ホール
- 25月○T P P交渉参加に関する合同事務局会議 J A会館 山城係長
- 26火○管理者会議 県薬研修室
- 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部第2次審査 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部審査委員会室 社会保険医療担当:仲真良重氏・宮城幸枝氏・照屋林一郎氏
- 27水○会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局金城・宮城
- 平成25年度薬学生受入指導薬剤師研修会 県薬研修室
- 薬学生実務実習受入委員会 県薬研修室
- 28木○平成24年度医薬分業指導者協議会 厚生労働省講堂 池間・吉田(医薬分業対策委員会)
- 平成24年度日本薬剤師会学校薬剤師部会全国担当者会議 日本薬剤師会 渡嘉敷学校薬剤師部会長
- アイミクス発売記念講演会 A N Aクラウンプラザホテルハーバービュー 共催:大日本住友製薬(株)
- 琉球放送(株)土方浄アナウンサーより取材(ジェネリック医薬品について):4月1日(月)
ラジオ放送 県薬会議室 我喜屋理事、大城係長
- 29金○第4回那覇・浦添コ・メディカル糖尿病セミナー 浦添市産業振興センター・結の町 共催:MSD(株)
- 平成24年度第6回広報委員会 県薬会議室

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成25年2月

- 1金○参議院議員島尻あい子を励ます会 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ 神村会長、吉田久子幹事長、城間副幹事長、江夏副幹事長、大城桂子監事、宮城敦子総務
- 6水○日本薬剤師連盟平成24年度第2回臨時評議員会 東京ホテルグランドヒル市ヶ谷 吉田久子幹事長
- 20水○第23回参議院議員選挙「羽生田たかし先生激励会」 ロワジールホテル那覇 神村会長、吉田洋史総務、山里勇氏、事務局山城
- 26火○翁長政俊後援会議会報告会と新春の集い 沖縄ハーバービューホテル 吉田久子幹事長、事務局山城

平成25年3月

- 16土○熊本県薬剤師連盟若手薬剤師フォーラム(17日迄) 熊本県 玉城武範氏
- 25月○参議院議員衛藤晟一氏来訪 県薬 会長室 神村会長、吉田久子幹事長、城間副幹事長
- 27水○平成24年度定時評議員会 東京スクワール麹町 神村会長

タンメーの話し

海を吹きわたる風で波ノ上宮と大書されたのぼりがパタパタと快良い音で参拝者の心を掻き立てている。下の鳥居から続いている人、老若男女、いや善男善女は、多くの思いを胸に坂を社殿目指して登る。反対側の下りの方には多くの出店が並んで、オモチャや焼き鳥、焼きソバの店からは香ばしい香りで客の足を引き止めている。

やっと神殿に着いて、賽銭箱に小さいお金を投げてから手を合わせる。沢山の願い事を心の中でブツブツ言いながら、小銭でこんなに多くの願いは虫が良すぎるかな。この次は、紙幣で紙飛行機でも作って飛ばそうかなと一瞬思ったものである。破魔矢を買い、おみくじを引くと小吉だった。

中庭に出ると大きな看板が目についた。「巳年の生年（トゥンビー）の方へ厄払い、祈願式を行います。希望の方は社務所へ申し出て下さい。」という内容である。参拝に来た3人の内、妻を除く2人は巳年である。トゥンビーの2人は三女が数えて25才、小生は73才と言う訳である。ええー小生73才！驚きである。今更ながら、月の走（ハイ）や馬の走を思い知らされる。ともかく良い機会だからと妻に強く勧められて受けることにした。10名くらいの人数がまとまって神前に案内された。衣冠ひたたれ、木靴の神官が太鼓でドンドンと始まりを報せてから低頭している小生達の頭の上を一括払い、イヤ、お払いしてから大神様へ向かい、ひとり一人の住所、氏名を読み上げ、有難い祝詞を奉上する。最後に玉串を献じ、二礼二拍手一礼で儀式を閉じる。終始、神妙にしていると心が洗われ清められる。御利益もありそうな気もするから不思議である。小生は、もう一度73才にもなっちゃたかとおつぶやいた。

ウチナーにも人生50年という時代があったようである。50代になると男はタンメータイと呼ばれるのを少なからず好んだようである。長い髭を貯え、これを手でしごきなが

らタバコボンにメーナチ、キセルで煙草を吹かす。杖はつくのではなく持つ。そして、子や孫達からアーサリ、ウーサリとウトムチされるタンメーは短命に聞こえるものの、年寄り扱いでなく、長老、つまり位の感覚が強かったかもしれない。流行歌（はやいうた）の一節だったか定かではないが、こんなのを聞いた事がある。

「堂グワァ屋敷のタンメーサイ、アタビー
トイガメンソラニー」

自然が豊かな時代だったが食生活は貧しかったのだろう。アタビーは貴重な蛋白源だったのだろう。アタビーを食べているとは世間体が悪く、気の合う者同士がこっそりと夕方になったら捕獲に連れ立ったのだろう。自然は豊かであるから田んぼや池にはワンサといたのだろう。中華料理では「田んぼのにわとり」といって、その唐揚げは美味という。このように知識が豊富で愛敬のあるタンメーは大事にされたものだが、その時代タンメー（短命）でもあった。

小生達が若かりし頃、同窓会だ、何だという時、必ず2次会があった。そんな時、よく桜坂かんばん大学教養学部に移したものである。その時、60代になった先輩がふと言った。60なれー50代とは違ってクタンディヤヒッチーフッカな抜けないよ」60や年の弱〜い、70や月の弱〜い、80や日の弱〜いやさ。君達も若いうちはチバリヨーとおっしゃるから素直にうなずいたものである、去年だったか先輩に久しぶりにある会合でお会いした。お久しぶり、お元気でしたかと挨拶すると、杖の先で地面をトントンと突いて「こいつと仲良くしている日弱〜いやっさー」ところで君は70才になったかな。70ナレー年又弱〜い、80ナレー月又弱〜い、90ナレー日又弱〜いドー」とおっしゃる。先輩はひとつくらいで確か90才になられるはずだから実感がこもっている。それにしても前の言葉より10オステージアップしている。こ

れはこの数十年の医学の進歩や食生活、環境の改善と様々な要因で10才の伸びは当然だろうと考えられる。体感温度ならぬ体感疲労と変わったのだろう。

2～3年前に27ショックというものがあった。これは男女ともに日本一の長寿県だった沖縄が男性が27位に転落したのである。今年になって更に順位が29位となってしまった。何故だ。鉄軌道の無い沖縄は、急速に車社会となり、2～300メートル先の用事も車のエンジンをかける有様で歩かない全く歩かない。第2の心臓と言われる足をフューマラーにしてしまった。また27年間に亘る米国統治でアメリカ文化が浸透し食も若者、子供達がハンバーガー、フライドチキン、ポテトチップス、コーラなどアメリカンな食文化に馴染んでしまった。この状態を放置しておくともメタボとかワタブーとか、これでは生活習慣病は必至であり、長寿県どころか短寿県になり下がってしまう。ショックである。しかし、これではいけないと研究者、県のリーダー、町グラーのおばあなどあらゆるところからウチナー伝統食文化見直し広げてゆこうと取り組み、歩け歩けの運動も盛んになっている。明るいきざしで希望の扉を開けるものである。期待したい。

小生の同級生の模範の仲間でもこの際トシビー祝いをやろうということになった。何も特別ではなく毎月の例会に少し色をつけるだけ。ここまで頑張った自分達お互い褒め合う内々の祝いである。当日は学生時代の思い出話で盛り上がった。70代は人生の黄昏時と言われるが、どうだろうか。太陽が西に傾く時に雨雲のような雲がたれ、暗くなるだろうが、また明るい青空、白い雲、真っ赤な太陽がこれらをあかね色に染めて明るく美しく輝く一時もあるだろう。そのどちらになるかは心の持ちよう。健康状態で決まるかもしれない。この時代を美しい夕日の時にしたいものである。日没は必ずやってくる。人生劇場の幕が降りてからアンコールの拍手があっても叶わないことであるから充実した時間とすることだ。

今、就職、婚活が若者の間の大きな関心事だが、この頃、終活という言葉が聞こえてくる。認知症、生活習慣病などで身辺自立ができず、介護を受ける。もうちょっと先にはお墓事情もあるタンメー達を取り巻く問題を考えるのが終活のようだ。これはちょっぴり寂しくなるのでここではパスしよう。

トウシビーを迎えた皆さん、おめでとう。次のトウシビーを目指して楽しくゆっくりと歩みましょう。 橋の下

沖縄県薬剤師会事務局に課長が誕生！



平成25年4月1日付で山城英人氏が課長に就任しました。



平成24年度沖縄県薬剤師会新入会員

(平成24年10月～平成25年3月末日入会分)

氏名	勤務先	出身校
安里 智子	こくら虹薬局	名城大学
池間 功	ビオラ薬局	昭和薬科大学
伊差川 サヤカ	琉球大学医学部附属病院薬剤部	九州大学
今吉 雄二	JRJ薬局 那覇店	昭和薬科大学
上原 由紀	同仁薬局	東北薬科大学
上間 睦美	がねこ薬局	武庫川女子大学
遠藤 紀子	アイアイ薬局	北陸大学
大城 吉幸	すこやか薬局 ももやま店	岡山大学
上運天 奈帆	そうごう薬局 浦添当山店	徳島文理大学
神元 繁守	あかみち薬局	城西大学
川崎 亮	ナチュラル薬局	新潟薬科大学
喜友名 優希	すこやか薬局 野嵩店	昭和薬科大学
金城 真貴	いじゅの木薬局	第一薬科大学
久貝 千賀子	にしばる薬局	北里大学
久高 祐一	小禄病院	岐阜薬科大学
久手堅 奈央	こくら虹薬局	名城大学
阪本 まゆ子	あにも調剤薬局	北海道医療大学
島袋 悦子	ゆい薬局 長田店	昭和薬科大学
清水 智子	経塚薬局	熊本大学
鈴木 直志	宜野湾薬局 広栄店	第一薬科大学
平良 真理子	くまのみ薬局	北里大学
舘石 公孝	琉球大学医学部附属病院薬剤部	徳島文理大学
田中 祐二	吉原東洋薬局	帝京大学
谷澤 大輔	レモン薬局 美里店	北海道医療大学
當間 樹一郎	ハーブ薬局	徳島文理大学
當銘 成光	レオナ薬局	名古屋市立大学
當山 結	おれんじ薬局 真栄里店	第一薬科大学
渡慶次 美織	ビオラ薬局	昭和薬科大学
渡真利 国浩	沖縄県立宮古病院	城西大学
富山 さゆり	すこやか薬局 中頭店	城西大学
仲里 昌樹	ピュアハートファーマシー	北海道医療大学
仲宗根 かおり	ゆい西崎薬局	第一薬科大学
中村 昌義	そうごう薬局 浦添当山店	昭和薬科大学
西田 喜美子	あさひの薬局	東日本学園大学
西盛 竜平	りんりん堂薬局	明治薬科大学
比嘉 綾子	ひまわり薬局 上地店	福山大学
古堅 直也	すこやか薬局 宮城店	日本薬科大学
眞栄城 瑞恵	すこやか薬局 久米店	徳島文理大学
松元 玉緒	ビオラ薬局	長崎大学
村上 淳一	北部地区薬剤師会会営薬局	神戸学院大学
森田 益史	おれんじ薬局 真栄里店	九州大学
屋嘉 裕子	ハーブ薬局	昭和薬科大学
吉田 寛子	すこやか薬局 田原店	福岡大学

(五十音順、敬称略)

編 集 後 記

<ボールペン遍歴> 文房具の雑誌が人気だという。筆者は文房具にこだわる。機能はもちろん、材質、デザインにもすぐれていなければ使いたくない。自分でも偏屈な気がして少々気が引けていた。巷に同好の志が多数いることは知って一安心した。前にボールペンではジェットストリームが一番とか書いたが、その後、続々と新製品が出てきて気になりました。消せるボールペンとのふれ込みでフリクションボールペンが出たので使ってみた。確かに、書いたあとに消せるのは良いが、書き味がどうしても気に入らなかった。次に、使い終わった後に中のインク部分だけを入れ替えて再び使う商品を見つけた。PILOT HI-TEC-Cだ。エコロジーの現世にぴったりと思いついて使ってみた。0.3mm芯は細字で手帳に書き込むのに良かったがインクの出が悪い。0.5mmを使ってみたらさすがで、結局0.4mmに落ち着いた。インクが早く減るのは気に入らなかったが、その他には満足していた。ところがある日、手帳をポケットに入れたまま洗濯してしまった。せっかく書き込んだ予定やメモが綺麗に洗い流されていた。水性インクはこんな欠点がある。結局、もとのジェットストリームに戻った。芯が0.7mmと太めなのが唯一の気に入らない所であったが、いつの間にか0.5mm芯が発売されている。しばらくはこれで行くことになるだろう。(亀)

先日、南風原町商工会35周年記念事業の講演会「金城哲夫生誕の地、南風原とウルトラマン」で、司会とシンポジウムのコーディネーターをつとめた。出ずっぱりでハードだったが、有意義な時間を過ごせたと思う。金城哲夫氏(故人)は南風原の出身で、ウルトラマンを産みだした脚本家のひとりである。シンポジウムでは金城哲夫にちなんで「脚本賞」の提案があった。驚くことにその実現化に向けて商工会や行政が動いているという。ひとつの意見が、情熱とタイミングを味方にして大きな力を巻き込んで行くのを見たような気がした。ちなみに金城哲夫氏の実家は「那覇の奥座敷」として著名な料亭「松風苑」。敷地内には在りし日の金城哲夫氏の書斎がある。南風原が生んだ偉大な脚本家の生涯を垣間見ることができる。(クララ)

4月は入学式や入社式など新しいことが始まる季節ですね。保育園に通ってる息子は、りす組からうさぎ組へ進級しました。私の職場はいわゆるひとり薬剤師の小さな薬局で、特に何も変わらぬ4月1日でした。しかし4月は新しいスタートの月です!職場でも何か新しいことを考えまして、調剤棚のレイアウトを使いやすいように変えてみようと思いつきました。合間を見てはせっせと薬の箱を移動したりコピー用紙の置き場を変えたりとやってみたものの、どうもじっくりこなくて結局もとの位置に戻しました。時間だけ浪費した結果になりましたが、まあ新しいことをしようという心掛けが大事なのだと自分に言い聞かせて終了したとある4月の出来事でした。(クロップ)



誌上ギャラリー(裏表紙)

上:「五人扶持の松」

撮影地:北陸大学教養別館“林鐘庵”

photo by 川満 直紀

中央:「小さな図体に大きな花」

内なる力をどうだとばかりに主張しているようです。

photo by 亀谷 浩昌

下:「古城」

水墨画 by 吉川 敏男

飛行機と新幹線を乗り継いで、長野に行つて帰ってきた。1泊だけの旅行ではあったが、私にとって、まず「行こう!」と決心する事が大事であった。長野は私にとって、とても懐かしく特別な場所。小学校、中学校時代は林間学校で霧ヶ峰の山荘へ、高校時代は浅間山近くの追分の山荘で合宿、大学時代は白樺湖湖畔の山荘で合宿、課外授業等々たくさんの青春時代の思い出のある場所であった。沖縄に来てからず〜と長野に旅行に行きたいと思いついてきたが、とても遠いという先入観があって、なかなか行く決心がつかなかったのだ。しかし、行ってみるとあっけないほど長野は近かった。新幹線に乗ると「東京」「大宮」「軽井沢」(駅前にはあの一度は行ってみたいアウトレットモールが広がっていた!!)そして「長野」である。「宝くじはまず買わなければ絶対に当たらない」の理屈でやってみようと思うことは、まずやってみなくては。やってみなければ、そこから先に進むことは出来ない。考えてばかりいても何も変わりはない。行動する事の大切さを痛感した今日この頃である。(ピアノ)

「葉の正しい使い方」が保健体育の授業に入り、生徒に話す機会をもらった。家族、友人にも喫煙者がおらず、タバコが身近ではない私にとって、学校で使うためとはいえ、タバコを購入するのはかなり抵抗があった。近所のコンビニで、話し慣れたオーナーが居ることを確認し、勇気を出して、学校で…と言いつつ購入する。が、「えー、タバコ吸うの?」と言われる始末。しかし、タバコのパッケージの可愛く、綺麗な事にはびっくりである。若い子が持っているも、お菓子の見聞違う。タバコといえ、えんこさんが結婚した。レストランウエディングは、出席者全員の祝福に包まれた温かい、素敵な式だった。えんこさんお幸せに…会場はもちろん禁煙でした…



(TOMO) えんこさん(新婦) ご結婚おめでとう!

沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937

■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932

■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567

■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第263号 平成25年4月14日発行

◇次号は、平成25年6月中旬発行予定です。

発行人: 沖縄県薬剤師会 会長 神村武之

編集: 広報委員会 委員長/亀谷浩昌 委員/宮城敦子・池間記世・前濱朋子・砂川智子・鈴木聡子・鈴木一徳
久米島通信員/山城晶 宮古地区通信員/前里由紀子 八重山地区通信員/宮良善朗 事務局/大城喜仁

印刷: 有限会社 金城印刷

